

**土地分類基本調査（土地履歴調査）  
説明書**

**大阪西北部**

**5万分の1**

**平成25年3月**

**国土交通省 国土政策局 国土情報課**

# 土地分類基本調査（土地履歴調査）説明書「大阪西北部」

## 目次

はじめに

1	調査の概要	1
1.1	調査の目的	1
1.2	調査方法及び成果の概要	1
1.3	調査実施体制	2
2	調査地域の概要	3
2.1	地域の位置	3
2.2	地域の行政概要	3
2.3	地域の特性	6
3	調査地域の地形及び土地の開発、保全及び利用との関係	9
3.1	地形概説	9
3.2	地形細説	12
3.3	地形と土地の開発、保全及び利用との関係	16
3.4	地形と災害及び保全との関係	18
4	土地利用の変遷の概要	20
4.1	過去の土地利用状況の概要	20
4.2	土地利用変遷の概要	28
5	調査地域の災害履歴概要	35
5.1	災害履歴概説	35
5.2	災害履歴詳説	36
6	調査成果図の見方・使い方	42
6.1	地形分類図	42
6.2	土地利用分類図	45
6.3	災害履歴図	45
6.4	成果図面の使い方	46
7	引用資料及び参考文献	48
7.1	引用資料	48
7.2	参考文献	52

資料

災害年表

はじめに

国土交通省国土政策局では、国土調査の一環として、全国の都道府県と協力して「土地分類基本調査」を実施し、5万分の1地形図を単位に、土地の自然的条件（地形、表層地質、土壌）等について調査した結果を、調査図及び調査簿として整備・提供してきました。

近年、集中豪雨や大地震の多発により、毎年のように水害や地盤災害が発生していますが、これらの災害の中には、土地本来の自然条件を無視した開発や利用に起因するものもあり、土地の安全性に対する関心が高まっています。

このため、平成22年度から新たな土地分類基本調査として、地域ごとの土地の改変履歴や本来の自然地形、過去からの土地利用変遷状況、自然災害の履歴等に関する情報を総合的に整備し、土地の安全性に関連する自然条件等の情報を、誰もが容易に把握・利用できる土地分類基本調査（土地履歴調査）に着手しました。

この「大阪西北部」図幅の調査成果は、近畿圏地区の土地分類基本調査（土地履歴調査）の1年目の成果として、平成24年度に実施した調査の結果をとりまとめたものです。本調査成果については、行政関係者や研究者等の専門家だけでなく、学校教育・生涯学習・地域の活動等に取り組む団体や住民の方々、居住地域の地形状況を知りたい方、新たに土地の取引をされようとする方々、不動産の仲介・開発等に関係する企業の方々、その他地域の自然環境、土地利用、災害等に関心を持つ方々等に、幅広く利用していただきたいと考えています。

最後に、調査の実施にあたり終始ご指導をいただいた地区調査委員会の皆様をはじめ、ご協力をいただいた関係行政機関等の方々に深く感謝申し上げます。

平成25年3月

国土交通省 国土政策局 国土情報課

# 1 調査の概要

## 1.1 調査の目的

本調査は、自然災害等に対する土地の安全性に関連して、土地本来の自然条件等の情報を誰もが容易に把握・活用できるように、過去からの土地の状況の変遷に関する情報を整備するとともに、各行政機関が保有する災害履歴情報等を幅広く集約し、総合的な地図情報として分かりやすく提供することにより、災害等にも配慮した土地取引、災害時の被害軽減、被災しにくい土地利用への転換を促すなど、安全・安心な生活環境の実現を図ることを目的とする。

## 1.2 調査方法及び成果の概要

これまでの土地分類基本調査の調査項目に加え、土地の開発等により不明となった土地本来の自然地形や改変履歴等を明らかにするとともに、過去からの土地利用変遷情報を整備し、災害履歴情報を編集するため、主に次の方法により以下の土地状況変遷及び災害履歴情報からなる調査成果を作成した。

調査成果図は、概ね縮尺5万分1の精度で編集し、同縮尺の地形図を背景図として地図画像（PDF ファイル）を作成した。

### (1) 調査方法

土地状況変遷情報は、5万分の1都道府県土地分類基本調査成果や国土地理院作成の土地条件図等既存の地形分類図、明治以降に作成された旧版地図、昭和20年頃の米軍撮影空中写真、最新の空中写真等を活用して作成した。

災害履歴情報は、地方公共団体や関係行政機関等が調査した水害、地震災害等の現地調査図等の資料より編集した。

### (2) 本調査による調査成果

#### ① 土地状況変遷情報

##### i. 自然地形分類図

土地本来の自然地形である山地・丘陵地、台地、氾濫原低地、自然堤防、旧河道、湿地、三角州・海岸低地等に分類した図である。なお、現況の人工改変地にあっては改変前の自然地形を復元し分類している。

##### ii. 人工地形分類図

人工改変地を埋立地、盛土地、切り盛り造成地等に分類した図である。なお、本調査成果図では、人工地形及び自然地形を重ねて「人工地形及び自然地形分類図」にまとめて作成している。

##### iii. 土地利用分類図（2時期分）

明治・大正期（現在から概ね120年前）と昭和40年代（同概ね50年前）の2時期の土地利用状況を復元し分類した図である。

#### ② 災害履歴情報

##### i. 災害履歴図

浸水状況、地震被害等の既存資料図を基に、被害分布等の図にとりまとめて編集し

たものである。

ii. 災害年表・災害関連情報

年表形式の災害記録、災害に関する文献情報等を取りまとめたものである。

③ 調査説明書

調査成果図等の利用の参考とするため、本説明書を作成している。

④ 調査成果図 GIS データ

各調査成果図の GIS データを作成している。

### 1.3 調査実施体制

#### (1) 地区調査委員会（順不同 敬称略）

委員長

海津 正倫 奈良大学 文学部 教授（名古屋大学 名誉教授）

委員

（学識経験者）

加藤 茂弘 兵庫県立人と自然の博物館 主任研究員

高田 将志 奈良女子大学大学院 人文科学系 教授

三田村 宗樹 大阪市立大学大学院 理学研究科 教授

（関係府県・政令市）

奈良県 地域振興部 地域政策課

京都府 農林水産部 農村振興課

大阪府 都市整備部 総合計画課

兵庫県 県土整備部 まちづくり局 都市政策課

大阪市 計画調整局 開発調整部

堺市 危機管理室

神戸市 危機管理室

#### (2) 実施機関

① 計画機関

国土交通省 国土政策局 国土情報課

② 受託機関

地形分類調査・土地利用履歴分類調査

アジア航測株式会社

災害履歴調査

北海道地図株式会社

実施管理

株式会社 パスコ

## 2 調査地域の概要

### 2.1 地域の位置

本調査の対象地域（以下「本図幅」という。）は、国土交通省国土地理院発行5万分の1地形図の「大阪西北部」の全域、北緯  $34^{\circ} 40' \sim 50'$ 、東経  $135^{\circ} 15' \sim 30'$ （座標は日本測地系<sup>※</sup>）、大阪府北西部、兵庫県南東部にまたがる面積約  $375\text{km}^2$  の範囲である。図 2-1 に本図幅の位置図を示す。

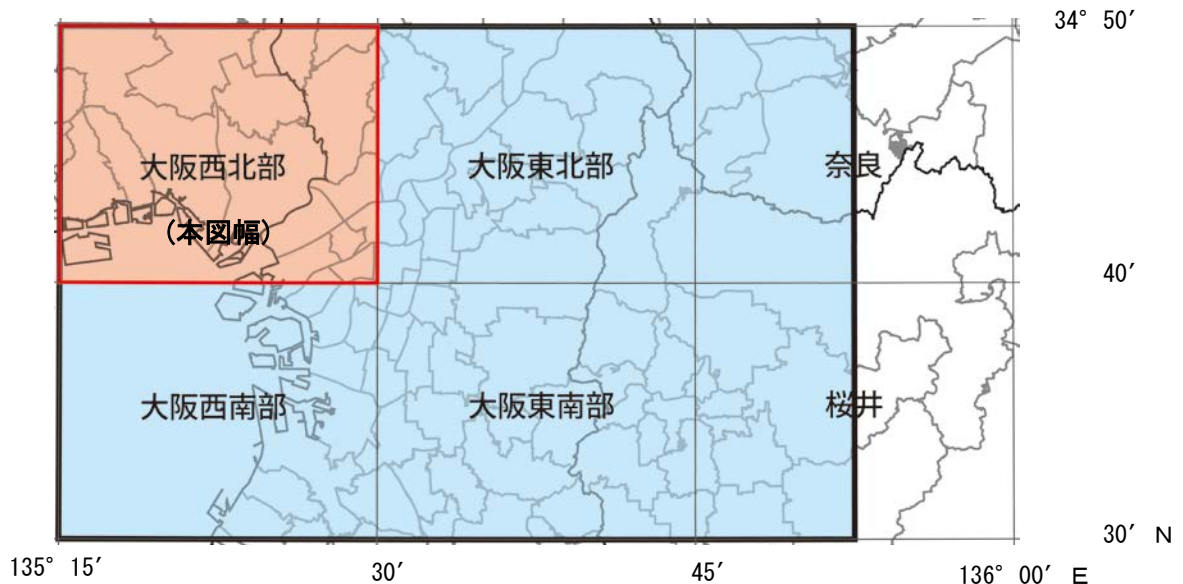


図 2-1 調査位置図

### 2.2 地域の行政概要

本図幅に関係する市区町村は、大阪府の5市（大阪市、豊中市、池田市、吹田市、箕面市）、兵庫県の7市（神戸市、尼崎市、西宮市、芦屋市、伊丹市、宝塚市、川西市）である（図 2-2、表 2-1）。

<sup>※</sup>世界測地系（日本測地系 2000）では、 $34^{\circ} 40' 11.7'' \sim 34^{\circ} 50' 11.7'' \text{ N}$ 、 $135^{\circ} 14' 50.0'' \sim 135^{\circ} 29' 49.9'' \text{ E}$  の範囲。

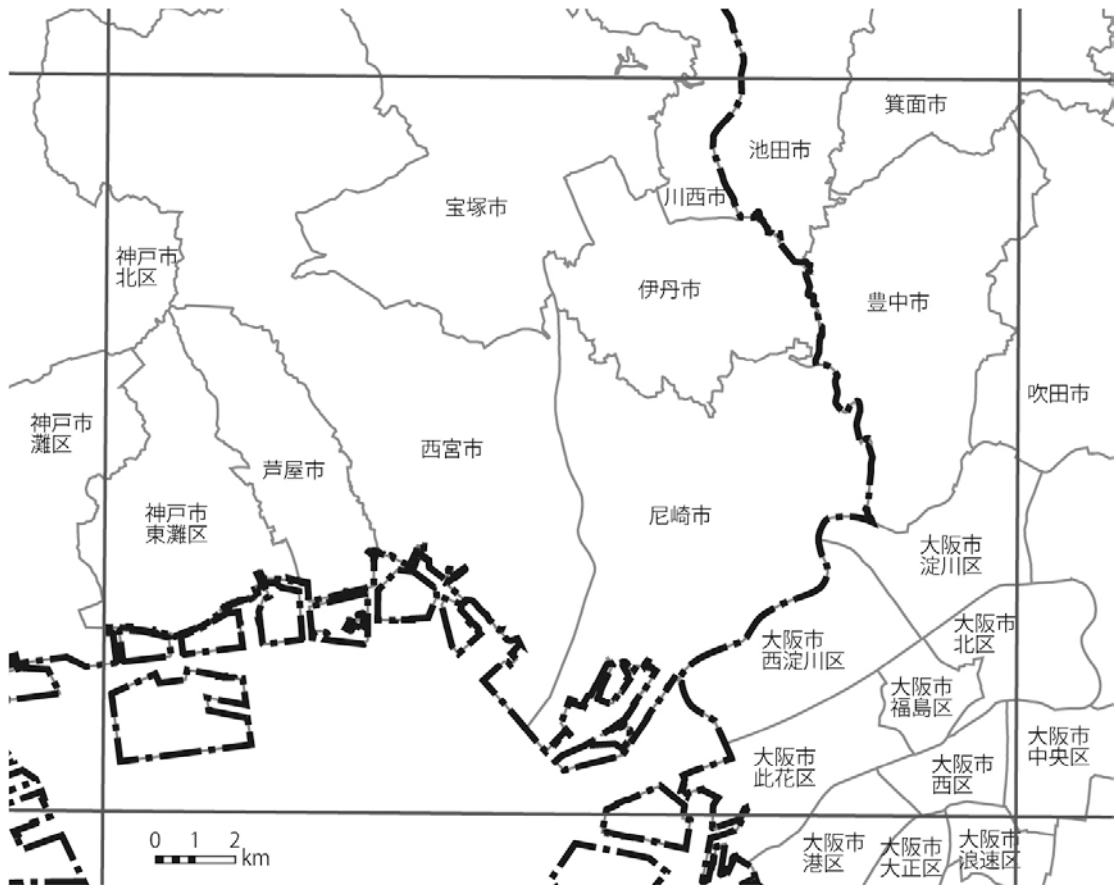


图 2-2 關係市区町村

表 2-1 関係市町村（面積、人口、世帯数）

	図幅内面積	行政面積	行政区域内世帯数	同 人口総数
	ha	ha	世帯	人
大阪府	10,716	22,758	884,982	1,826,325
大阪市	4,903	8,516	457,548	838,490
福島区	467	467	36,120	69,876
此花区	961	1,694	30,003	66,368
西区	486	520	49,577	86,743
港区	104	790	40,398	83,358
浪速区	0	437	43,889	64,432
西淀川区	1,422	1,423	43,997	97,333
淀川区	1,087	*1,264	92,535	172,694
北区	375	1,033	68,660	114,657
中央区	1	888	52,369	83,029
豊中市	3,441	*3,638	169,155	391,536
池田市	1,152	2,209	45,232	103,491
吹田市	249	3,611	157,948	360,194
箕面市	971	4,784	55,099	132,614
兵庫県	26,676	65,191	935,646	2,183,196
神戸市	4,272	30,307	247,424	572,147
東灘区	3,122	3,037	94,762	211,816
灘区	451	3,240	65,571	134,531
北区	699	*24,030	87,091	225,800
尼崎市	5,060	5,020	210,763	450,264
西宮市	8,334	*9,996	204,463	484,702
芦屋市	1,838	*1,847	40,252	94,358
伊丹市	2,498	2,497	78,052	197,395
宝塚市	4,047	*10,180	93,521	228,235
川西市	627	5,344	61,171	156,095
行政区画外	72			
計	37,462	87,949	1,820,628	4,009,521

1. 図幅内面積は、本調査における図上計測値。

2. 行政面積は国土地理院「平成 24 年全国都道府県市区町村面積調」（平成 24 年 10 月 1 日現在）による。

\*印は、境界未定のため総務省「全国市町村要覧平成 24 年版」記載の便宜上の概算数値を参考値とした。

3. 人口、世帯数は平成 22 年国勢調査人口集計結果を元に各県で算出された推計値（平成 24 年 10 月 1 日現在）である。



## 2.3 地域の特性

### (1) 沿革

本図幅は、全域がかつての摂津国に属しており、明治4（1871）年廃藩置県により、大阪府、兵庫県がそれぞれ設置された。当初、大阪府、兵庫県ともかつての摂津国のみで構成されていたが、大阪府は明治14（1881）年に現在の奈良県を吸収合併していた堺県を吸収し、その後明治20（1887）年に奈良県を再分離して現在の区域となった。また、兵庫県は明治9（1876）年に飾磨県を統合するとともに、豊岡県の一部及び淡路島を移管され、現在の県域が確定した。

本図幅内は、古くから西国街道が図幅東北部から西南部に斜行するように整備され、京都と山陽、九州を結ぶ交通の要衝でもあった。江戸時代には、大坂を經由せず西国へ抜ける脇街道として西国大名の参勤交代に利用され、繁栄した。現在でも、旧街道に並行するように国道171号が整備され、京都―神戸間を結んでいる。また、海岸に接する臨海地域も、現在の大阪港、神戸港など古くから海運の要衝として栄え、特に神戸港は江戸末期の開国以降、国際港湾として繁栄した。

明治期以降は、鉄道整備が進み、大阪―神戸間を結ぶ路線が多く開業している。明治7（1874）年には、現在の東海道本線大阪駅―神戸駅間が開業し、それと並行して海側に現在の阪神本線（明治38（1905）年開業）が、山側に現在の阪急神戸本線（大正9（1920）年開業）がそれぞれ運行し、現在、各沿線には住宅地等が連続して連なっている。また、大阪港から神戸港に至る臨海部は、近年埋立てが進み、阪神工業地帯の一翼をなす一大工業地帯へと変貌を遂げている。

### (2) 気候

大阪の気候を大阪地方気象台の平年値（表2-2）からみると、年降水量は1,342.8mmで、月降水量は3～10月にかけて100mm/月を超え、梅雨期の6、7月と秋霖期の9月にはそれぞれ160mm/月を超えている。月降水量の極小は12月の43.0mm/月で、12月～2月の降雨は40～70mm/月で推移している。年平均気温は15.6℃、最寒月（1月）の日最低気温の月平均は0.5℃、最暖月（8月）の日最高気温の月平均は33.2℃となり、瀬戸内海式気候に属する温暖な気候となっている。

風速は3、4月に極大となるが、月ごとの変動は大きくない。風向は、年間では北東の頻度が最も高いが、8月には南東の風が卓越し、夏場の高温の一因となっていると考えられる。また、年間日照時間は1,856.4時間で、1～2月に少なく120h/月を少し越える程度となっているが、夏季の8月に極大（202.6h/月）となり、200h/時を超えている。

表 2-2 大阪の気候表 (1981~2010 年の平年値)

要素	降水量	気温			風向・風速		日照時間
	(mm)	(°C)			(m/s)		(時間)
	合計	平均	最高	最低	平均	最多風向	合計
統計期間	1981 ~2010	1981 ~2010	1981 ~2010	1981 ~2010	1981 ~2010	1981 ~2010	1987 ~2010
資料年数	30	30	30	30	30	30	24
1月	47.1	4.4	8.8	0.5	1.7	西南西	123.2
2月	64.1	4.9	9.6	0.8	1.8	西南西	120.5
3月	111.1	8.2	13.3	3.6	2.0	北東	152.8
4月	102.9	14.0	19.7	8.7	2.0	北東	180.1
5月	148.9	18.7	24.4	13.7	1.8	北東	181.8
6月	195.5	22.6	27.7	18.5	1.7	北東	139.4
7月	174.8	26.5	31.4	22.8	1.6	西南西	160.6
8月	118.0	27.8	33.2	23.7	1.8	南東	202.6
9月	163.1	23.7	28.8	19.9	1.8	北東	153.3
10月	115.9	17.6	22.8	13.3	1.6	北東	156.0
11月	68.6	11.9	16.9	7.5	1.5	北東	139.1
12月	43.0	6.8	11.6	2.7	1.6	西南西	134.1
年	1,342.8	15.6	20.7	11.3	1.8	北東	1,856.4

「日本気候表 (気象庁, 2011)」による大阪地方気象台の平年値。

統計期間は 1981~2010 年の 30 年間。但し日照時間は、1987~2010 年の 24 年間。

### (3) 地形及び地質の概要

本図幅の地域は、中央構造線を底辺とし、大阪湾・琵琶湖・伊勢湾を含む三角形の地域 (近畿三角帯) に含まれ、その西側の一边を成す敦賀-淡路島の境界線が図幅西部を通過している。

本図幅北西部に広がる六甲山地は、山頂に平坦な隆起準平原面を持ち、山地の南東側にも一段低い平坦面が広がっている。山地の縁辺部の標高差は大きく、特に山地南側では六甲断層系の一部を構成する急斜面が海岸線近くまで迫っている。図幅北部には、北摂山地の南端が分布し、南側の台地・低地と急傾斜で接している。六甲山地の南東部から北摂山地の南部には丘陵地・台地が広がり、それらを猪名川、武庫川がそれぞれ南北に開析して氾濫原低地を形成している。また、本図幅の丘陵地・台地では、東北東-西南西方向の有馬-高槻構造線に由来する直線的な断層地形をみることができる。図幅南東部の淀川河口付近では、三角州及び干拓地等の低地が広がり、さらに海岸線に沿っては近年埋立地が拡大し、阪神臨海工業地帯の一角を形成している。

地質的にみると、六甲山地から北摂山地にかけては広い範囲で花崗岩類と有馬層群等の火山性岩石が分布し、これらを基盤岩類として固結堆積物の神戸層群、未固結堆積物の大阪層群、段丘堆積物等が被覆している。神戸層群は非海成の地層群で 3 累層からなるが、本図幅内では下位層が一部にみられるのみである。大阪層群は非海成の堆積物か

らなる下部亜層群、中部亜層群と海成の堆積物をはさむ上部亜層群に大別され、六甲山地の周縁などに広く分布する。段丘を構成する堆積物は高位・中位・低位の3つの段丘地形を形成し、本図幅中部から北東部にかけての台地上に広く分布する。また、河川沿いや海岸沿いの低地部は、礫・砂・粘土からなる沖積層に覆われ、その中に礫及び砂からなる砂州・砂堆・自然堤防等の微高地が点在している。

(5万分の1土地分類基本調査「大阪西北部」説明書による)。

### 3 調査地域の地形及び土地の開発、保全及び利用との関係

本調査では土地条件図などの既往資料や空中写真判読などに基づき、自然地形分類図と人工地形分類図を作成した。

自然地形分類図については、現在、改変済みの範囲についても、終戦直後の米軍空中写真や明治・大正期の旧版地形図などから、もともとの地形を復元・図化している。人工地形については低地での宅地開発による盛土地、丘陵地などでの大規模改変地（人工平坦地）、人工平坦地での旧谷地点の位置、宅地開発などによる切土地といった改変された地点を新旧の空中写真や地形図の比較判読の上、抽出・図化した。

#### 3.1 地形概説

本図幅は一般に「大阪平野」と呼ばれる低地帯の北西部に位置し、自然地形は山地・丘陵地・台地・低地などから構成されている（図 3-1）。本図幅は兵庫県東南部と大阪府西部の県境にあたり、北部から北西部にかけて広がる山地を源流として、図幅中央部を南北に流れる武庫川・猪名川流域と、本図幅東側の「大阪東北部」図幅から流下してくる淀川の河口付近を主体としている。

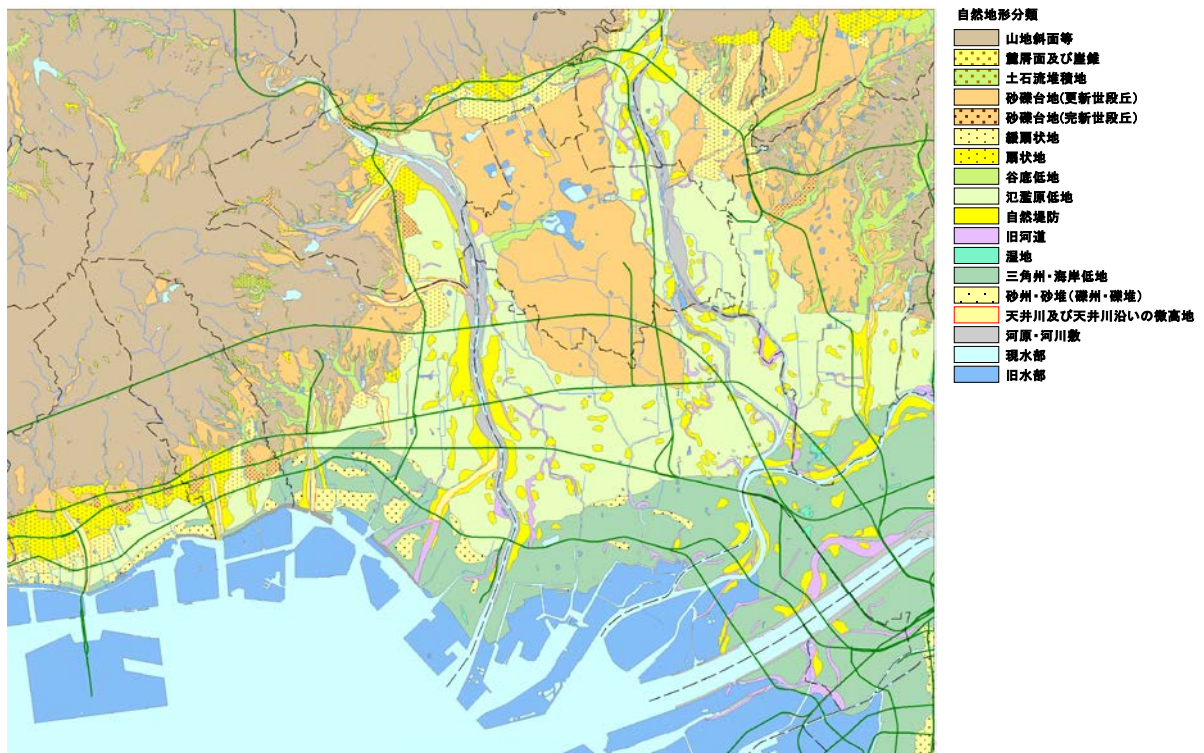


図 3-1 大阪西北部地域の自然地形分類図

全体では、図幅北部に広がる山地から高度順に山地・丘陵地・台地・低地へと遷移する一般的な地形をしている。山地は、低地や台地と北東から南西方向に分布する六甲・淡路島断層帯や東西に分布する有馬 - 高槻構造線で、台地や低地と接している（地震調査研究推進本部、[http://www.jishin.go.jp/main/yosokuchizu/kinki/p27\\_osaka.htm](http://www.jishin.go.jp/main/yosokuchizu/kinki/p27_osaka.htm)）。本図幅の地形は主に第四紀になってから発達した構造地形を示している。武庫川・猪名川沿いを中心に氾濫原低地が広がっており、淀川の河口域に広がる三角州から大阪湾沿

いには海岸低地が広がる。

山地は、本図幅北西部の 400～900m の急峻な山地と北部の 200～450m で低平な山地があり、北西部の山地は主に花崗岩から構成され、北部の山地は主に花崗岩の貫入が著しい古生界の砂岩・粘板岩・頁岩から構成されている。台地や低地との境界付近には断層が分布しており、北西部の山地では断層作用と花崗岩の風化により土砂崩れや地すべりが頻発している。

本図幅東北部に見られる丘陵地は大阪層群（第三紀末から第四紀はじめの堆積岩層）からなっており、主に火山灰と湖沼成・河成の粘土・シルト・砂・礫で構成されている。山地と丘陵地の間には有馬 - 高槻構造線（藤田・笠間、1982）が東西方向に分布しており、丘陵地内にも図幅南側（本図幅外）の上町断層の北側の一部と考えられる南北に分布する佛念寺山断層があり、丘陵地が東西に分かれている。

台地は大阪層群から構成されており、北西部に山地東麓から由来し南東へと標高約 50～250m で、また北部の山地から由来し南へと標高 10～50m 程度で広がる。いずれも山地の造山運動に伴い傾動地塊になっている。

低地は武庫川や猪名川といった河川沿いの氾濫原低地と、淀川の河口付近など大阪湾沿岸の沖積低地に大別される。低地内に含まれる微地形や構成物質、生じる災害の種類は低地の構成要素によって性質が異なる。大阪湾沿いには人工改変地が広がっている。本図幅では成立年代、土地利用の違いなど既存文献を参考に、人工改変地を干拓地地域と埋立地地域にそれぞれ区分した。

表 3-1 は、本図幅における市区ごとに自然地形の面積を集計した結果である。

表 3-1 本図幅内の市区別地形分類面積

区分	大阪府																
	大阪市福島区	大阪市此花区	大阪市西区	大阪市港区	大阪市浪速区	大阪市西淀川区	大阪市淀川区	大阪市北区	大阪市中央区	豊中市	池田市	吹田市	箕面市	山形町	高槻市	守口市	
丘陵地	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6.68	2.13	0.58	1.89	-	-	-	-
山地	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.03	-	0.01	-	-	-	-
谷地	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.01	-	-	-	-	-	-
台地	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6.70	2.16	0.58	1.90	-	-	-	-
砂礫谷地(更新世砂丘)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7.87	2.45	0.05	4.17	-	-	-	-
砂礫谷地(全新世砂丘)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.38	-	-	-	-	-	-	-
谷地 計	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8.24	2.45	0.05	4.17	-	-	-	-
扇状地	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.20	2.77	-	0.48	-	-	-	-
扇状地	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.29	-	1.38	-	-	-	-
谷底低地	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4.29	0.42	0.24	1.46	-	-	-	-
氾濫原低地	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9.27	2.06	1.32	-	-	-	-	-
自然堤防	0.18	-	-	-	0.85	1.00	-	-	-	1.96	0.51	0.11	-	-	-	-	-
旧河運	0.52	0.54	-	-	0.65	0.68	0.06	-	-	0.36	0.09	0.09	-	-	-	-	-
湿地	-	-	-	-	-	0.12	-	-	-	0.10	-	0.03	-	-	-	-	-
三角州・海岸低地	3.94	0.74	2.96	-	4.44	7.54	2.57	-	-	1.54	-	-	-	-	-	-	-
砂州・砂堤(礫州・礫堤)	-	-	0.58	-	-	0.06	0.19	0.01	-	0.27	0.05	-	-	-	-	-	-
天井川及び天井川沿いの扇状地	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.06	0.28	-	-	-	-	-	-
河原・河川敷	0.13	0.22	-	-	0.27	0.43	0.24	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
浜	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
低地 計	4.18	1.51	2.94	-	6.21	9.84	3.05	0.01	-	19.04	6.47	1.79	3.32	-	-	-	-
現水部	0.49	2.50	0.24	0.26	3.29	1.02	0.70	-	-	0.93	0.93	0.05	0.22	-	-	-	-
旧水部	0.00	5.00	1.69	0.78	4.73	0.02	-	-	-	0.50	0.11	0.03	0.10	-	-	-	-
水部 計	0.49	8.10	1.92	1.04	8.01	1.04	0.70	0.00	0.00	1.43	0.44	0.08	0.32	-	-	-	-
合計	4.67	9.61	4.86	1.04	14.22	10.87	3.75	0.01	0.01	34.41	11.52	2.49	9.71	-	-	-	-

「自然地形及び人工地形分類図」の図上計測による

区分	兵庫県										行政圏外	総計
	神戸市東灘区	神戸市灘区	神戸市北区	尼崎市	西宮市	芦屋市	伊丹市	宝塚市	川西市	三木市		
丘陵地	12.16	3.13	6.96	0.01	42.31	9.43	0.16	21.14	0.45	-	-	106.40
山地	0.04	0.01	0.09	-	0.22	0.07	-	0.24	0.04	-	-	0.76
谷地	0.06	-	0.12	-	0.88	0.21	-	0.15	-	-	-	1.53
台地	12.25	3.14	6.57	0.01	43.51	9.71	0.16	21.53	0.48	-	-	108.69
砂礫谷地(更新世砂丘)	1.22	0.92	0.20	3.96	5.73	1.62	14.98	7.10	1.58	-	-	50.95
砂礫谷地(全新世砂丘)	0.32	-	-	-	0.00	0.47	-	0.73	-	-	-	1.90
谷地 計	1.54	0.02	0.20	3.96	5.73	2.09	14.98	7.83	1.58	-	-	52.85
扇状地	0.97	0.03	-	-	1.02	0.65	0.13	2.28	0.15	-	-	8.69
扇状地	3.49	0.04	0.02	-	0.19	0.92	-	1.67	0.00	-	-	7.89
谷底低地	-	-	0.13	-	2.64	0.32	0.50	0.63	0.26	-	-	10.90
氾濫原低地	2.48	-	-	20.84	8.96	0.64	5.56	3.07	2.24	0.00	0.00	58.44
自然堤防	0.02	-	-	3.64	2.51	0.28	0.57	0.28	0.66	-	-	12.77
旧河運	-	-	-	1.29	0.64	-	0.26	0.02	0.26	-	-	5.45
湿地	-	-	-	-	0.03	-	-	-	-	-	-	0.27
三角州・海岸低地	0.32	-	-	-	0.03	0.45	-	-	-	-	-	40.00
砂州・砂堤(礫州・礫堤)	0.72	-	-	9.93	6.76	0.45	-	-	-	0.01	-	4.40
天井川及び天井川沿いの扇状地	0.45	0.03	-	0.99	2.33	0.12	-	-	-	0.01	-	3.27
河原・河川敷	-	-	-	1.36	1.14	0.26	0.13	0.70	0.05	-	-	7.06
浜	0.06	-	0.07	1.36	0.19	0.12	1.27	1.39	0.21	-	-	4.40
低地 計	8.51	0.09	0.21	37.46	27.74	3.75	8.41	10.05	4.04	0.05	0.05	157.63
現水部	0.18	0.02	-	3.23	2.19	0.29	0.68	0.82	0.16	-	-	17.59
旧水部	8.74	1.24	-	5.94	4.16	2.55	0.75	0.25	0.02	0.67	0.67	37.86
水部 計	8.92	1.27	0.00	9.17	6.36	2.83	1.43	1.07	0.18	0.67	0.67	55.45
合計	31.22	4.51	6.89	50.60	83.34	18.38	24.98	40.47	6.27	0.72	0.72	374.62

### 3.2 地形細説

本図幅における山地・丘陵地などの地形地域区分は 20 万分の 1 土地分類調査「兵庫県」（経済企画庁、1974）および 10 万分の 1 土地分類基本調査「大阪府」（国土庁、1976）の地形分類図や、5 万分の 1 土地分類基本調査（地形分類図）「大阪西北部・大阪東北部（大阪府）」（大阪府、1978）、「大阪西北部」（兵庫県、1996）や「土地条件調査報告書（大阪地区）」（国土地理院、1983）などのその他の文献などを参考に、全域で統一した区分と呼称を採用した（図 3-2）。

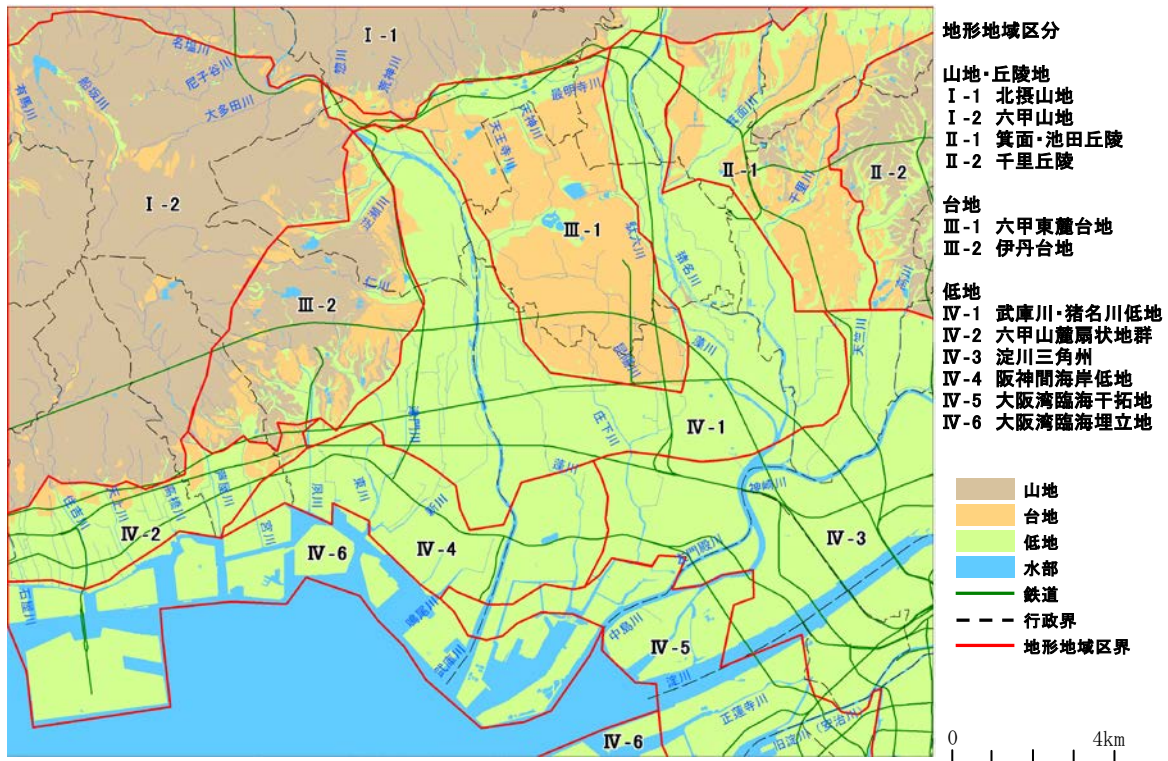


図 3-2 本地域の地形地域区分

#### (1) 山地

**北摂山地**は六甲山地の北方に位置し、本図幅には標高 500m 以下の低平な南側の一部が含まれている。一部に花崗岩の貫入が見られるが、主に流紋岩と一部古生層から構成される山地群である。山地の南端には有馬 - 高槻構造線が東西方向に分布していて、台地や低地に対して急斜面で接している。猪名川を境に東は古生代の堆積岩、西は石英粗面岩から構成される。本図幅では武庫川支川の名塩川沿いの谷底低地を六甲山地との境とした。

**六甲山地**は神戸市街地の背部に位置し、東西約 30km・幅約 8km の平面形をした、南北両斜面に数条の断層を持つ傾動地塊山地であり、本図幅では山頂の六甲山 (931m) を含む山地東側が含まれる。主に中生代末期の花崗岩で構成され、六甲山山頂付近の 700～900m 地点、南東斜面の 400～500m 地点には風化表土層の形成されにくい特異な悪地（バッドランド）がある。六甲山地は花崗岩の風化による禿地や露岩が顕著であり、六甲・淡路島断層帯などの断層による造山作用により破碎されていて、土砂の排出が著しい。本図幅では南部の扇状地帯に接する山地部を南限とし、20 万分の 1 地形分類図「兵庫県」（経済企画庁総合開発局、1973）の地形区分に従い、六甲東麓台地との境を決定した。

## (2) 丘陵

**箕面（みのお）・池田丘陵**は複数の丘陵地系の複合地であり、箕面市から池田市にかけて広がる扇状地群、及び箕面川から安威（あい）川に至る間に広がる北摂山地山麓部やそれに伴う丘陵地から構成される標高 30～100m 程度の丘陵地である。丘陵地は背後の北摂山地から低地部に向けて南側へ標高を下げている。大阪層群と段丘の堆積層から構成されており、段丘堆積層は風化の進んだ中～大円礫と粘土からなる厚さ 3～4m の黄褐色の礫層で構成される。猪名川支流の千里川沿いなど河川による開析を受け、樹枝状に谷底低地が発達している地点が見られる。丘陵地内の谷底低地や丘陵地内に見られる浅い谷などでは盛土による人工改変がなされている。本図幅では低地に接する台地面と谷底低地までを範囲とし、土地条件調査報告書（大阪地区）（国土地理院、1983）の地形区分に従い、千里丘陵との境を決定した。

**千里丘陵**は箕面・池田丘陵から連なり低地に囲まれた丘陵地である。丘陵地の標高は 30～100m 程度で、北から南へと標高を下げる。丘陵地内は神崎川支流の兎川や天竺川などの河川によって開析が進み、小支谷が複雑に発達し、丘陵地頂部から谷底低地までの側壁斜面が 25～30° の傾斜になっている箇所がある。大阪層群は緩傾斜に堆積し、土砂地盤の箇所では人工改変が盛んに行われている。大阪市内との地理的關係から開発が活発に行われたため、現在ではかつての自然地形はほとんど見られず、大規模な人工改変地の代表的な地域となっている。本図幅では低地に接する台地面・谷底低地までを北限とし、箕面・池田丘陵との境は箕面・池田丘陵に記載したものに従った。

## (3) 台地

**伊丹台地**は北摂山地の南部に広がり、標高 100m 前後の北部から標高 10m 程度の南部にかけて緩やかに南の沖積地に遷移する傾動地形の更新世台地である。台地は武庫川・猪名川の古い扇状地や氾濫原低地の堆積物であると考えられ、垂円礫、垂角礫の大小雑多な礫による無層理の礫層で構成されている。武庫川沿いは花崗岩・流紋岩性の礫がほとんどを占めるが、猪名川沿いは古生層や中生層のチャート・粘板岩・凝灰岩など多種の岩石で構成されている。河川による礫粒の差異は、河川上流の地質の差によるものと考えられる（藤田・笠間、1982）。礫が堆積した後、北摂山地との境界付近にある有馬 - 高槻構造線による造山作用により、北部が盛り上がり現在の傾動地形が形成された。台地の東西の縁には南北に流れる猪名川・武庫川による急峻な河食崖が見られ、台地面上に浅い谷が多数広がっている。また、台地北部の北摂山地山麓には北摂山地由来の扇状地が形成されている。本図幅では北摂山地南麓の台地・扇状地までを北限とし、低地に接する台地面までを伊丹台地とした。

**六甲東麓台地**は六甲山地の東麓から南麓にかけて点在する段丘群と六甲山地に点在する土石流段丘からなる台地であり、標高は 10～325m 程度で標高にばらつきがある。中央付近には安山岩がドーム状残丘として残る甲山（309m）があり、古い火山の痕跡を残している。六甲山地と接する北部では土石流堆積物が段丘面を構成しているが、南部では開析が進み谷底低地が発達している。台地は上位面、下位面、低位面に区分され、おもに大阪層群で構成される。上位面は大阪層群のほか、花崗岩質の礫や植物遺体を挟む淡緑色のシルト層、安山岩質の礫を含む大阪層群など、場所によって構成する地質に



ばらつきがある。甲山を挟んで南北に北東から南西に走る2条の断層があり、甲山と台地面の間で断層由来の明確な傾斜面が見られる。北側の断層は芦屋断層、南側の断層は甲陽断層と呼ばれる（藤田・前田、1971）。以前は水田などへの利用が主であったが、宅地開発のための切土・盛土などの人工改変が広い範囲で行われたため、旧地形などが判断できないほど地形が変化している。

#### (4) 低地・盆地

**武庫（むこ）川・猪名（いな）川低地**は武庫川、猪名川沿いに形成された低地で、兵庫県宝塚市・西宮市付近、大阪府池田市付近に広がる。武庫川付近は武庫川に六甲山地から流れる逆瀬川と仁川が合流する地点であり、逆瀬川・仁川の溪口部では扇状地が形成され、河川は天井川となりそれに沿って微高地が形成されている。武庫川も途中で天井川となっている部分があり、天井川沿いに微高地を形成している。川沿いには自然堤防が生じており、氾濫原低地の中でも旧河道沿いに自然堤防が点在している。シルト・粘土層のほか、砂層や砂礫層があり、これらは六甲山麓・武庫川低地に見られるものと同じ武庫川によって運搬された花崗岩の風化物と考えられる。猪名川沿川は沖積段丘や扇状地性低地・自然堤防・氾濫原低地・後背低地など多種多様な自然地形によって構成されている。沖積段丘の表面の地質は主に粘土質であるがその下に砂礫層が広がっており、この砂礫層が沖積基底の礫層と考えられる。それ以外の地点では砂層、礫混じりの砂層のように砂質が主に構成しており、シルトなどの粒径の細かいものも見られる。河川沿いの氾濫原低地では盛土による人工改変が多くなされている。

**六甲山麓扇状地群**は六甲山南麓部に位置し、六甲山南斜面から流下する複数の小河川が形成した複合・合成扇状地である。住吉川や芦屋川などの河川由来の扇状地や緩扇状地が広がる。おもに六甲山地由来のマサ土（花崗岩風化土）で構成されており、一部では砂州・砂堆の発達した箇所もある。神戸市街地として、住宅地などの人工改変を受けている。既存資料では扇状地群の形成過程の解釈の違いにより、扇状地内の地形が異なっているが、本図幅では主に最新の既存資料である5万分の1土地分類基本調査「大阪西北部」（兵庫県、1996）と空中写真の補足判読により、六甲山麓扇状地群の地形を区分した（図3-3）。扇状地内に含まれる台地は既存資料の中で1万年前の後氷期以降にできた段丘面とされているため、本図幅では更新世段丘として取り扱った。

**淀川三角州**は淀川低地の西南側に広がる淀川の堆積作用によって形成された三角州である。淀川からの土砂が縄文時代末期の約5,000年前に海進していた大阪湾を埋め立てる形で発達し、砂州・砂堆を伴って現在の大阪湾へと接続した。淀川からの堆積物による沖積層であり、主に砂層から構成される。低地内は後背湿地を含めて埋め立てによる人工改変が行われており、おもに都市部として利用されている。

**阪神間海岸低地**は武庫川下流の氾濫原低地と砂州・砂堆を伴って大阪湾沿いに広がる海岸低地の複合した沖積低地である。砂州・砂堆は武庫川右岸にある旧天井川から夙川にかけて海岸線と並行しており、旧河道沿いにも比高0.5m程度の砂州・砂堆がある。低地内を流れる夙川と東川は天井川になっており、武庫川右岸の旧天井川も0.5mほどの微高地になっている。地質は砂、シルト・粘土、砂礫などからなり、上部の沖積層は厚さ2~4mの礫を含む砂層になっている。一部に武庫川から運搬された花崗岩の風化物

が見られる。

大阪湾周辺は干拓・埋め立てなどの人工改変が進んでおり、上記の地形とは異なる属性を持っているため、その他の地形として別に記載することとした。大阪湾沿いの人工地は成立の違いにより、大阪湾臨海干拓地と大阪湾臨海埋立地にそれぞれ区分した。

**大阪湾臨海干拓地**は淀川の河口付近を中心に北西から南東方向にかけて広がる潮汐低地を干拓することで作られた人工改変地であり、干拓によって広大な新田開発が行われていた。17世紀頃から新田開発を目的とした干拓が進み、主に水田として利用されていたが、現在では盛土がなされ都市部としての利用が主となっている。地質は主に沖積層であり、厚い粘土層の上に砂層が堆積する構成をしている。近年では沖積層の圧密沈下・地下水の過剰汲み上げによる地盤沈下が起きており、現在でも対策が行われている。

**大阪湾臨海埋立地**は大阪湾に面した大阪市西部付近、兵庫県西宮市南部付近に広がる埋立地であり、本図幅では兵庫県側の埋立地が主に含まれる。兵庫県側は平坦地が少ないため古くから埋め立て事業が進められていた。六甲アイランド、ポートアイランドに代表される港湾施設、工場施設などの機能を主とした利用がなされており、兵庫県芦屋市南浜町や西宮市西宮浜など都市機能として利用されている地点もある。ポートアイランド・六甲アイランドは六甲山麓の開発によって発生した花崗岩土砂や大阪層群を埋め立て材として利用・造成された。芦屋川より西側の埋立地は背後の低地に対しての比高が小さいが、それ以外は背後の低地に対して2~4m程度の比高を持っている。

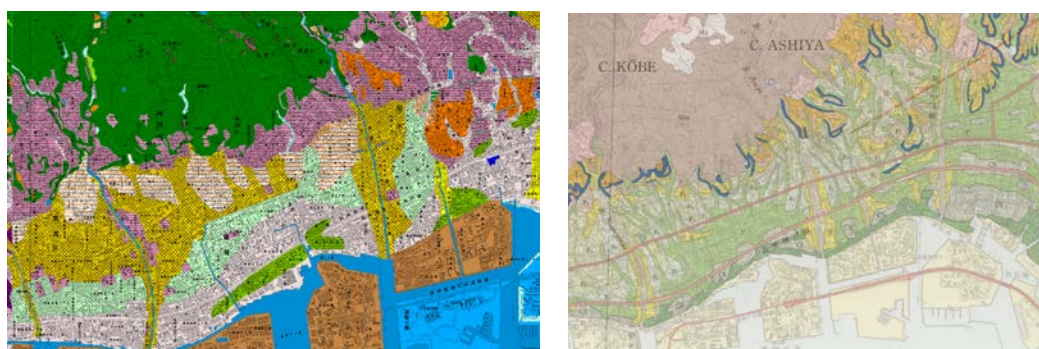


図 3-3 六甲山麓扇状地郡周辺の地形区分

左:1/25,000 土地条件図「大阪西北部」(国土地理院、1983)

右:1/50,000 地形分類図「大阪西北部」(兵庫県、1996)

### 3.3 地形と土地の開発、保全及び利用との関係

本図幅における人工地形を見ると、千里丘陵・六甲東麓台地などの丘陵地・台地を中心とした宅地開発を目的とした人工平坦地と、武庫川・猪名川低地や淀川三角州に代表される低地を中心とした盛土が目立つ（図 3-4）。西宮市街地や大阪市街地などの市街地周辺の海岸低地、氾濫原低地、一部の谷底低地は、自然堤防、砂州・砂堆などの微高地を除き、ほぼ盛土地になっている。旧河道や後背湿地といった微低地や低湿な地点も盛土され、宅地などへの利用がなされている。本図幅は南北に流れる武庫川や猪名川・本図幅東部に流れる淀川といった主要な河川を複数持ち、それらは西宮市や伊丹市などの都市部を流れている。天井川になっている河川もあり、降雨などの水害により氾濫した場合、浸水などの被害が生じる可能性が懸念される。大規模な切盛土周辺では地震の際に盛土部分が変形し、建物やライフラインに被害が及ぶことが考えられる。実際に 1995（平成 7）年の兵庫県南部地震の際には武庫川沿いなどの堤防・護岸の沈下や亀裂などの被害が生じており、水道などのライフラインに被害があったことが報告されている（総理府、2000）。

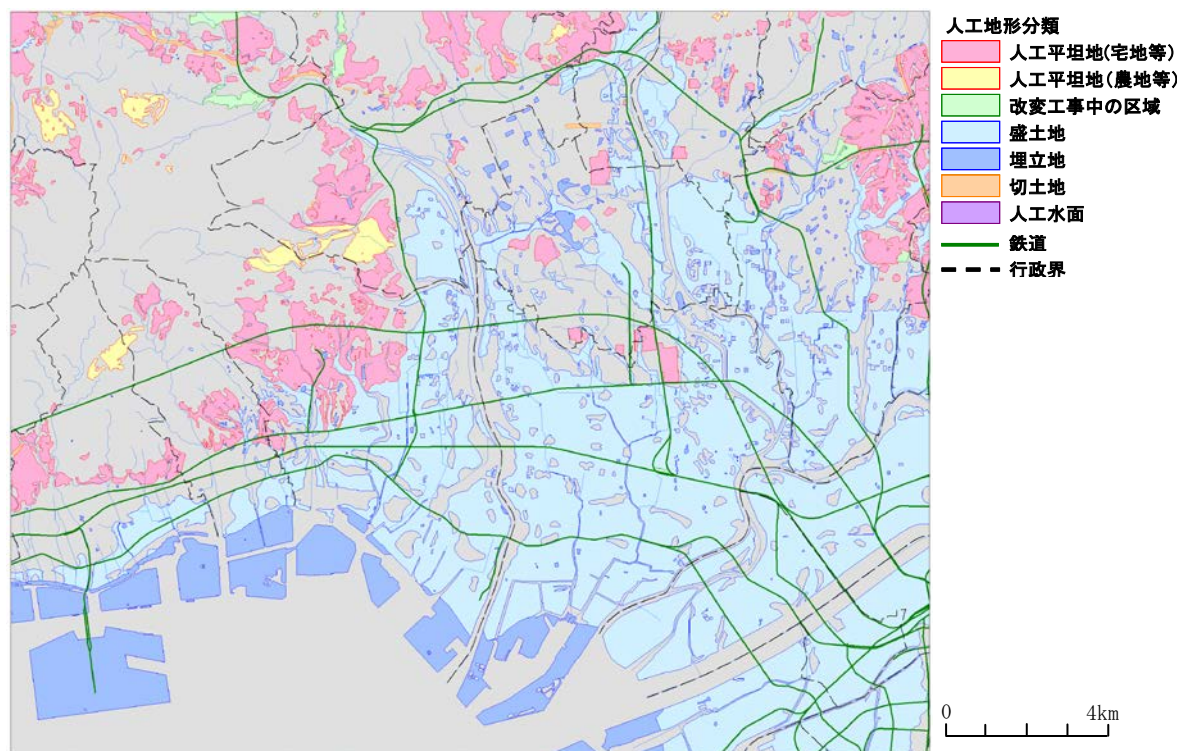


図 3-4 大阪西北部地域の人工地形分類図

丘陵地における人工改変は、主に住宅開発のための大規模造成に伴う人工平坦地（宅地等）である。千里丘陵や六甲東麓台地などの丘陵地では切り取った尾根部の土砂を谷部に盛土として用いることで平坦化している地点がある。平坦化の際に盛土を用いて造成された地点では、地震動による地盤の液状化や降雨による土砂災害が懸念される。また人工平坦地（農地等）が六甲山地や六甲東麓台地周辺に見られるが、主にゴルフ場用地として利用されている。

大阪湾沿いの改変は江戸期から始まっており、時代ごとの利用目的に応じて人工改変

が行われてきた（図 3-5）。最初期は江戸期頃で、主に新田開発を目的として干拓が行われた。その後、明治期以降に築港事業を目的とした埋め立てが大阪港周辺で行われ、工業地帯を目的とした埋め立てが神戸市や尼崎市周辺でも行われるようになった。現在では港湾機能への利用が主である。

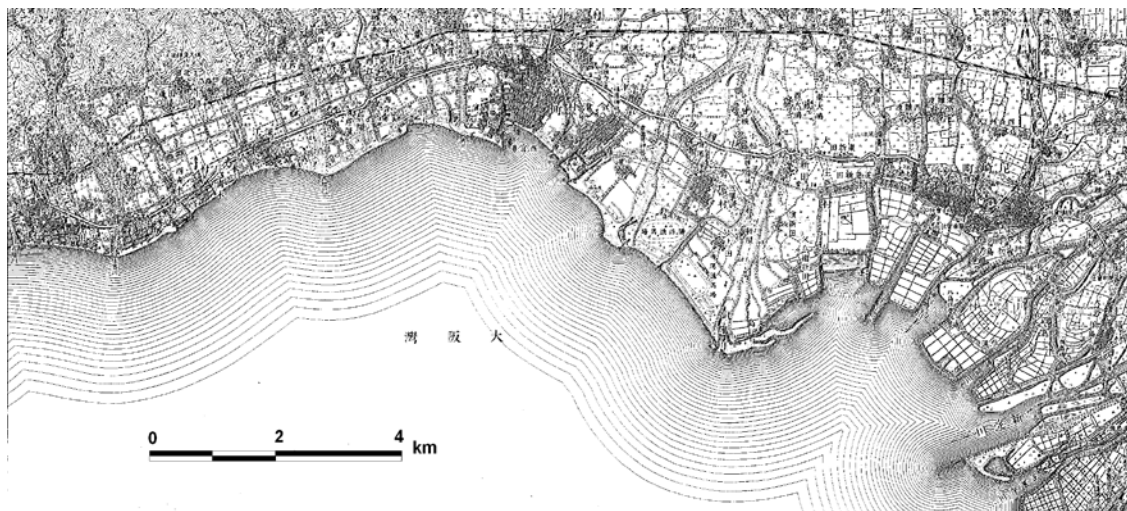


図 3-5 大阪西北部の旧海岸線 1/50000 大阪西北部(明治 42 年測図)

表 3-2 本図幅内の人工地形面積

(単位: km<sup>2</sup>)

分類	人工平坦地		盛土地	埋立地	切土地	改変工事中の区域	人工地形計(a)	自然地形計(b)	(a/b)%	
	宅地等	農地等								
丘陵地・山地	山地斜面等	23.10	2.71	0.03	-	0.76	1.28	27.88	106.40	26.2%
	麓斜面及び崖錐	0.17	0.02	0.01	-	-	0.01	0.20	0.76	26.7%
	土石流堆積地	0.25	0.05	-	-	-	-	0.30	1.53	19.3%
	山地・丘陵地 計	23.51	2.78	0.03	-	0.76	1.29	28.38	108.69	26.1%
台地	砂礫台地(更新世段丘)	6.91	0.73	3.15	0.00	0.15	0.09	11.03	50.95	21.7%
	砂礫台地(完新世段丘)	0.04	-	0.02	-	0.01	-	0.07	1.90	3.5%
	台地 計	6.95	0.73	3.17	0.00	0.16	0.09	11.10	52.85	21.0%
低地	緩扇状地	0.28	-	0.97	-	0.00	-	1.24	8.69	14.3%
	扇状地	0.34	-	-	-	0.01	-	0.35	7.99	4.4%
	谷底低地	1.25	0.03	6.69	0.02	0.06	0.06	8.11	10.90	74.4%
	氾濫原低地	0.03	-	52.40	-	0.03	0.03	52.50	56.44	93.0%
	自然堤防	-	-	0.00	-	-	-	0.00	12.77	0.0%
	旧河道	-	-	5.12	-	-	-	5.12	5.45	94.0%
	湿地	-	-	0.27	-	-	-	0.27	0.27	100.0%
	三角洲・海岸低地	-	-	39.86	0.00	-	-	39.86	40.00	99.7%
	砂州・砂堆(礫州・礫堆)	-	-	-	-	-	-	-	4.40	-
	天井川及び因井川沿いの微高地	0.08	-	0.02	-	-	-	0.10	3.27	3.1%
	河原・河川敷	0.09	0.10	1.54	-	-	-	1.72	7.06	24.4%
	浜	-	-	0.28	0.05	-	-	0.32	0.40	81.0%
低地 計	2.06	0.13	107.16	0.07	0.10	0.09	109.60	157.63	69.5%	
水部	現水部	0.00	-	0.01	-	-	-	0.01	17.59	0.1%
	旧水部	0.00	-	14.69	23.17	-	-	37.86	37.86	100.0%
	水部 計	0.01	-	14.70	23.17	-	-	37.87	55.45	68.3%
合計	32.53	3.64	125.06	23.24	1.02	1.47	186.95	374.62	49.9%	

「自然地形及び人工地形分類図」の図上計測による

人工地形の面積を改変前の自然地形の分類別に集計したものを表 3-2 に示す。集計結果より本図幅では約 50%が人工改変地であることがわかる。自然地形の中地形分類毎に

改変率を見ると、山地・丘陵地で約 26%、台地で約 21%、低地で約 70%、水部で約 68% となっている。

山地・丘陵地では宅地等への人工平坦地が約 24 km<sup>2</sup> となっており、山地・丘陵地での人工改変の 8 割以上を占めている。改変工事中の地点が約 1.3km<sup>2</sup> あるが、採石場が一部に見られるほかは宅地などを造成中の地点が主であり、今後宅地への利用が主となると考えられる。台地では山地・丘陵地同様に宅地等への人工平坦地が主であり、千里丘陵・六甲東麓台地などに見られる宅地造成による平坦地のほか、工場用地として利用されている地点がある。

低地では主に盛土が広くなされている。特に氾濫原低地や三角州・海岸低地では 90% 以上が盛土され、旧河道もほぼ全面が盛土されている。また、後背湿地では全面が盛土による土地改変されている。本図幅では住宅造成地などの平坦化（切土）によって出た土砂で谷部を盛土している地点（谷埋め盛土）が各所に見られるが、平坦化地において旧谷線が判断できるような箇所では、旧谷線を記入し旧谷が判断できるようにしている。

本図幅の旧水部は全面積が改変され、盛土、埋め立てされている。特に本図幅は淀川河口を中心に江戸期から干拓による新田開発が行われ、昭和期以降に工場用地への利用を目的とした海岸沿いの埋め立てが行われてきた。現在では干拓地は盛土され都市部としての利用が主となっているため、本地域の旧水部での人工改変に干拓地はなく、主に盛土・埋め立てになっている。また、丘陵地での宅地造成による溜池などの改修や埋め立てなども行われ、そのような地点はいずれも地盤条件が悪い。

### 3.4 地形と災害及び保全との関係

本図幅における地形条件と密接な関係を持つ自然災害には、地震による低地部の建物被害（軟弱地盤地での建物倒壊、地盤の液状化による被害など）、地形の人工改変による地盤災害（地震による造成地の崩壊、地盤変形など）、低地部の住宅地での水害被害（台風や豪雨時の河川氾濫による冠水など）があげられる。特に本図幅地域は過去に兵庫県南部地震で大きな被害が出ており、また、沿岸部では埋立地の比高が背後の低地より高いため、内水災害などの降雨災害による被害が長期化する可能性のある地点がある。

#### (1) 地震災害

本地域を含む近畿地方はたびたび大規模な地震に見舞われているが、最も顕著なものが 1995（平成 7）年に発生した兵庫県南部地震である。本図幅では主に兵庫県側の西宮市や芦屋市を中心に震度 7 の揺れが発生し、本図幅を含む兵庫県全体で死者約 6,400 名、負傷者約 40,000 名、全壊・半壊合わせて約 240,000 棟の被害が出ており、発生した当時は戦後最大の地震被害とされていた。家屋の被害は神戸市から海岸に沿って兵庫県東部に集中しており、人的被害とほぼ同様の範囲で発生した。瀬戸内沿岸では液状化現象が起これ、ポートアイランドや六甲アイランドなどの埋立地や臨海地区は液状化による噴砂現象がいたるところで発生し、地表は黄土色の水を含んだ土砂で覆われた。それ以外にも埠頭の沈下による神戸港の機能不全や道路の断絶、水道・ガスなどのライフラインの断絶などが発生している（総理府、2000）。

本図幅内は過去の災害を踏まえて道路の無電柱化や港湾機能の強化がなされている

が、今後も継続した対策がなされなければならない

## (2) 水害

本図幅内は河川が多く流れており、武庫川、猪名川周辺はたびたび氾濫被害が起きている。代表的なものとして、1934（昭和9）の室戸台風、1950（昭和25）年のジェーン台風、1983（昭和58）年の台風10号などがあげられる。1983（昭和58）年の台風10号では武庫川の氾濫により、宝塚市、西宮市を中心として床上・床下浸水が300棟以上発生し、死者・行方不明者が9名発生している（兵庫県、武庫川周辺における水害に関する記録）。武庫川や猪名川などの河川の周辺は市街地の拡大に伴い、浸水被害を受けやすい氾濫原低地や谷底低地、海岸低地などの低地にも宅地が立地しており、河川氾濫などに対する対策が不可欠である。

## (3) 地盤災害

本地域では前述のとおり、兵庫県南部沖地震の際に埋め立て地周辺で地盤の液状化現象が発生している。地盤の液状化現象により、地震の水平動が減衰しポートアイランドなどで被害が減少した可能性があるとする資料もあり（「阪神・淡路大震災調査報告書」、地盤工学会, 1996）、建物の倒壊やライフラインの断絶など地盤の液状化による影響は大きい。

## 4 土地利用の変遷の概要

### 4.1 過去の土地利用状況の概要

#### (1) 明治 42 (1909) 年頃 (現在から概ね 100 年前) の土地利用

本図幅において発行日が最も古い地形図は、国土地理院の地形図図歴リストによると、大正 2 (1913) 年縮図の 5 万分の 1 地形図「大阪西北部」<sup>1</sup>である。この地域では、明治 41 (1908) ~43 (1910) 年に 2 万分の 1 地形図も作られていた(「大阪西北部」図幅は明治 42 (1909) 年測図、同 44 (1911) 年発行)。2 万 5 千分の 1 地形図はそれより 20 年以上後の昭和 7 (1932) 年頃に部分修正測図、同 9 (1934) 年頃に発行された。

明治期の土地利用分類図(第 1 期)は、図歴リストの 5 万分の 1 地形図のうち図面状態が良好であり、修正は部分的で基本的な内容は測図時点が反映されている明治 42 (1909) 及 3 年測図、大正 3 (1914) 年一部修正の 5 万分の 1 地形図「大阪西北部」と、明治 43 年測図の 5 万分の 1 地形図「神戸」(明治期の地形図図郭のずれを補正するため<sup>2</sup>)を選定して、地形図判読により土地利用分類を行ったものである(図 4-1)。

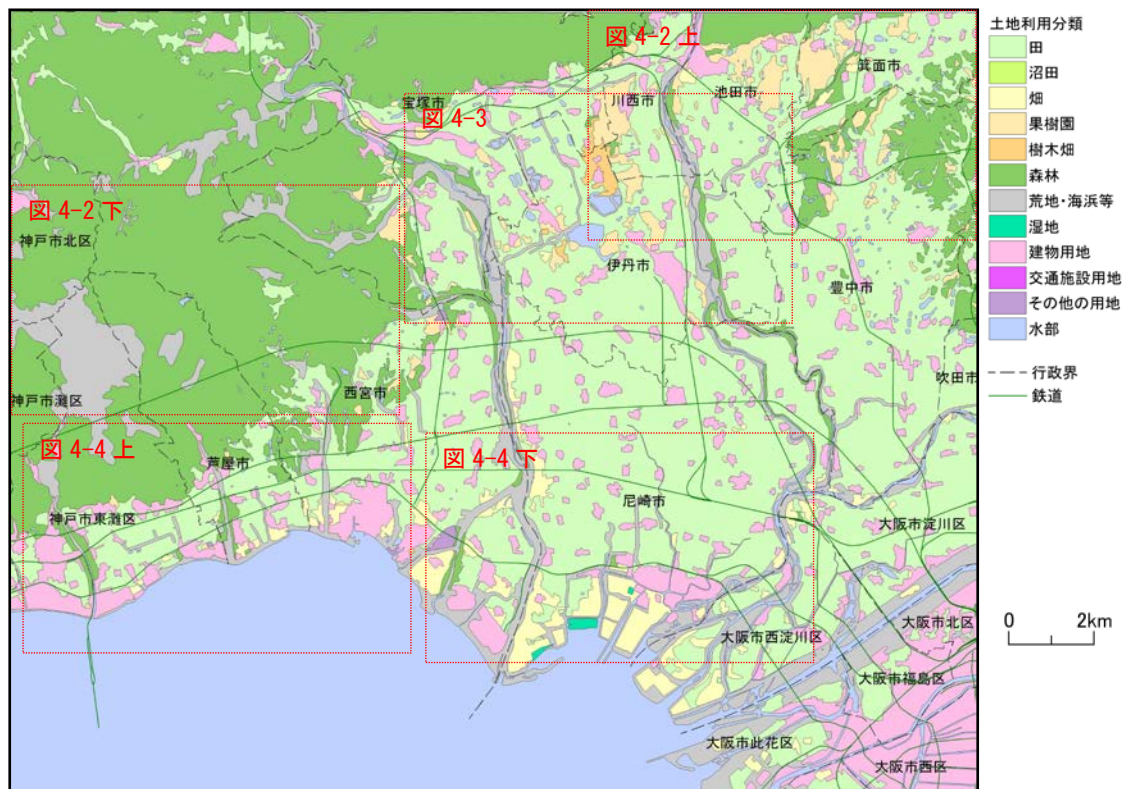


図 4-1 大阪西北部における約 100 年前 (明治 42 (1909) 年頃) の土地利用

#### ① 山地・丘陵地における土地利用

本図幅北部の北摂山地では、猪名川沿いの低地に田と集落、山麓斜面に果樹園がわずかにあるほかは森林が広がっている。本図幅西部は、主峰六甲山を含む六甲山地の

<sup>1</sup> 大正 2 年縮図、同 3 年発行の 5 万分 1 地形図「大阪西北部」は、入手した謄本では、擦れた不鮮明な地図描画であったため、本調査には使用しなかった。

<sup>2</sup> 明治期の地形図図郭は測量原点の違いにより、現在の地形図図郭より 10 秒 4 東側にずれている。そのため明治期の地形図を現行図に一致させるには、このずれの補正(該当範囲の隣接図からの拡充)が必要になる。

東側部分が広い面積を占めているが、ここでも山地内部の谷底低地に田と集落がわずかにある程度で、森林以外の土地利用は見られない。ただし六甲山では、江戸時代に森林が過度に伐採され、明治初期にはほとんど草木のない荒廃した状態となっていたため、土砂災害防止と水源涵養を目的として1902(明治35)年から植林が始められた。明治期の地形図からは、この状況を示す山中の荒地が認められる。本図幅の北東部には、北摂山地の南側山麓にあたる千里丘陵と箕面・池田丘陵がある。千里丘陵は、森林に覆われ、その中の樹枝状の谷底低地が田や果樹園として利用されている。千里丘陵の西側に接する箕面・池田丘陵には、森林も見られるが、北摂山地南側の扇状地や谷底低地に田と果樹園が大きな面積で広がっている。また、ここを通る街道沿いを主として集落が点在している。また、丘陵地内にはため池が多く点在している(図4-2)。

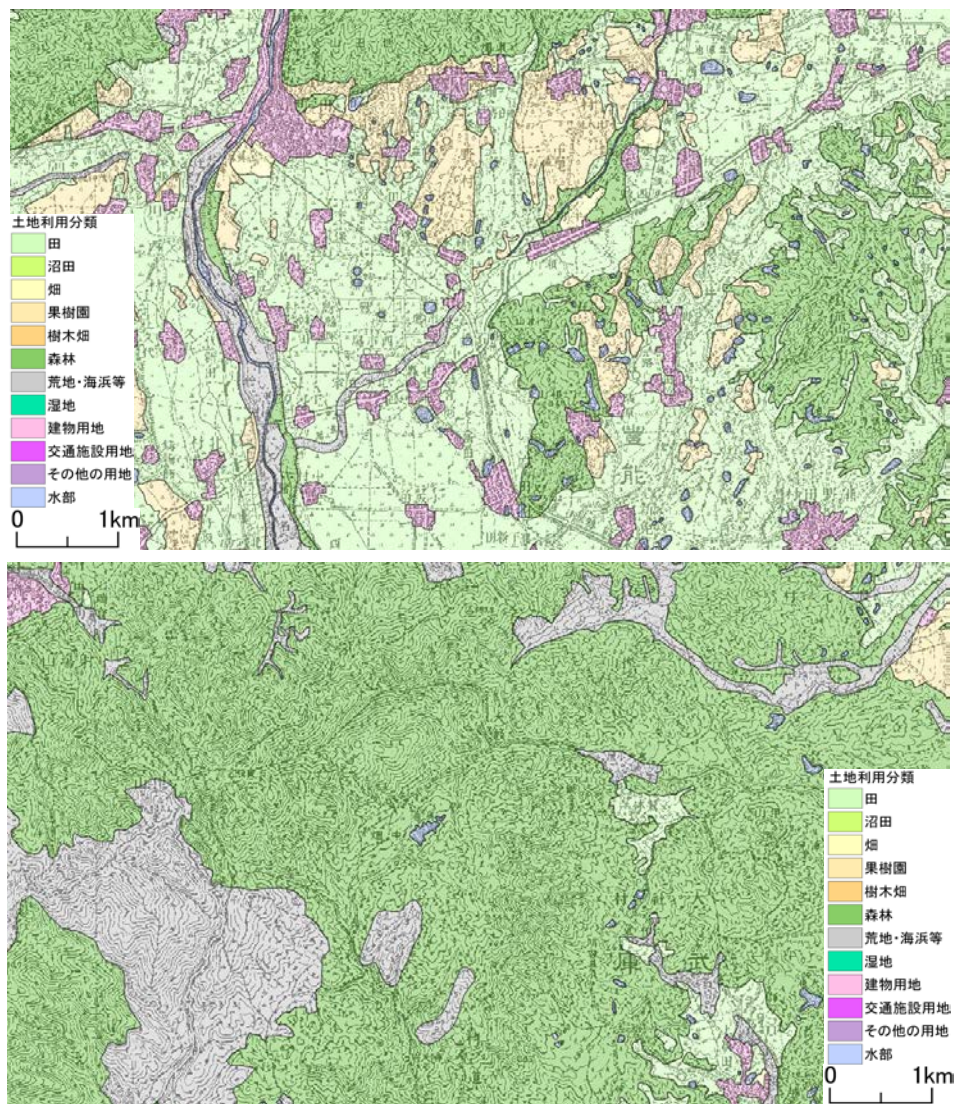


図4-2 山地・丘陵地の土地利用

(上下とも)5万分の1地形図「大阪西北部」明治42及3年測図を背景に、この図から取得した明治期の土地利用分類図を表示。上図は、上部が北摂山地、右部が千里丘陵、中央部が箕面・池田丘陵である。この中で箕面・池田丘陵では、扇状地上に広がる農地(田・果樹園)と点在する集落が特徴的である。下図は六甲山地で、図左中央に主峰六甲山が見える。山頂部を含む広い荒地が荒廃した山容を表している。



## ② 台地における土地利用

本図幅の台地は、北摂山地の南側の猪名川と武庫川にはさまれた**伊丹台地**と、六甲山地の東部に接する**六甲東麓台地**がある。**伊丹台地**では、南に向かって緩やかに傾斜する段丘上に田が拡がり、果樹園・樹木畑も見られる。点在する集落の中には、この範囲の町村（伊丹町、川西村、長尾村、小浜村など）中心部のまとまりのある市街地もある。ここには、鉄道（現 JR 福知山線）が通っているが、集落の分布は鉄道よりも街道との関連性が認められる。猪名川、武庫川は共に平時は流量が少なく、台地面との比高差もあって水の便が悪いため、この範囲には多くのため池が見られる。**六甲東麓台地**は、西側の六甲山地に連なって森林が拡がっているが、東部・南部周縁の緩斜面には田や果樹園もみられる（図 4-3）。

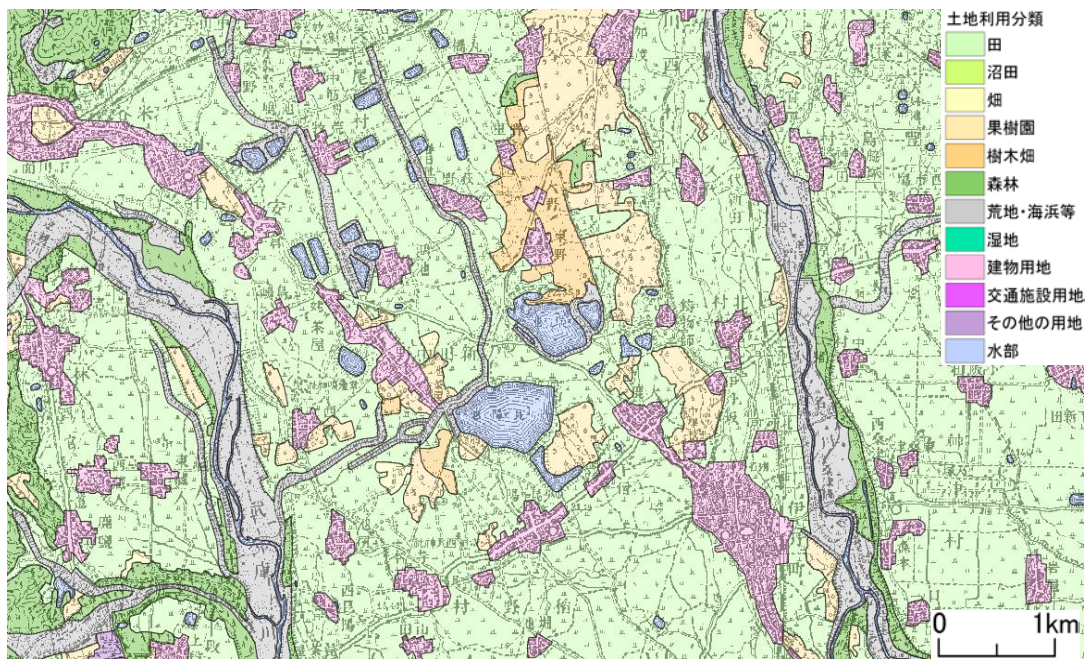


図 4-3 台地の土地利用

5 万分の 1 地形図「大阪西北部」明治 42 及 43 年測図を背景に、この図から取得した明治期の土地利用分類図を表示。

図の伊丹台地では、傾斜の緩い段丘面に田が拡がり、果樹園、樹木畑もみられる。東西を河川にはさまれた土地であるが、これらの河川からの利水の条件はよくなく、奈良時代に造られた昆陽池をはじめ、ため池が多く点在する。建物用地は、当時の町村の中心市街地と、街道沿いの集落である。図に見える鉄道が開通してまもない時期のため、鉄道路線による土地利用分布の特徴は見られない。

## ③ 低地における土地利用

本図幅の低地は、伊丹台地を囲んで武庫川、猪名川沿い拡がる武庫川・猪名川低地、六甲山地南側の海までの狭い範囲の六甲山麓扇状地群、大阪・神戸間の旧海岸線に面した阪神間海岸低地、その他に、淀川三角州、大阪湾臨海干拓地、大阪湾臨海埋立地がある。武庫川・猪名川低地には、田が拡がり、集落が点在する。両河川沿いには、畑、果樹園、森林（竹林）も見られる。この範囲には、伊丹台地ほどため池が多くなり、利水の良さが伺われる。六甲山麓扇状地群も基本的な土地利用は田であるが、建物用地の面積が多い。その分布は六甲山地山麓と大阪湾岸に分かれていて、すでに明治期に現在の神戸市東灘区から芦屋市にかけての範囲に密集した市街地を形成している。阪神間海岸低地にも田の中に集落が点在している。海岸部には畑も見られ、江戸

時代から宿場町、港湾都市として栄えてきた西宮の密集市街地がある。淀川三角州、大阪湾臨海干拓地は、淀川左岸の範囲では大阪市の密集市街地が拡大した建物用地となっているが、それ以外では、田の中に集落と畑が点在するという周囲と同様な土地利用である。現在の阪神電鉄尼崎駅を中心とした範囲は建物用地が密集した市街地となっている。干拓地の農地は、田よりも畑の面積が大きい。大阪湾臨海埋立地は、明治期にはまだ埋め立てによる土地の拡大は見られない。

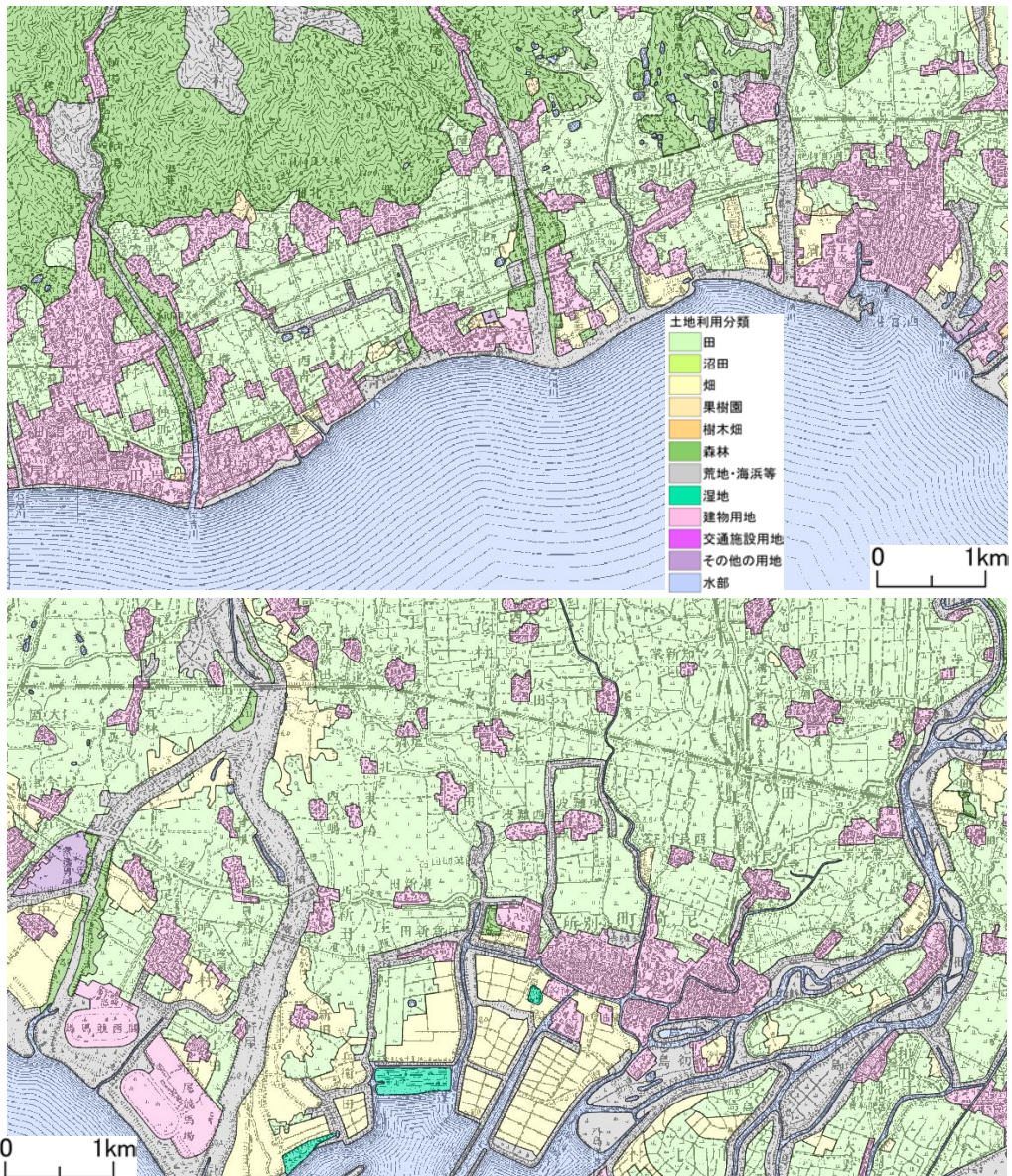


図 4-4 低地の土地利用

(上下とも) 5万分の1地形図「大阪西北部」明治42及3年測図を背景に、この図から取得した明治期の土地利用分類図を表示。上図の六甲山麓扇状地群では、基本的な土地利用は田だが、建物用地が山側・海側に分かれて集積している。天井川となっている住吉川、芦屋川下流の両岸が森林(緑地)となっている。下図の武庫川・猪名川低地から阪神間海岸低地の範囲も、田が広がり、集落が点在する。海岸部の畑は干拓によってできた農地であるが、この時期はまだ埋立地は見られない。

本図幅は、山地部を除いて比較的平坦な土地が広がっていて、明治期は田を主とし

た農業的土地利用が大部分となっている。ただし、丘陵地・台地・低地の場所により異なる耕作条件から、その土地利用分布に違いが見られる。その中で阪神間では、この時期から集積した市街地が形成されていることが特徴的である。伊丹台地や武庫川・猪名川低地のまとまりのある集落も含めて、この地域ではすでに明治期から都市化のポテンシャルを備えていたと考えられる。

## (2) 昭和 43 (1968) 年頃 (現在から概ね 40 年前) の土地利用

昭和期の土地利用分類図 (第 2 期) は、昭和 43 (1968) 年に編集された 5 万分の 1 地形図「大阪西北部」を使用して、地形図判読により土地利用分類を行った (図 4-5)。昭和 44 年発行の 5 万分の 1 地形図「大阪西北部」は、同 42 年に空中写真測量により作成された 2 万 5 千分の 1 地形図を編集したものである (図 4-5)。



図 4-5 大阪西北部における約 40 年前 (昭和 43 (1968) 年頃) の土地利用

### ① 山地・丘陵地における土地利用

北摂山地、六甲山地とも、昭和期においても森林が拡がり、土地利用は明治期と比べて大きな変化はないが、両山地とも、山麓部に建物用地の進出が見られる。これは、大小規模は様々な、山麓斜面を造成して造られた住宅地である。六甲山地では、標高の高い山中での宅地開発も見られる。六甲山の荒地は、明治期以降植林が進んで面積が小さくなったが、荒地に代わって山中に見られるようになった「その他の用地」はゴルフ場である。箕面・池田丘陵と千里丘陵では全域で宅地化が進み、その土地利用の変化は顕著である。明治期に開通した私鉄路線が、並行する既存の鉄道に対抗して急行運転などの利便性の向上を図ると共に、沿線の宅地開発を推進したことから、こ

の路線沿線では帯状に宅地が拡大した。この結果、明治期に広い面積を占めていた農地は、北部の地区で宅地の中に点在する程度まで減少した。宅地の増加で森林も減少したが、千里丘陵南西部の「その他の用地」は、昭和初期に大阪府が造園した緑地公園である（図4-6）。

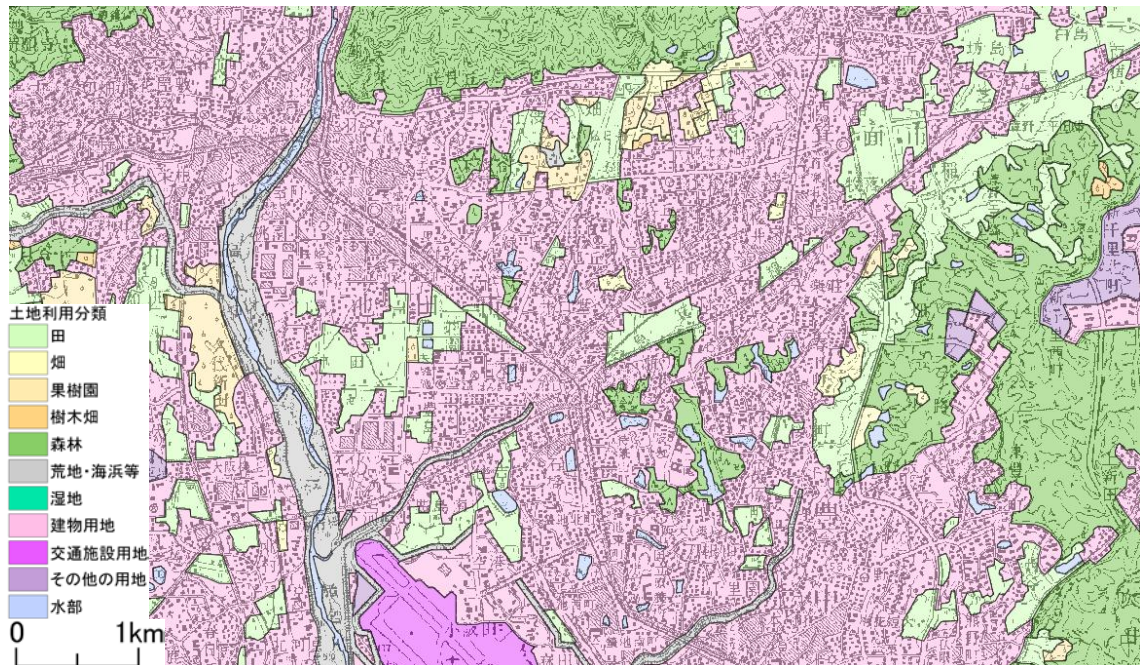


図4-6 山地の土地利用

5万分の1地形図「大阪西北部」昭和43年編集を背景に、この図から取得した昭和期の土地利用分類図を表示。

図の北摂山地、箕面・池田丘陵、千里丘陵では、昭和期に宅地化が大きく進んだ。明治期（図4-2上図）に大きな面積を占めていた農地と丘陵地の森林は、図中央部を右下から左上へ通る私鉄沿線を中心とした住宅地開発によって、建物用地の中に点在する状態にまで減少した。この住宅地の拡大は、丘陵地の平坦な場所だけでなく、図左上部に見られるように、山地の山麓斜面にも及んでいる。

## ② 台地における土地利用

丘陵地と同様に台地でも昭和期に宅地化が進んだ。**伊丹台地**は、段丘上に広がっていた農地が、居住に好条件な大都市のベッドタウンとして宅地への転換が多く行われて減少した。昭和期には、一部にまとまりのある農地が見られるものの、小規模な田・畑・果樹園・樹木畑が散在的に分布するだけになった。増加した建物用地の中には、工場の進出も見られる。**六甲東麓台地**でも宅地化が著しく、この範囲は本図幅南部の帯状に市街地が密集している交通利便性の高い地区に近いために、六甲山地の山麓斜面と共に建物用地が増加して農地と森林が減少した（図4-7）。

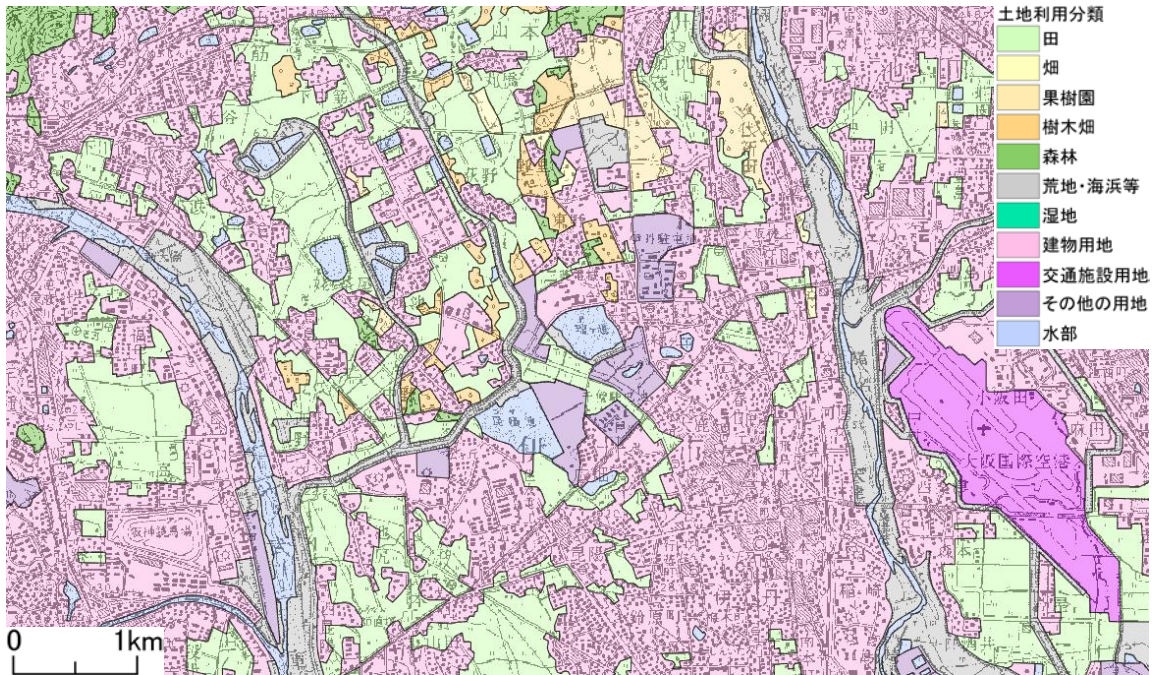


図 4-7 台地の土地利用

5 万分の 1 地形図「大阪西北部」昭和 43 年編集を背景に、この図から取得した昭和期の土地利用分類図を表示。

伊丹台地でも昭和期に宅地開発が活発に行われて農地が減少した。明治期の図（図 4-3）と比較すると、宅地の増加（農地の減少）の程度の大きさが分かる。この結果、上図右の大阪国際空港では、空港周辺が宅地を取り囲まれたために、周辺地域との間で騒音等の公害問題が発生した。なお、上図の範囲は、調査地域の台地の中では残っている農地が多く、また工場の立地も多い地区である。

### ③ 低地における土地利用

本図幅の低地では、昭和期に住宅地が大きく増加すると共に、干拓・埋め立ての進展に伴って土地利用構造が変化した。**武庫川・猪名川低地**は、この地域では伊丹台地と共に農業的土地利用の多い範囲であったが、鉄道沿線を中心に住宅地が増加して、宅地の中に田が点々と分布する状態になった。猪名川と JR 福知山線に沿った範囲には工場の集積も見られる。**六甲山山麓扇状地群、阪神間海岸低地、大阪湾臨海干拓地、大阪湾臨海埋立地**などの大阪湾に面した低地は、全域が建物用地となり農地は無くなった。これらの範囲では、阪神間を複数通る鉄道路線沿いに住宅が増加し、それによって商業施設や公共施設、文教施設、業務系の事務所、運動競技場などが集積した。沿岸部の干拓地を中心とした範囲では、工場の立地も増えて、带状に工場が分布する「**阪神工業地帯**」を形成している。工業地帯は、さらに海側へ埋立地を造成して拡大した。そして埋立地には工場以外に、住宅、学校、公園、物流施設、商業施設、レジャー施設などができて、昭和期は臨海部に新しい都市ができつつあるという状況である（図 4-8）。

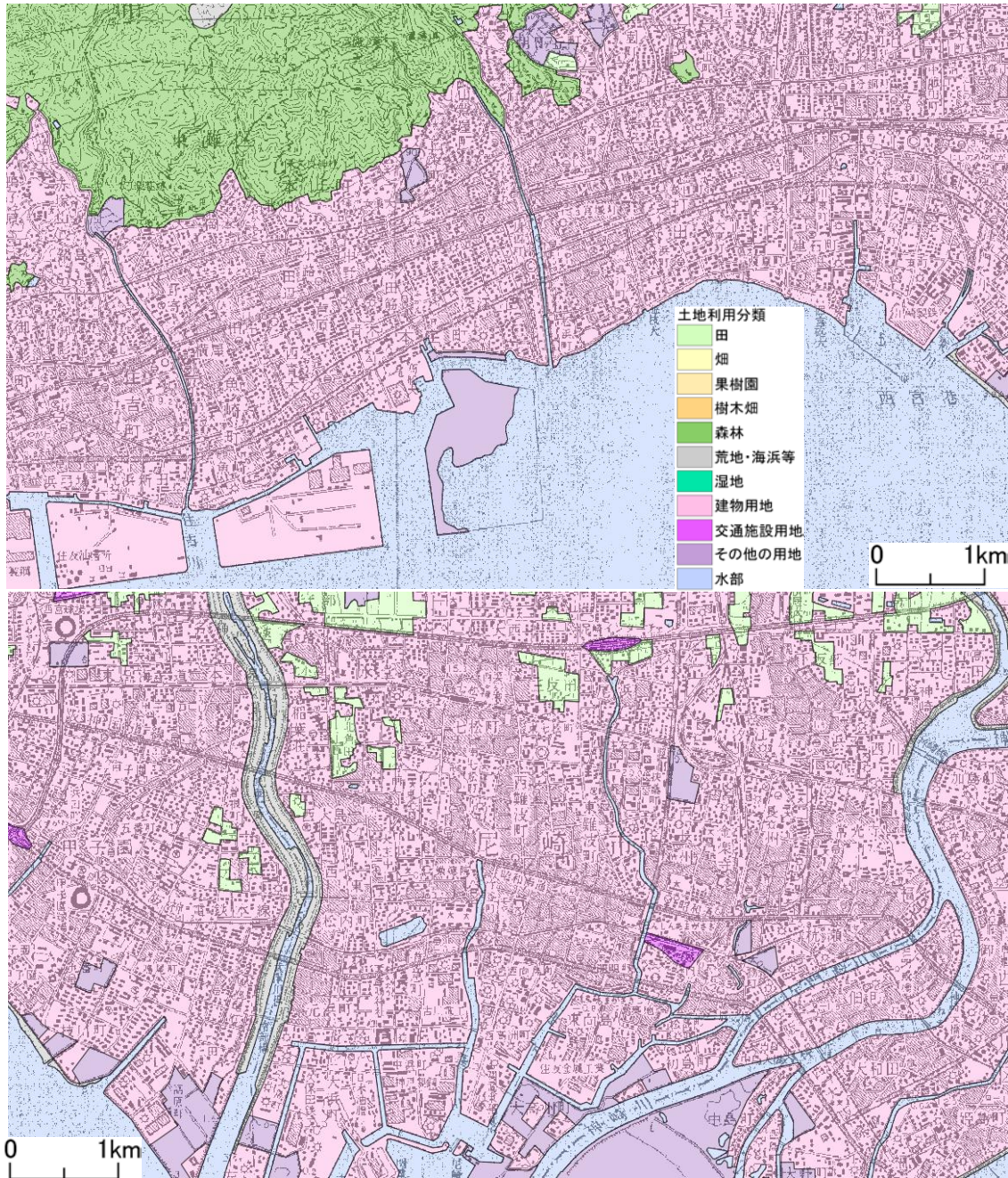


図 4-8 低地の土地利用

(上下とも) 5 万分の 1 地形図「大阪西北部」昭和 43 年編集を背景に、この図から取得した昭和期の土地利用分類図を表示。

上図の六甲山麓扇状地群（神戸市東灘区～芦屋市～西宮市の範囲）、下図の阪神間海岸低地（尼崎市の範囲）では、明治期（図 4-4）に広がっていた田がほとんど無くなった。これら大阪湾に面した低地では、住宅が増え市街地が拡大し、工場が多く立地する工業地帯も形成している。この変化は海側へ埋立地を作ってさらに拡大し、現在では埋立地に新たな都市が出現している状況である。

本図幅における昭和期の土地利用は、山地部を除く全域で住宅地が増加し、農地が大きく減少した。臨海部には工業地帯が形成され、さらに埋立地に拡大して、都市の構造そのものも変化した。

## 4.2 土地利用変遷の概要

### (1) 土地利用面積の推移

図 4-10 と表 4-1 は現在から概ね 100 年前及び 40 年前の 2 時期の土地利用分類図と、土地利用細分メッシュデータ（国土数値情報、2009）から、本図幅における**田**、**畑**（畑・その他の農用地）、**森林等**（森林・荒地等）、**水部**（河川・湖沼）、**宅地等**（建物・その他の用地）の主要な土地利用 5 項目についての面積集計結果である。

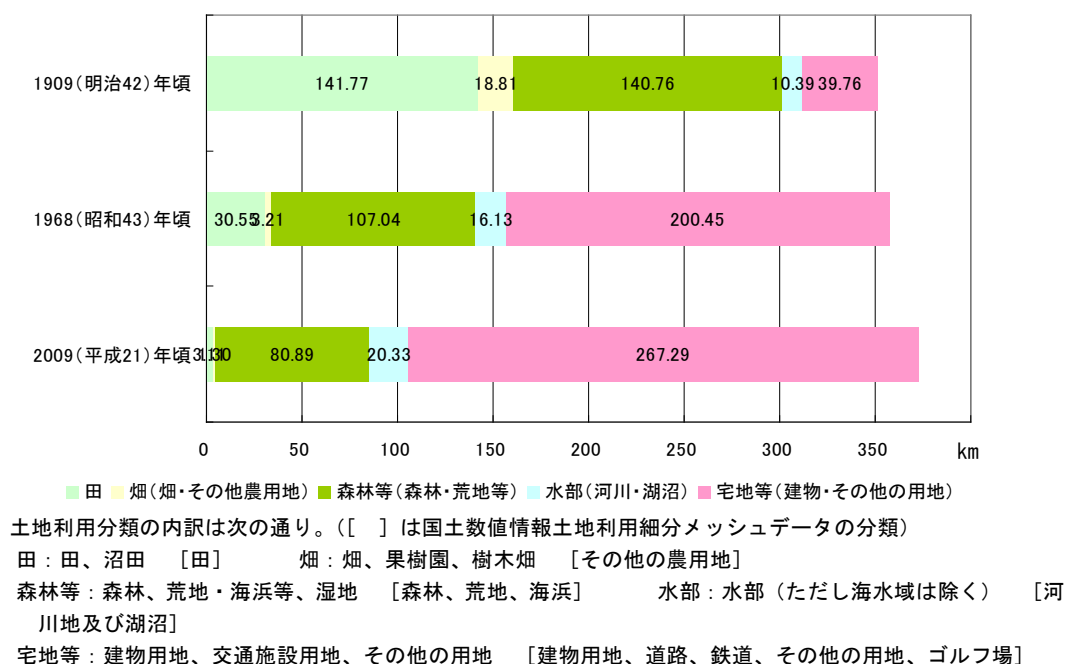


図 4-9 土地利用別面積の推移（1909、1968、2009 年）

1909 年には、**田**が最も多く約 142km<sup>2</sup>あり、次いで**森林等**が約 141km<sup>2</sup>、**畑**は約 19km<sup>2</sup>と、農業的土地利用は全体の約 46%、**宅地等**は全体の約 11%の 40km<sup>2</sup>程であった。地域別では、田は、尼崎市が約 31km<sup>2</sup>、豊中市が約 23km<sup>2</sup>と多く、西宮市が約 19km<sup>2</sup>、大阪市、伊丹市が約 17km<sup>2</sup>で、宝塚市、池田市、箕面市、神戸市でも 5km<sup>2</sup>以上の面積があった。森林等は、西宮市が約 51km<sup>2</sup>と多く、宝塚市が約 26km<sup>2</sup>、神戸市が約 23km<sup>2</sup>、芦屋市約 11km<sup>2</sup>、大阪市約 10km<sup>2</sup>だった（ただし、干拓地の荒地・湿地を含む）。畑は、尼崎市が約 4km<sup>2</sup>と最も多く、西宮市、大阪市、伊丹市、箕面市、宝塚市、池田市が約 2km<sup>2</sup>であった。宅地等は、大阪市が約 13km<sup>2</sup>と最も多く、この地域の宅地面積の 32%を占めていた。次いで西宮市が約 6km<sup>2</sup>、神戸市が約 4km<sup>2</sup>、伊丹市、宝塚市、豊中市が 2~3km<sup>2</sup>だった。

1968 年になると、**森林等**は約 107km<sup>2</sup>（明治期比 76.0%）と微減に止まったのに対して、**田**は約 31km<sup>2</sup>（同 21.5%）、**畑**は約 3km<sup>2</sup>（同 17.1%）と大きく減少した。一方で**宅地等**は約 200km<sup>2</sup>（同 504.1%）と大きく増加した。地域別では、森林等は、西宮市が約 40km<sup>2</sup>、宝塚市、神戸市が約 20km<sup>2</sup>、芦屋市約 9km<sup>2</sup>と減少した。田、畑は全市で減少した。このうち最も減少幅の大きかった尼崎市の田は、明治期から約 25km<sup>2</sup>も減少して約 6km<sup>2</sup>となった。田は他に、伊丹市が約 6km<sup>2</sup>、西宮市約 5km<sup>2</sup>、宝塚市、豊中市が約 4km<sup>2</sup>、箕面市で約 3km<sup>2</sup>となり、大阪市に田は無くなった。畑は、最も多い川西市でも約 0.8km<sup>2</sup>で、全市

が1km<sup>2</sup>未満、明治期に最も多かった尼崎市は0になった。これらの減少に対して宅地等は全市で増加し、特に増加幅の大きかった尼崎市は約38km<sup>2</sup>となった。他は、大阪市が約38km<sup>2</sup>、西宮市約32km<sup>2</sup>、豊中市約23km<sup>2</sup>、神戸市、伊丹市、宝塚市が15km<sup>2</sup>前後、池田市、芦屋市、箕面市が5~7km<sup>2</sup>となった。



表 4-1 土地利用別面積の推移 (1909、1968、2009 年)

単位：km<sup>2</sup>

区分	大阪府										兵庫県																	
	徳島区	大阪区 此花区	大阪区 西区	大阪区 港区	浪速区	西淀川区	大阪区 淀川区	大阪区 北区	大阪区 中央区	大阪市 合計	豊中市	池田市	吹田市	箕面市	府合計	神戸市 東灘区	神戸市 灘区	神戸市 北区	神戸市 合計	尼崎市	西宮市	芦屋市	伊丹市	宝塚市	川西市	県合計	合計	
1909 (明治42) 年頃	田	1.16	1.87	0.09	0.48	0.00	5.73	7.49	0.36	0.00	23.32	6.20	1.66	5.22	53.58	4.76	0.07	0.11	4.94	31.26	19.00	3.09	17.06	9.47	3.38	88.19	141.77	
	畑(畑・その他農用地)	0.00	0.32	0.00	0.07	0.00	1.44	1.63	0.00	0.00	2.19	1.42	1.63	0.03	1.68	0.17	0.00	0.00	0.17	4.12	2.49	0.28	2.03	1.66	1.12	11.86	18.81	
	森林等(森林・荒地等)	0.81	2.96	0.00	0.12	0.00	4.02	1.26	0.80	0.00	9.98	6.47	2.17	0.54	1.79	20.95	13.32	3.15	6.66	23.13	5.16	50.75	11.43	2.33	26.21	0.79	119.81	140.76
	水部(河川・湖沼)	0.36	1.47	0.50	0.04	0.00	1.98	0.62	0.34	0.00	5.30	0.75	0.21	0.07	0.17	6.51	0.08	0.00	0.00	0.08	1.32	0.69	0.10	1.02	0.58	0.08	3.88	10.39
1968 (昭和43) 年頃	田	2.33	1.77	4.28	0.32	0.00	0.83	1.15	2.25	0.01	12.82	2.42	1.30	0.84	17.66	4.06	0.03	0.21	4.30	4.97	5.89	0.90	2.52	2.52	0.90	22.10	39.76	
	畑(畑・その他農用地)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	4.00	1.45	0.51	2.35	8.51	0.00	0.00	0.02	5.72	5.32	0.10	6.04	4.14	0.70	22.04	30.55	
	森林等(森林・荒地等)	1.16	1.87	0.09	0.48	0.00	5.73	7.49	0.36	0.00	17.19	19.32	4.74	1.15	2.67	45.07	4.76	0.07	0.09	4.92	25.55	13.68	2.99	11.02	5.33	2.68	66.16	111.22
	水部(河川・湖沼)	0.06	0.00	0.00	0.00	0.00	0.12	0.27	0.18	0.00	0.63	6.84	2.27	0.76	1.47	11.96	10.47	3.15	6.41	20.03	2.68	40.16	9.16	2.21	20.10	0.73	95.08	107.04
2009 (平成21) 年頃	田	0.64	2.18	0.26	0.25	0.00	3.29	1.33	0.87	0.00	8.82	0.72	0.21	0.05	0.08	9.88	0.19	0.03	0.00	0.22	2.89	1.21	0.12	0.86	0.81	0.12	6.25	16.13
	畑(畑・その他農用地)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.04	0.22	0.03	0.21	0.46	0.00	0.00	0.00	0.04	0.08	0.02	0.16	0.29	0.24	0.83	1.30	
	森林等(森林・荒地等)	0.00	0.32	0.00	0.07	0.00	1.44	0.35	0.00	0.00	2.19	1.37	1.41	0.03	0.47	6.48	0.17	0.00	0.00	0.17	4.08	2.41	0.26	1.87	1.36	0.88	11.03	17.51
	水部(河川・湖沼)	0.81	2.96	0.00	0.12	0.00	3.97	1.26	0.80	0.00	9.92	4.68	0.46	0.26	1.42	16.75	3.19	0.02	0.20	3.41	5.07	16.63	3.51	2.09	1.66	0.75	43.12	59.87
田	0.64	2.60	0.24	0.28	0.00	3.49	1.50	0.96	0.00	9.89	0.68	0.40	0.04	0.00	10.81	0.01	0.00	0.00	0.01	4.05	2.31	0.07	1.58	1.07	0.41	9.52	20.33	
畑(畑・その他農用地)	0.28	1.13	0.27	0.24	0.00	1.50	0.88	0.62	0.00	4.39	0.07	0.19	0.04	0.17	4.30	0.07	0.00	0.00	0.00	2.73	1.62	0.03	0.56	0.49	0.33	5.64	9.94	
森林等(建物・その他用地)	4.02	6.90	4.62	0.75	0.00	10.67	8.37	2.79	0.01	39.13	31.70	9.17	2.15	8.36	90.73	20.78	1.31	0.49	22.59	46.02	45.35	10.22	22.63	24.40	5.35	176.57	267.29	
水部(河川・湖沼)	1.69	5.13	0.36	0.42	0.00	9.84	8.22	0.54	0.00	26.21	29.28	7.87	1.97	7.73	73.07	16.72	1.28	0.28	18.29	41.05	39.36	9.32	20.12	21.88	4.45	154.47	227.53	

1. 1909 年及び 1968 年は土地利用分類図の図上計測値。2009 年は国土数値情報(土地利用細分メッシュ)による集計値。
2. 1968 年及び 2009 年の下段は、1909 年からの増減量。
3. 行政区域は 2012 (平成 24) 年 4 月 1 日現在の区域を当てはめた。

昭和から平成にかけても、**森林等**が約 81km<sup>2</sup>と減少し、**田**は約 3km<sup>2</sup>、(明治期比 2.2%)、**畑**は約 1km<sup>2</sup> (同 6.9%) と大きく減少して、この地域から田畑はほとんど消滅したという状況になった。その分**宅地等**は、明治期の約 7 倍の約 267km<sup>2</sup>に拡大して本図幅の 72%の面積を占めるようになった。地域別では、森林等、田、畑は全市で減少して、森林等は西宮市が約 34km<sup>2</sup>、神戸市約 20km<sup>2</sup>、宝塚市約 15km<sup>2</sup>、芦屋市約 8km<sup>2</sup>となった。田は、西宮市の約 1km<sup>2</sup>が最大で、他に 1km<sup>2</sup>以上残っている市は無くなった。畑も最も多い宝塚市で約 0.3km<sup>2</sup>と、どの市もほとんど畑は無くなった。宅地等は、明治期と比較して全市で大幅に増加し、尼崎市が約 46km<sup>2</sup>、西宮市が約 45km<sup>2</sup>、大阪市約 39km<sup>2</sup>、豊中市約 32km<sup>2</sup>、宝塚市、伊丹市、神戸市が 23~24km<sup>2</sup>となった。これは明治期比で、豊中市が約 13 倍、尼崎市、西宮市、伊丹市、宝塚市は 8~10 倍になったということである。

以上より、この地域では昭和期に大きく都市化が進行して建物用地が増加、農地が減少した。平成期に入ってもこの傾向は続いて、農地はほとんど無くなった状況である。今後は、埋立地が拡大しない限り、この平成期の土地利用状況（土地利用別の割合）がほぼ最終的なものになると考えられる。

## (2) 地形分類別土地利用面積の推移

図 4-9 と表 4-2 は、本図幅の明治期、昭和期、平成期の土地利用の面積を主要な自然地形分類項目ごとに集計した結果である。自然地形分類のうち水部は、現水部、旧水部であるが、水部以外の各土地利用においてこの自然地形を利用しているのは、造成によって陸地になった旧水部である。

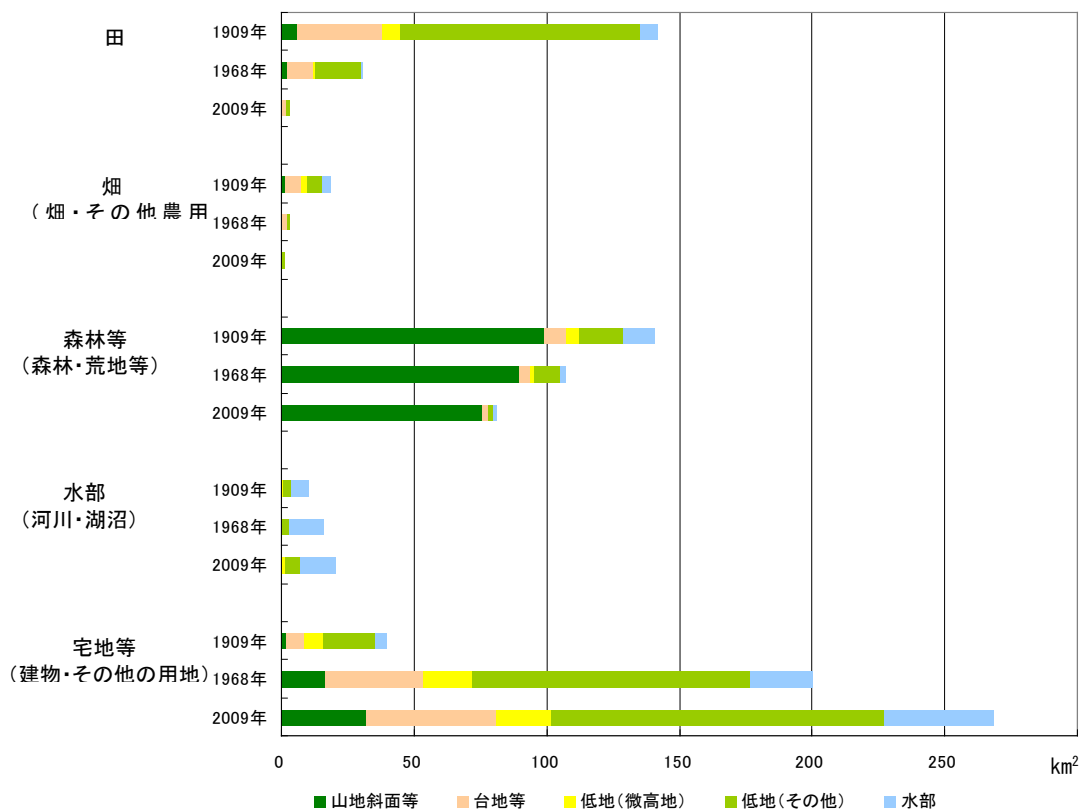


図 4-10 地形分類別の土地利用面積の推移 (1909、1968、2009 年)

(図 4-10 注)

- 区分ごとの面積は、本調査成果図の自然地形分類図及び土地利用分類図（1909年、1968年）、国土数値情報の土地利用細分メッシュ（2009年）を2種類の分類で交差領域を作成し、各領域の面積を分類の組み合わせで積み上げ集計したもの。
- 地形分類の内訳は次の通り。  
 山地斜面等：山地斜面等、火山地斜面等、麓斜面及び崖錐、土石流堆積地  
 台地等：岩石台地、砂礫台地、ローム台地  
 低地（微高地）：自然堤防、砂州・砂堆、砂丘、天井川及び天井川沿いの微高地  
 低地（その他）：緩扇状地、扇状地、谷底低地、氾濫原低地、三角州・海岸低地、旧河道、湿地、河原・河川敷、浜  
 水部：現水部、旧水部

この地域では、明治期に農業的に利用されていた（田・畑）、及び未利用だった（森林等）台地等・低地のほとんどが宅地等に転換し、山地斜面等も山麓部で少しずつ宅地等に転換していることが分かる。山地斜面等の大部分を占める六甲山地の山中における宅地開発の余地も無くはないが、地形分類別土地利用の推移からも、平成期の土地利用状況はこの地域では最終的なものに近いことが示されている。

表 4-2 地形分類別土地利用面積の推移（1909、1968、2009年）

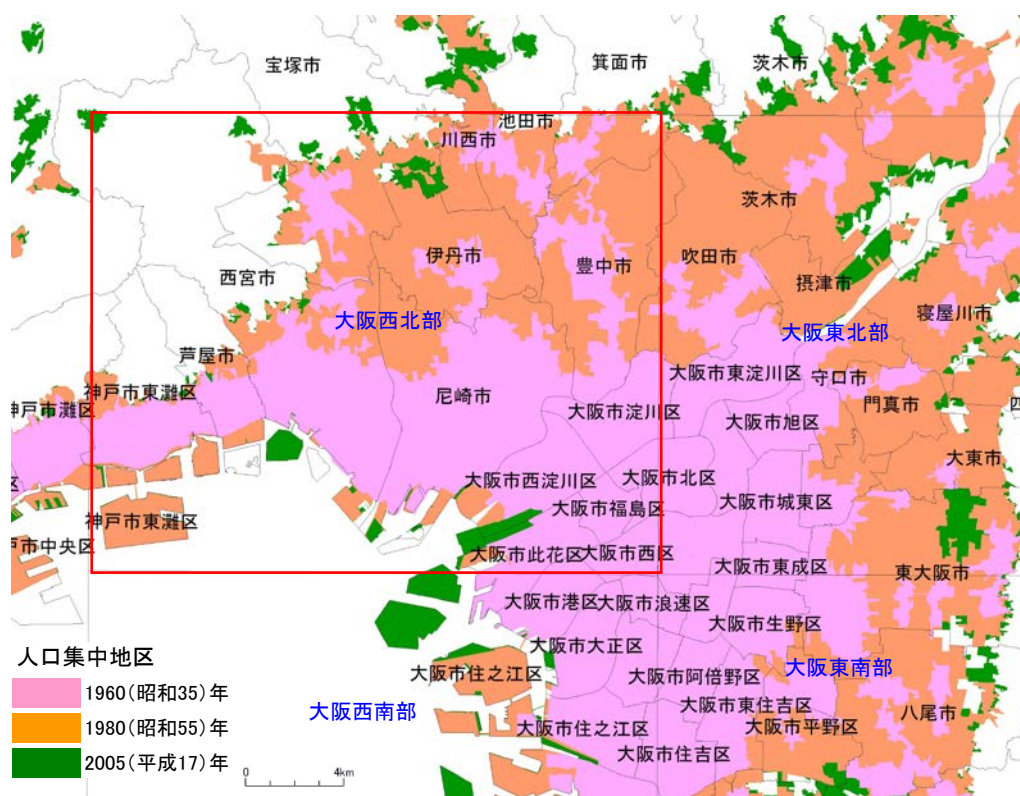
単位：km<sup>2</sup>

年代	区分	地形分類	山地斜面等	台地等	低地(微高地)	低地(その他)	水部	合計
1909(明治42)年頃	田		5.97	32.30	6.29	90.74	6.48	141.78
	畑(畑・その他農用地)		1.31	6.07	2.17	6.05	3.22	18.82
	森林等(森林・荒地等)		99.45	7.60	5.00	16.73	12.14	140.93
	水部(河川・湖沼)		0.26	0.40	0.42	2.29	7.04	10.40
	宅地等(建物・その他の用地)		1.70	6.65	7.31	19.67	4.44	39.78
1968(昭和43)年頃	田		2.28	9.84	0.93	17.21	0.29	30.55
			△ 3.69	△ 22.46	△ 5.37	△ 73.53	△ 6.19	△ 111.23
	畑(畑・その他農用地)		0.24	1.78	0.10	1.07	0.03	3.21
			△ 1.07	△ 4.30	△ 2.07	△ 4.98	△ 3.19	△ 15.61
	森林等(森林・荒地等)		89.70	4.18	1.51	9.79	1.85	107.04
			△ 9.75	△ 3.42	△ 3.49	△ 6.94	△ 10.29	△ 33.89
	水部(河川・湖沼)		0.15	0.14	0.29	2.60	12.97	16.15
			△ 0.11	△ 0.26	△ 0.13	0.31	5.93	5.74
	宅地等(建物・その他の用地)		16.32	37.09	18.38	104.90	23.79	200.48
			14.62	30.44	11.07	85.23	19.35	160.70
2009(平成21)年頃	田		0.59	1.01	0.05	1.43	0.02	3.11
			△ 5.38	△ 31.29	△ 6.24	△ 89.32	△ 6.45	△ 138.68
	畑(畑・その他農用地)		0.04	0.55	0.02	0.65	0.04	1.30
			△ 1.27	△ 5.52	△ 2.14	△ 5.40	△ 3.18	△ 17.52
	森林等(森林・荒地・水面)		75.73	2.20	0.18	1.79	0.98	80.88
			△ 23.72	△ 5.40	△ 4.82	△ 14.94	△ 11.16	△ 60.05
	水部(河川・湖沼)		0.37	0.11	0.68	5.77	13.46	20.38
			0.11	△ 0.29	0.26	3.48	6.42	9.98
	宅地等(建物・その他の用地)		31.96	49.16	20.27	126.01	40.95	268.36
			30.26	42.51	12.96	106.35	36.51	228.59

- 表の区分ごとの面積は、調査結果の自然地形分類図及び土地利用分類図（1909年、1968年）、国土数値情報土地利用データ（2009年）から2種類の分類で交差領域を作成し、各領域の面積を分類の組み合わせ毎に積み上げて集計したもの。
- 土地利用区分は、1909年、1968年は本調査の土地利用分類図、2009年は国土数値情報（土地利用細分メッシュ）による。
- 地形分類の内訳は以下の通り。  
 山地斜面等：山地斜面等、火山地斜面等、麓斜面及び崖錐、土石流堆積地  
 台地等：砂礫台地、岩石台地、ローム台地  
 低地（微高地）：自然堤防、砂州・砂堆、砂丘、天井川及び天井川沿いの微高地  
 低地（その他）：扇状地、緩扇状地、谷底低地、氾濫原低地、三角州・海岸低地、旧河道、湿地、河原・河川敷、浜  
 水部：現水部、旧水部
- 1968年及び2009年の下段は、1909年からの増減量。

### (3) 人口集中地区の変遷

図 4-11 および表 4-3 は国勢調査の人口集中地区（DID<sup>3</sup>）データから作成した、本図幅の 1960（昭和 35）年、1980（昭和 55）年、2005（平成 17）年の 3 時期にわたる DID の変遷を示したものである。この地域では、すでに 1960 年の DID が低地のほとんどの範囲に設定されていたが、1980 年、2005 年と徐々に広がり、2005 年には建物用地に利用されない山地を除くほとんどの範囲が DID に含まれるようになった。



国土数値情報（人口集中地区）1960、1980、2005 年データから作成。

図中の青字は、土地履歴調査を実施した 5 万分の 1 地形図図幅名を表す。

図 4-11 本図幅周辺における人口集中地区の推移（1960、1980、2005 年）

<sup>3</sup> 人口集中地区（DID= densely inhabited district）：1960 年国勢調査以降、新たに設定された統計表章地域。調査区（約 50 世帯）を単位として、原則として調査区の人口密度は 1km<sup>2</sup>につき 4000 人以上あり、そのような調査区が互いに隣接して、その合計が 5000 人以上に達する場合に、これを一つの人口集中地区として区画する。実質的には市街地を形成する区域を表すといえる（浜、1989）。

表 4-3 地形分類別人口集中地区面積の推移

単位：km<sup>2</sup>

区域 \ 分類	山地	台地	低地(微高地)	低地(その他)	水部	合計
調査地域全域	108.70	53.02	21.22	135.72	104.18	422.85
1960年のDID	3.88	20.04	15.82	88.52	26.34	154.58
割合(%)	2.51	12.96	10.23	57.26	17.04	100.00
1980年のDID	23.35	47.97	21.14	131.88	44.96	269.29
割合(%)	8.67	17.81	7.85	48.97	16.70	100.00
2005年のDID	24.81	48.77	21.20	132.32	49.50	276.60
割合(%)	8.97	17.63	7.66	47.84	17.90	100.00

1. 自然地形分類図、国土数値情報（人口集中地区）1960、1980、2005年データより集計。
2. 地形分類の内訳は次の通り。
  - 山地：山地斜面等、火山地斜面等、麓斜面及び崖錐、土石流堆積地
  - 台地：岩石台地、砂礫台地、ローム台地
  - 低地（微高地）：自然堤防、砂州・砂堆、砂丘、天井川及び天井川沿いの微高地
  - 低地（その他）：扇状地、緩扇状地、谷底低地、氾濫原低地、三角州・海岸低地、旧河道、湿地、河原・河川敷、浜
  - 水部：現水部、旧水部

本図幅内では、1960年と現在で行政区域（市域）に変化はない。図4-11及び表4-3は、1960年のDIDでは、森林及び農業的な土地利用をされていた範囲を除く低地・台地・丘陵地に設定されていたものが、1980年のDIDでは、ほとんどすべての低地・台地・丘陵地に拡大したということを示している。これは、昭和期の土地利用の推移で記述したことと一致しているが、昭和期（1968年頃）から1980年までの10年ほどの間にさらに宅地が拡大した（例えば千里丘陵など）ことも示している。また、2005年のDIDが、宅地開発の進行した山地の山麓斜面と埋め立てと利用の完了した埋立地に拡大したことも、同様に昭和期以降の変化部分である。2005年のDIDの面積と平成期の宅地等の面積がほぼ一致していることがこの地域の特徴である。

## 5 調査地域の災害履歴概要

### 5.1 災害履歴概説

#### (1) 地震

この地域に被害を及ぼす地震には、①陸域の浅いところで発生する地震、②太平洋沖合で発生する地震の2タイプが存在する（地震調査研究推進本部，2009）。

①のタイプの地震は陸域の活断層によってもたらされる地震で1596年の慶長伏見地震（M7.1/2）や1995年の兵庫県南部地震（M7.3）などが該当する。特に兵庫県南部地震は1923年の関東地震（M7.9）以来都市部で最大の被害を及ぼした地震となった。また西日本では、東南海・東海地震の前後に内陸部で地震活動が活発化する傾向があり、東南海地震（1944年）、南海地震（1946年）から70年以上経ており、西日本で地震活動が活発化する活動期に入ったとの指摘もある。

②のタイプの地震は太平洋沖合の南海トラフ沿いで100～150年周期で発生するM8程度の巨大地震で1854年の安政東海地震（M8.4）や1944年の東南海地震（M7.9）、1946年の南海地震（M8.0）などが該当し、広い範囲に揺れや津波による被害をもたらす。

#### (2) 風水害

調査図幅の南東部は淀川によって形成された三角州性の低地（淀川三角州）で、淀川河口部では標高ゼロメートル地帯が存在し、風水害の影響を受けやすくなっている。淀川の三大洪水などで広範囲に浸水被害を生じており、沿岸部では1934年の室戸台風、1950年のジェーン台風などで高潮被害を生じている。

本図幅の中央部の宝塚市、西宮市、尼崎市や伊丹市は六甲山地や北摂山地から流れる武庫川、猪名川の形成する低地に市街が広がっている。

また調査図幅の西部では標高600～900mの六甲山地と大阪湾に挟まれた非常に狭い範囲に山地から、丘陵地、段丘、扇状地、海岸平野が帯状に配列している。この急峻な地形を反映した住吉川、芦屋川、夙川などの勾配の大きい急流河川が存在している。また六甲山地は崩れやすい風化花崗岩（まさ土）によって表層が覆われているため、豪雨時には斜面崩壊が頻発し、こうした急流を土石流となって流下した土砂が度々山麓部から沿岸部の低地に被害をもたらしている（国土地理院，1965）。

## 5.2 災害履歴詳説

### (1) 地震

#### ①慶長伏見地震

慶長伏見地震は1596(慶長1)年9月5日午前0時ごろ発生した内陸型の地震である。地震の規模はM7 1/2で、有馬 - 高槻断層帯、および六甲・淡路島断層帯が活動したと考えられている。この地震によって近畿地方では京都、大阪、堺を中心として震度5～6の揺れが生じたと推定されており(図5-4)、堺では死者600余名、大阪では多数の家屋が倒壊し、京都では伏見城の天守閣が大破するなど600人近い圧死者が報告されている。全体では1,500人余りの死者が出たと推定されている(宇佐美, 2003)。

#### ②平成7年(1995年)兵庫県南部地震

1995(平成7)年1月17日午前5時46分に発生した兵庫県南部地震は兵庫県南部から淡路島にかけて伸びる六甲・淡路島断層帯によって引き起こされた。この地震による震度は神戸海洋気象台と洲本測候所で震度6が記録されたが、地震後気象庁による現地調査の結果、で神戸市・芦屋市・西宮市・宝塚市の各一部や淡路島北部で震度7の地域があったことが確認された。

この地震によって死者・行方不明者6,437名、負傷者43,792名、住宅全壊104,906棟、半壊144,274棟の甚大な被害を生じ戦後50年で最大の被害となった。また地震の発生が早朝であり、都市部において非常に激しい揺れに見舞われたため、建物の倒壊と火災による死者が多かった。

兵庫県における被害は、死者6,402人、行方不明者3人、負傷者40,092人、住家全壊104,004棟、半壊136,952棟(平成18年5月19日消防庁確定)、大阪府内での被害は、死者31名、負傷者3,589名、住家全壊895棟、半壊7,232棟となっている(大阪府)。

#### ・建物被害

この地震による建物被害が激しかった地域は兵庫県西宮市から神戸市須磨区にかけての山地と海岸に挟まれた約数キロ、長さ約20キロの「震災の帯」と呼ばれる地域に集中している。この地域での建物の全壊率は50%を越えており、新幹線、鉄道、阪神高速道路などが多数の箇所寸断し、東灘区の阪神高速道路神戸線では、600mにわたって橋脚が横倒しとなった(関口・前野, 1995)。

#### ・地盤の液状化

本地震による液状化被害については、大阪湾の旧海岸線付近と、ポートアイランドや六甲アイランドなどの埋立地(大阪湾臨海埋立地)で広範囲に液状化の発生が報告されている(関口・前野, 1995、三田村ほか, 1996、若松, 2011)。大阪湾沿岸部の液状化現象に関係するとみられる被害の発生箇所と、江戸期、明治期の海岸線の位置関係より、これらの被害地域が江戸期～明治以降の干拓地・埋立地などの人工地盤を中心として発生しているといえる。本図幅範囲の神戸港や尼崎港の埋立地や岸壁、淀川の堤防などでは、液状化による被害が発生している(三田村ほか, 1996)。

#### ・地すべり・斜面崩壊

兵庫県南部地震によって六甲山地の山腹では多数の山腹崩壊が発生した。山地の崩壊

は六甲山地の中部から東部にかけて発生しており、西部では比較的少ない（西田ほか、1996）。こうした崩壊やがけ崩れは、尾根型斜面における急傾斜地で多く発生したことが報告されている（国土庁土地局国土調査課、1999）。

宝塚市から神戸市にかけての都市域の台地・丘陵斜面上（六甲山南・東麓台地及び六甲山麓扇状地群）においては、戦後の都市化による地形改変に伴い谷埋め・盛り土による人工埋没谷が多数形成されている。兵庫県南部地震によってこれらの埋没谷上で多数の地すべりが発生している。これらの地すべりは元の谷筋に沿って細長い形状をしている場合が多く、西宮市から東灘区にかけての地域と神戸市兵庫区から長田区にかけての地域の大阪層群の分布域に集中的に発生している（釜井ほか、1996）。

また西宮市仁川百合野町地区では、幅約 100m、長さ 100m、深さ 15m の地すべりが発生し、34 名が犠牲となった。この地すべりは比較的急傾斜（20 度以上）の盛り土斜面で発生しており、建物の被災状況から“高速な流れを伴った地すべり”が発生したと推定されている（釜井ほか、1996）。

### ③過去の地震による津波被害

大阪湾では太平洋沖の南海トラフ沿いで発生したマグニチュード 8 クラスの巨大地震によって度々、津波被害を度々受けている。（表 5-1）

表 5-1 過去の地震における大阪湾の津波の高さ（渡辺 1998 より作成）

地震名	M	尼崎	大阪	堺
宝永 4 年（1707 年）宝永地震	8.6	-	2.5～3m	-
安政 1 年（1854 年）安政南海地震	8.4	2.5m	2.5～3m	2.5m
昭和 19 年（1944 年）東南海地震	7.9	-	0.5m	-
昭和 21 年（1946 年）南海地震	8.0	-	0.6m	浜寺町 1.0m

1707 年の宝永地震（M8.6）では伊豆半島から紀伊半島、四国の太平洋岸に高さ 5m～10m の津波が襲来し、震源に近い紀伊半島を中心に広範囲に甚大な被害をもたらしているが（地震調査研究推進本部、2009）、大阪湾では明石で 1～1.5m、大阪で 2.5m～3m、和泉・摂津で 2.5m の津波高が推定されている。この津波により大阪では「道頓堀に津波押しよせ落橋 31、破船 336、潰家 993、死 341（水死 9）」などの被害が記録されている（羽鳥、1980）。

1854 年の安政南海地震（M8.4）では、尼崎で 2.5m、大阪で 2.5～3m、堺で 2.5m の津波高が推定されている。この時の津波により大阪湾の沿岸では「内川の水面 1 丈余増す。死者 100 余、流家 60。（尼崎）」、大阪では「木津川・安治川の 26 余の橋破壊、水死 341、天保山にて床下 5 寸浸水、道頓堀で路上に溢れ、東掘まで泥水 4 尺上がる。（大阪）」などの被害が記録されており、安治川・木津川に押しよせた津波は道頓堀・土佐堀などの堀から市内に侵入し大きな被害をもたらしたと考えられている（羽鳥、1980）。

また大阪湾では 1944 年の東南海地震や、1946 年の南海地震でも 0.5～1m 程度の津波の発生が記録されている（渡辺、1998）。



## (2) 風水害

### ① 昭和 13 (1938) 年 7 月降雨 (大雨)

1938 年 7 月 3 日～5 日の梅雨前線による降雨は阪神地方に未曾有の被害をもたらし、阪神大水害と呼称されている。3 日～5 日の総雨量が西宮では 363mm、神戸で 457mm、六甲山で 616mm に達し、特に 4 日には各所で 250mm～300mm の降雨があった(宮澤ほか、2008)。

7 月 3 日～5 日にかけて梅雨前線の北上に伴い、神戸市を中心に雨が降り続き、3 日～5 日の期間降水量は神戸市で 461.5mm、西宮で 362.9mm、六甲山で 616mm にも達した。この豪雨によって住吉川、芦屋川など表六甲の河川は土石流を伴って大きな氾濫を起こし、六甲山地では山津波を伴って土砂の流出や流木により神戸市を中心に道路や鉄道も途絶するなど、未曾有の大水害をもたらした。兵庫県での人的被害は、死者 731 名、負傷者 1,463 名となった(兵庫県地域防災計画)。

本図幅においては、神戸市で死者 616 名、負傷者 1,011 名、住家全壊 2,213 棟、半壊 6,440 棟、住家浸水床上 22,940 棟、床下 56,712 棟、流出 1,410 棟の被害が生じている(神戸市地域防災計画)。

### ② 昭和 25 (1950) 年 9 月降雨・高潮 (ジェーン台風)

8 月 28 日に硫黄島付近で発生したジェーン台風は、9 月 3 日には室戸岬の東方 20km 付近を通過し淡路島付近を経て、神戸市～西宮市付近に再上陸した。雨量は西宮市で 64mm など比較的少なく、その後は速度を上げて北上し日本海に進んだ(兵庫県地域防災計画)。この台風による降水量は全体的に少なかったが、強風による吹き寄せの影響で台風進路の東側に当たる大阪湾で高潮が発生した。大阪湾では満潮時より 2.1m 潮位が高くなり、地下水汲み上げに伴う臨海部の地盤沈下の影響もあり、大きな被害をもたらした(気象庁ホームページより)。

大阪湾では 9 月 3 日の 13 時ごろに最高潮位 (O. P. +3.85m) となり、海水が防潮堤を乗り越えて海拔ゼロメートル地帯に侵入し、大阪市内の 3 割 (56 平方キロメートル) が冠水した(宮澤ほか、2008)。この水害によって大阪府で死者・行方不明者 256 名、住家浸水床上 54,139 棟、床下 40,025 棟(大阪府地域防災計画)、兵庫県で死者 41 名、負傷者 904 名(兵庫県地域防災計画)の被害が生じた。

本図幅においては、尼崎市で死者・行方不明者 29 名、家屋全壊 389 棟、半壊 7,578 棟、流出 112 棟、住家浸水床上 18,679 棟、床下 6,951 棟の被害があった(尼崎市地域防災計画)。

### ③ 昭和 28 (1953) 年 9 月降雨 (台風 13 号)

9 月 18 日にグアム島の南東海上で発生した台風 13 号は、22 日に沖ノ鳥島付近で急激に発達し、同日 13 時過ぎには中心気圧 897hpa と勢力を増した。その後 25 日 17 時に眼県志摩半島を横断し、伊勢湾を経て 18 時半頃愛知県知多半島に再上陸し、21 時には長野県諏訪市を通過し、翌日三陸沖に到達した。この台風により、四国から関東地方にかけての広い範囲で 20～30m/s の最大風速を観測した。また、期間降水量は京都府舞鶴で 507.0mm に達するなど、京都府内の全域が豪雨に見舞われ、淀川、木津川、宇治川、桂

川等の河川が氾濫や決壊している（気象庁ホームページより）。

淀川では枚方でこれまでの最高水位を 1m 上回る、6.97m を記録している（大阪の気象 100 年）。この災害により大阪府では死者・行方不明者 27 名、住家浸水床上 13,434 棟、床下 150,354 棟、兵庫県では死者 6 名、住家浸水床上 3,702 棟、床下 15,522 棟の被害が生じた（大阪府地域防災計画、神戸海洋気象台ホームページより）

本図幅においては、猪名川低地の伊丹市、川西市（兵庫県）の猪名川流域で浸水被害があった。

#### ④ 昭和 36（1961）年 9 月降雨・高潮（第 2 室戸台風）

9 月 8 日にマーシャル諸島付近で発生した第 2 室戸台風は西北西に進み、12 日～13 日にかけて中心気圧が 900hPa 未満の猛烈な強さの台風となった。進路を北寄りに変え、14 日は沖縄の東海上を通過し、16 日 9 時すぎ室戸岬西方に上陸した。13 時過ぎには兵庫県尼崎市と西宮市の間に再上陸し、18 時には能登半島東部を經由して日本海に出た。室戸岬付近で中心気圧 930 hPa、最大風速 66.7m/s、最大瞬間風速 84.5m/s 以上を記録するなど強い勢力を保ったまま上陸した。

暴風や高潮による被害が大きく、大阪市では高潮により市西部から中心部にかけて 31 平方 km が浸水した（気象庁ホームページより）。

大阪府では死者 32 名、住家全壊 3,386 棟、半壊 21,356 棟、住家浸水床上 61,488 棟、床下 59,729 棟（大阪府地域防災計画）、兵庫県では死者 10 名、住家浸水床上 8,973 棟、床下 36,944 棟（神戸地方気象台ホームページ）の被害があった。

本図幅においては、大阪市で死者 6 名、住家全壊 297 棟、半壊 1,429 棟、流出 31 棟、住家浸水床上 51,491 棟、床下 54,027 棟（大阪市地域防災計画）、また西宮市では住家全壊 1 棟、半壊 29 棟、流出 3 棟、住家浸水床上 625 棟、床下 3,300 棟（西宮市地域防災計画）の被害があった。

#### ⑤ 昭和 42（1967）年 7 月降雨（昭和 42 年 7 月豪雨）

本州の南岸に停滞していた梅雨前線に、大風 7 号から変わった熱帯低気圧から暖湿気流が流れ込み、前線の活動が活発化したため、九州地方から関東地方に多量の雨をもたらした。

神戸市では 7 月 8 日～9 日の総雨量が 361.1mm となり、9 日には 5 時まで 75.8mm の 1 時間降水量を記録した（気象庁ホームページより）。この降雨によって夕方ころから夜にかけて六甲山系からの土砂が市内に鉄砲水となって流れ出し、ところによっては水深 50～100cm の濁流が市街地を襲った。六甲山系の山沿いの宅地造成地では山崩れが相次いで起こり、家屋の流出・倒壊等で生き埋めによる犠牲者は 100 名にのぼった（神戸地方気象台ホームページより）。

大阪では 7 月 8 日～9 日の総雨量が 150.1mm、9 日には日降水量 83.3mm を記録し（気象庁ホームページより）、死者・行方不明者 20 名、住家浸水床上 12,277 棟、床下 65,843 棟の被害が生じた（大阪の気象 100 年）。淀川・猪名川では警戒水位を上回り、大阪府北部の安威川、勝尾寺川、箕面川、千里川、南部の石津川、津田川、樫井川等の中小河川は増水し、堤防の決壊、氾濫、橋梁流出の大きな被害が発生した（淀川河川事務所ホ

ームページより)。

本図幅においては、西宮市で死者 6 名、住家全壊 5 棟、半壊 10 棟、住家浸水床上 1, 289 棟、床下 18, 785 棟の被害があった (西宮市地域防災計画)。

#### ⑥ 昭和 47 (1972) 年 7 月降雨 (昭和 47 年 7 月豪雨)

7 月 3 日～6 日にかけて、黄海から日本海北部に伸びた前線を伴った低気圧に暖湿気流が流れ込み、九州と四国に局地的な大雨をもたらした。9 日～13 日にかけては前線が南下し、本州南岸から四国、九州付近に停滞した。日本南海上には台風 6, 7, 8 号があり、この影響で前線が活発化し、西日本で 400～600mm、山間部で 1, 000mm 前後の大雨となった。7/3～15 日の期間降水量は大阪で 331. 0mm、神戸で 327. 5mm を記録した。また淀川河川事務所の枚方出張所では警戒水位 (4. 50m) に対して最高水位は 3. 99m に達したに過ぎず、大阪市内では大きな被害はなかった (淀川河川事務所ホームページより)。

本図幅においては、猪名川左岸の伊丹市口酒井 (兵庫県) で内水氾濫が生じている。

#### ⑦ 昭和 58 (1983) 年 9 月降雨 (台風 10 号)

台風 10 号が西日本に停滞している秋雨前線を刺激、記録的な豪雨をもたらした。武庫川等が異常増水し、一時は溢水の危険性があった (尼崎市地域防災計画)。武庫川低地の薬師町・西宮北口 (西宮市) では内水氾濫が生じている。

本図幅においては、尼崎市で住家浸水床上 149 棟、床下 2, 283 棟 (尼崎市地域防災計画)、西宮市で死者・行方不明者 9 名、住家浸水床上 87 棟、床下 715 棟の被害があった (西宮市地域防災計画)。9 月 28 日の降水量は神戸で 197. 0mm、大阪で 149. 0mm を記録している (気象庁ホームページより)。

#### ⑧ 平成 2 (1990) 年 9 月降雨 (豪雨)

9 月 13 日にグアム島の南東海上で発生した台風 19 号は、発達しながら北西に進み 16 日には沖縄の南東で猛烈な強さになった。19 日 20 時過ぎには強い勢力で和歌山県白浜町付近に上陸、20 日 12 時前に三陸沖で温帯低気圧に変わった。一方、11 日～15 日に前線が本州上を南下したため、17 日頃から九州、四国、紀伊半島などで大雨となった (気象庁ホームページより)。武庫川低地の昭和町・甲子園口 (西宮市) では内水氾濫が生じている。

本図幅においては、西宮市で住家浸水床上 21 棟、床下 445 棟の被害があった。(西宮市地域防災計画)。

### (3) 地盤沈下

大阪市の地盤沈下は昭和 3 年 (1928 年) の水準測量で指摘され、昭和 9 年 (1934 年) の室戸台風により甚大な高潮被害を生じたことによって注目されるようになった。昭和 10 年～昭和 17 年には地下水需用の増加に伴い、年間沈下量の最大値が 20 cm を越えた。その後戦争末期と戦後にかけては沈静化するも、昭和 25 年以降の経済成長とともに再び沈下が激しくなり、昭和 35 年頃のピーク期には年間 20 cm 以上の年間沈下量を記録し

ており、昭和 36 年 (1961 年) の第 2 室戸台風により大きな浸水被害をもたらしている。その後地下水の採取規制などの対策によって昭和 38 年 (1961 年) 以降は鈍化し、昭和 40 年代後半以降は沈静化している (環境省ホームページより)。

本図幅においては、淀川河口部や西宮港、尼崎港周辺などの臨海部で 150cm から 200cm 以上の累積沈下量が観測されている。また、西宮港、尼崎港周辺では昭和 54 年以降にも 50cm~100cm 以上の大きな地盤沈下が生じているが、これは 1995 年の兵庫県南部地震の際の堤防・護岸の沈下などの影響によるものである。

## 6 調査成果図の見方・使い方

### 6.1 地形分類図

#### (1) 自然地形分類図

自然地形分類図は、既存の地形分類図等を参考に、空中写真、地形図等を利用して、宅地造成等により土地の人工改変が行われる前の自然地形を含め、地形の形態・形成時期・構成物質等により土地を分類した地図である（表 6-1）。

これまでの地形分類図では、現状の人工地形が優先して表示される場合があり、改変前の自然地形の詳細が把握できない等の問題を抱えていた。そのため、この調査で提供する自然地形分類図は、地形改変により不明瞭になった地形界線を明確に定めると同時に、かつて存在していた池沼や河川の状況、盛土される前の低地の地形等を分類・復元することで、現在は失われた過去の地形を読み取ることができるようにしている。土地をその成り立ちや、生い立ち、形態等により分類した地形分類図からは、災害に対するそれぞれの土地の潜在的可能性を知ることができる。

表 6-1 自然地形分類区分

	分類	定義
山地・丘陵地	山地斜面等	山地・丘陵地の斜面や台地縁辺の斜面等をいう。海岸の磯や岩礁、離れ岩等を含む。
	麓斜面及び崖錐	斜面の下方に生じた岩屑または風化土からなる堆積地形。
	土石流堆積地	岩塊、泥土等が水を含んで急速に移動、堆積して生じた地形で、溪床または谷の出口にあるもの。
台地	砂礫台地（更新世段丘）	更新世に形成された、地表の平坦な台状または段丘状の地域で、表層が厚く、且つ未固結の砂礫層からなるもの。
	砂礫台地（完新世段丘）	完新世に形成された、地表の平坦な台状または段丘状の地域で、形成時期が新しく、未固結の砂礫層からなるもの。
低地	緩扇状地	山麓部から氾濫原低地へと広がる、主として砂や礫からなる、傾斜の緩やかな扇状の堆積地域。
	扇状地	山麓部にあつて、主として砂や礫からなる、やや傾斜の急な扇状の堆積地域。
	谷底低地	山地、丘陵地、台地を刻む河川の堆積作用が及ぶ狭長な平坦地。
	氾濫原低地	扇状地と三角洲・海岸低地の中間に位置し、河川の堆積作用により形成された広く開けた平坦地で、自然堤防、旧河道または湿地を除く低地。
	自然堤防	河川により運搬されたシルト～中粒砂が、河道及び旧河道沿いに細長く堆積して形成された微高地。
	旧河道	過去の河川流路で、周囲の低地より低い帯状の凹地。
	湿地	自然堤防や、砂州等の後背に位置するため、河川の堆積作用が比較的及ばない沼沢性起源の低湿地。現況の湿地を含む。
	三角洲・海岸低地	河口における河川の堆積作用で形成された低平地。
	砂州・砂堆、礫州・礫堆	波、河流または潮流によって生じた砂または礫の堆積した微高地。
	天井川及び天井川沿いの微高地	堤防設置によって周囲の地形面より高くなった河床及びこれに沿って形成された微高地。
	河原・河川敷	現況の河原及び河川敷（低水敷・高水敷）をいい、堤内地の旧河原・旧河川敷を含む。
	浜	汀線付近の砂や礫で覆われた平坦地（砂浜及び礫浜）をいい、人工改変地内の旧浜を含む。
	水部	現水部
旧水部		過去の海または湖沼等で、現存しないもの。
副分類	崖	長く延びる一連の急傾斜の自然斜面。
	凹地・浅い谷	細流や地下水の働きによって台地または扇状地等の表面に形成された凹地や浅い谷。

#### (2) 人工地形分類図

人工地形分類図は、宅地造成等に伴って地形が改変されている範囲を最近の空中写真

や地形図等を利用して抽出し、土地の改変状況によって「人工平坦地」や「盛土地」等に分類した地図である(表 6-2)。

昨今、特に都市地域では、市街地の拡大に伴って、従来の地形の多くが大きく改変されるとともに、開発から年月が経過し、最近は土地本来の自然の状況(自然地形)がわからなくなっている地域が各地で見られるようになっている。

丘陵地等で住宅団地の開発のため、切り盛り造成等により宅地整備が行われた「人工平坦地」の中には、現在ほとんど平坦な土地であっても、開発前には尾根や谷が入り組んだ起伏のある土地だったところがある。この調査では、そうした人工平坦地内について、かつて谷があった場所を、開発前の状況がわかる地形図や空中写真から調査し、「旧谷線」として表示している。

また低地では、かつて水田等に利用されていた低湿地等に土を盛って造成した「盛土地」や、池沼を埋め立てた「埋立地」等の人工地形を分類している。こうした情報を自然地形分類と組み合わせて活用することにより、土地の安全性に関する情報を得ることができる。

表 6-2 人工地形分類区分

大分類	小分類	摘要
人工平坦地 (切り盛り造成地)	宅地等	山地・丘陵地や台地等の斜面を切土または盛土により造成した平坦地や緩傾斜地のうち、主として住宅や工業団地等の造成によるもの。造成に伴って生じた人工斜面を含む。
	農地等	上記のうち、主に農地整備、ゴルフ場造成等によるもの。造成に伴って生じた人工斜面を含む。
	旧谷線	人工平坦化地内の山地・丘陵地にかつて存在した谷線。
改変工事中の区域		人工的な地形改変が進行している区域及び採石・採土場、採鉱地等及びその跡地。
盛土地		低地等に 0.5m 以上盛土して造成された土地。台地上の凹地・浅い谷部分の盛土地を含む。
埋立地		水部等を埋め立てして造成された土地。
切土地		山地・丘陵地や台地等の斜面を人工的に切土して生じた平坦地及び急傾斜の人工斜面。

### (3) 地形分類図から見た土地の安全性

自然地形分類図及び人工地形分類図からは、災害に対するそれぞれの土地の潜在的な可能性を判断することができる。特に人工地形が分布する地域では自然地形分類を合わせて参照し、その土地の元々の地形条件を把握することにより、土地の安全性に関する詳細な情報を得ることができる。

例えば低地の盛土地は、谷底低地、氾濫原低地、旧河道・三角州・海岸低地・湿地といった、盛土施工前の地形を自然地形分類図から判断することにより、表 6-3 に示すような地震の揺れの大きさや液状化の可能性、高潮や洪水氾濫による浸水の可能性等を知ることができる。

表 6-3 地形分類と潜在的な自然災害の可能性

分類		地震に際して予想される災害	大雨・洪水に対して予想される災害		
自然地形が分布する地域	山地	山地斜面等	崖や急斜面の近くでは、斜面崩壊や落石の可能性はある。	急斜面等では斜面崩壊の可能性があり、上流部の地質や崩壊の状況により、豪雨時には谷沿いや谷の出口付近で土石流発生の可能性はある。	
		麓斜面及び崖錐	背後に崖や急斜面がある場所では、斜面崩壊や落石の可能性はある。また、地質や傾斜等の状況によっては地すべりが発生する可能性がある。	谷沿いや谷の出口付近では、上流部に崖錐や麓斜面が多数存在する場合、豪雨時に土石流発生の可能性はある。また、地質や傾斜等の状況によっては地すべりが発生する可能性がある。	
		土石流堆積地	傾斜のある場所では、斜面崩壊や落石の可能性はある。地質や傾斜等の状況によっては地すべりが発生する可能性がある。	豪雨時に土石流発生の可能性はある。また、地質や傾斜等の状況によっては地すべりが発生する可能性がある。	
	低地	台地	砂礫台地（更新世段丘）（完新世段丘）	台地の縁辺部の斜面では崩壊や地すべりの可能性はある。	通常は洪水時に浸水することはないが、凹地などでは浸水することがある。また、低地や近くの水路との間に十分な高さが無い台地では、洪水時に冠水することがある。逆に低地との間に高さがある台地では、縁辺部での斜面崩壊や地すべりの可能性はある。こうした地域では過去の浸水実績や土砂災害実績を知ることが有効である。
			緩扇状地	一般的に地盤は良好だが、末端部では液状化の可能性はある。	豪雨時に砂礫の浸食・堆積の可能性はあるが、排水は良好である。上流部の状況により、洪水時には土石流発生の可能性はある。
		扇状地	一般的に地盤は良好だが、末端部では液状化の可能性はある。	豪雨時に砂礫の浸食・堆積の可能性はあるが、排水は良好である。上流部の状況により、洪水時には土石流発生の可能性はある。	
		谷底低地	低地の中でも堆積物の状況により地震の揺れが増幅される可能性がある。また、斜面の近くでは、斜面崩壊の危険性がある。	洪水時に冠水することもあるが、概ね排水は速やかである。斜面の近くでは、斜面崩壊の可能性はある。	
		氾濫原低地	低地の中でも地震の揺れが増幅されやすく、液状化の可能性はある。	河川洪水、内水氾濫の可能性はある。	
		自然堤防	低地の中でも地震の揺れが増幅されやすく、液状化の可能性はある。	異常の洪水時に浸水することがあるが、周囲の氾濫原低地と比べ高く、排水も速やかである。	
		旧河道	低地の中でも地震の揺れが増幅されやすく、液状化の可能性が特に高い地域である。	明瞭な凹地では洪水の通り道となる場合があり、排水状況も悪いため、浸水時には長く湛水することがある。	
		湿地	地震の揺れが増幅され、地盤変異の可能性はある。	盛土の状況により違いはあるが、洪水時には排水がきわめて悪く、長時間湛水する可能性がある。	
		三角州・海岸低地	低地の中でも地震の揺れが増幅されやすく、液状化の可能性が特に高い地域である。また、津波により浸水することがある。	洪水時に湛水したり、高潮による浸水の可能性はある。	
		砂州・砂堆、礫州・礫堆	地震の揺れが増幅され、砂州と砂州の間の低地では液状化の可能性はある。また、海岸沿いでは、津波の大きさによっては浸水することがある。	比高の小さい砂州・砂堆では洪水や異常の高潮等で冠水することがあるが、排水は速やかである。	
天井川及び天井川沿いの微高地	地震の揺れで天井川の堤防が崩壊、決壊等した場合、周辺の低地部への流水の可能性はある。	河川の増水による、周辺の低地部への流水の可能性はある。			
人工地形が分布する地域	山地・台地等	人工平坦地（宅地等）	特に谷埋め盛土地やその周辺では、地盤が変形したり盛土部分が崩壊する可能性がある。	背後に急傾斜面がある場合では、斜面崩壊の可能性はある。また、盛土地では崩落や地すべりの可能性はある。	
		人工平坦地（農地等）	特に谷埋め盛土地やその周辺では、地盤が変形したり盛土部分が崩壊する可能性がある。	背後に急傾斜面がある場合では、斜面崩壊の可能性はある。また、盛土地では崩落や地すべりの可能性はある。	
		変更工事中の区域	採石・採土中の切土地周辺では、斜面崩壊の可能性はある。	採石・採土中の切土地周辺では、斜面崩壊の可能性はある。	
	低地	盛土地	谷底低地の盛土地	低地の中でも地震の揺れが増幅されやすく、高い盛土地ではさらに揺れが増幅される可能性がある。	十分な盛土の高さが無い土地では、洪水時に浸水することがあるが、概ね排水は速やかである。
			氾濫原低地の盛土地	低地の中でも地震の揺れが増幅されやすく、高い盛土地ではさらに揺れが増幅される可能性がある。	十分な盛土の高さが無い土地では、河川洪水、内水氾濫の可能性はある。
			旧河道、三角州・海岸低地、湿地等の盛土地	低地の中でも地震の揺れが増幅されやすく、液状化の可能性はある。高い盛土地では、さらに揺れが増幅される可能性がある。	十分な盛土の高さが無い土地では、河川洪水、内水氾濫の可能性はある。
		埋立地	低地の中でも地震の揺れが増幅されやすく液状化の可能性が特に高い土地である。	周囲の水面に比べ十分に盛土の高さが無い土地では、河川洪水、内水氾濫等により浸水する可能性がある。	
		切土地	切土斜面が半固結・未固結の場合、地震の揺れによる崩壊の可能性はある。	切土斜面が半固結・未固結の急斜面の場合、斜面崩壊の可能性はある。	
		旧谷線	旧谷線の周辺は厚い盛土の可能性があり、地震の揺れが増幅され、地盤が変形したり盛土部分が崩壊する可能性がある。	旧谷線の周辺は厚い盛土の可能性があり、異常降雨時には地盤が緩み、盛土部分が崩壊する可能性がある。	

## 6.2 土地利用分類図

土地利用分類図は、現在から概ね 100 年前（明治期）及び概ね 40 年前（昭和 40 年代）の 2 時期の旧版地図を判読し、地形図作成当時の土地利用を分類し、その分布状況を表示した地図である。

（第 1 期） 現在から概ね 100 年前の明治期の地形図には、当時の市街地や集落、森林・農地・河川等が詳細に描かれている。土地利用分類図では、それらを判読し、主要な土地利用ごとに色分けして表示している。

（第 2 期） わが国では、1960 年代後半から空中写真を利用した精度の高い地形図の整備が全国的に開始された。その時代の地形図から作成した土地利用分類図では、現在から概ね 40 年前の土地利用の状況を読み取ることができる。

なお、明治期、昭和期の 2 時期の土地利用分類図は、共通の凡例で分類している。そのため、現在の地形図を背景に 2 時期の土地利用分類図を見比べることにより、その都市の現在の市街地で、かつてどのような土地利用がなされていたかを知ることができる。

表 6-4 土地利用分類区分

分類	定義
田	水稲、い草などを栽培している田。季節により畑作物を栽培するものを含む。
沼田	泥が深く、ひざまでぬかるような田（この分類は明治期だけに適用）。
畑	麦・陸稲・野菜などを栽培する土地をいい、牧草地、芝地を含む。
果樹園	りんご・梨・桃・ブドウなどの果樹を栽培する土地。
樹木畑	桑、茶を栽培している土地。桐・はぜ・こうぞ・しゅろ等を栽培している畑を含む。
森林	高さ 2 m 以上の多年生植物の密生している地域。植林地においては樹高が 2 m 未満であっても森林とする。高さ 2 m 以下の竹、笹の密生している土地。
荒地・海浜等	自然の草地からなる土地及び露岩地、崩壊地、砂礫地などで植物に覆われていない土地。万年雪で覆われた土地を含む。
湿地	干上がった湖沼の跡などの排水の悪い土地で、雨期には水をたたえるところ。
建物用地	住宅や建物類似の構築物、商業・業務・工業・公共・流通・通信・各種の処理施設等に利用されている土地。
交通施設用地	鉄道、道路、空港などに利用されている土地。
その他の用地	空地、公園緑地、墓地、採石地、採鉱地、自衛隊などの特別な用途に利用されている土地。
水部	河川、湖沼、ため池等の内水面および海面や干潟。

## 6.3 災害履歴図

災害履歴図は、国、地方公共団体、その他関係各機関等が調査した資料に基づき、地域に大きな影響を与えた災害の発生状況や、その被害の様子を示した地図で、災害の種類ごと分けて作成している。この図では、比較的信頼性の高い情報のうち、最低でも縮尺 1/50,000（図上の 1 cm が現地の 500m に相当）レベル以上の精度を持つ資料を選定して表示している。なお、地図には災害状況等の情報とともに、対象とした資料で扱った調査範囲を示している。引用する被害調査図等の資料が不十分なため、地図に掲載されていない災害があるほか、災害の種類や規模等の条件により、調査範囲外の地域でも被害が生じているような場合があり、この地図に全ての災害が表示されているわけではないことに留意する必要がある。

なお、災害履歴図の作成にあたり参照した資料の詳細や、被害の場所等を特定できない災害の状況等、その他参考になる事項を、この説明書に記述している。災害履歴図は、



地形分類図や土地利用図等と見比べたり、さらに詳しい文献を調べたりすることで、その土地の安全性について理解を深めることができる。

なお、災害発生後の堤防整備や下水道整備、地盤の改良等の防災対策が行われている場合などには、災害発生当時に比べて、現在は土地の安全性が向上している可能性があることにも留意する必要がある。

#### 6.4 成果図面の使い方

本図幅内で今後も想定される自然災害被害としては、本調査の災害履歴等からみて、台風や異常降雨時の高潮や河川氾濫等の浸水被害・土砂災害と、大規模地震発生時の建物倒壊や液状化等の地震災害、津波災害等が考えられる。これらの被害想定については、国や各自治体が作成している各種ハザードマップにより、現時点で災害が発生した場合の被害の規模について、ある程度予測することが可能である。

しかし、今後も地形改変をとまなう土地利用の変化が続くと仮定した場合、ハザードマップ等からでは、新たに地形改変が行われた場所でどのような災害被害が発生するかを予測することは困難である。本図幅においては、また、すでに人工改変が行われているような場所でも、建築物の更新や再開発等が行われることも考えられる。

そのような場合において、その土地本来の地形や過去の災害履歴から、自然災害に対する危険度が高い地域なのかどうかを事前に知っておくことは非常に重要であり、災害が発生した場合でも被害を最小限に留めるための対策を取ることが可能となる。

本成果図面の使い方としては、一例として以下のような利用方法が考えられる。

- ・現在、本図幅内の土地に住む住民、あるいはこれから住まいを構える住民に対し、その土地の地形特性からみた災害に対する危険性をあらかじめ認識いただき、住民自ら、災害が発生した場合を想定した避難行動や被害を最小限にするための安全対策を考える機会を提供する。
- ・各地域における自治会や自主防災組織等が、自分たちが住む地域の自然災害に対する危険性や過去の被害状況を把握することにより、より具体的な災害状況を想定した避難訓練の実施や、防災物資等の備蓄に役立てることができる。
- ・学校教育や生涯学習等の場を通して、自分たちの住む地域の自然地誌を学ぶとともに、災害と地形との因果関係や過去の災害履歴等から、災害から身を守るための防災教育での資料として活用する。
- ・低地部で新たな開発等を行う場合、地形分類より地盤強度が想定できることから、軟弱地盤の土地においては、計画場所の変更や軟弱地盤対策工法の選択等、事前に対策を講じることが可能となる。また、災害履歴から、その土地における過去の被害程度の把握ができることから、防災・減災に向けた対策の必要性についても事前に検討できる。
- ・緩斜面で切り盛り造成等により人工改変を行う場合、地形分類より地盤強度が想定できることから、麓屑面や崖錐などの落石や地すべり等土砂災害の危険性が高い場所では、計画場所の変更や砂防対策の施工等、事前に対策を講じることが可能となる。また、災害履歴から、その土地と似た地形条件の場所の土砂災害発生履歴が分

かることから、防災・減災に向けた対策の必要性についても事前に検討できる。

防災に関しては、これまでは行政の側から語られることが多かったが、近年の市町村合併による行政単位の拡大や、行政改革にともなう行政職員の減少や防災関連費用の削減等により、行政のみではきめ細やかな防災対策の実施が困難な状況となっている。

また、近年では集中豪雨などによる災害の局所化、都市部への人口集中などによる被害の甚大化が予測され、事前の防災対策の必要性・重要性がますます高まっている。

そのため、上記で述べたように、本成果図面を活用することにより、行政だけでなく、地域住民が主体となった防災・減災対策を立てるとともに、新たな土地利用を計画する際に、事前に自然災害に対する危険性を予測し、計画の変更や防災・減災対策の導入に役立てることが望まれる。

## 7 引用資料及び参考文献

### 7.1 引用資料

#### (1) 人工地形及び自然地形分類図

地形分類図は、土地の「成り立ち・生い立ち・形」で色分けした地図であり、災害を引き起こす自然現象に対する土地の潜在的な可能性を知ることができる。土地履歴調査では、自然状態の地形によって土地を区分した地図（自然地形分類図）の上に、人間が造成した土地の状況を示した地図（人工地形分類図）を重ね合わせ表示した地図を「人工地形及び自然地形分類図」と呼んでいる。

大阪西北部地区の「人工地形及び自然地形分類図」は、以下の方法により作成した。

- ①「自然地形分類図」は、2万5千分の1土地条件図（国土地理院）を基本資料とし、以下の資料を引用または利用して編集した。編集にあたっては、空中写真の補足判読により一部修正を行った。

国土地理院（1981）：2万5千分の1 土地条件図「大阪西北部」。

大阪府（1978）：5万分の1 土地分類基本調査（地形分類図）「大阪西北部（大阪府）、大阪東北部（大阪府）」。

兵庫県（1996）：5万分の1 土地分類基本調査（地形分類図）「大阪西北部」

判読に使用した空中写真は、

M265（昭22.4.26 米軍撮影）、M496（昭22.9.23 米軍撮影）、

M527（昭22.10.4 米軍撮影）、M540（昭22.10.8 米軍撮影）。

- ②「人工地形分類図」は、2万5千分の1地形図「宝塚」「西宮」（平成17年更新）「伊丹」「大阪西北部」（平成20年更新）の読図及び空中写真（MKK-2004-3X, 国土地理院撮影）の補足判読により作成したもので、おおむね平成17年時点の地形の状況を反映している。

なお、本図の作成にあたっては、海津正倫（奈良大学教授（名古屋大学名誉教授））、加藤茂弘（兵庫県立人と自然の博物館主任研究員）、高田将志（奈良女子大学大学院教授）、三田村宗樹（大阪市立大学大学院教授）の各氏の指導をいただいた。

#### (2) 土地利用分類図

大阪西北部地区の「土地利用分類図」は、現在から約100年前（1910年頃）及び約40年前（1970年頃）の2時期を対象に、それぞれの年代に測量された地形図を資料として、当時の土地利用の状況を、資料とした地形図から読み取れる情報の範囲内で分類し、その結果を5万分の1の縮尺精度に編集したものである。本地区の「土地利用分類図」の作成にあたっては、以下の地形図を利用した。

##### 【第1期（明治期、1910年頃）】

- ・5万分11地形図「大阪西北部」明治42及3年測図、大正3年一部修正、大正5.3.30発行、図式は明治42年式地形図図式
- ・5万分1地形図「神戸」大正2年縮図、大正3.7.30発行、図式は明治42年式地形

## 図図式

### 【第2期（昭和期、1970年頃）】

- ・ 5万分1地形図「大阪西北部」昭和43年編集（資料：昭和42年改測1:25,000地形図、昭和43年9月地下鉄補入（昭和42年9月大阪市交通局作成の1:30,000路線図を使用）、昭和43年9月阪神高速道路池田線補入（昭和35年9月阪神高速道路公団作成の1:3,000路線図を使用））、昭和44.6.30発行、図式は昭和40年式1:50,000地形図図式

なお、本図の背景に使用した地形図は、調査時点の最新図（平成11年要部修正）である。

### (3) 災害履歴図

災害履歴図は、地方公共団体や関係行政機関、研究機関、大学等が調査した水害、地震災害、土砂災害等の現地調査図等の資料より、調査地域内で過去に発生した災害による被害区域や被害箇所に関する情報を示した地図である。ここで提供する情報は、概ね5万分の1程度の縮尺レベルで作成されており、位置誤差を含むほか、地図上で表示をまとめたり省略したりしている場合がある。

また、引用する被害調査図等の資料が不十分なため、地図に掲載されていない災害もある。被害の場所等を特定できない災害等については、別途災害年表や調査説明書本文に記載しているものもある。

なお、災害発生後の堤防整備や下水道整備、地盤の改良等の防災対策が行われている場合などには、災害発生当時に比べて、現在は土地の安全性が向上している可能性がある。

災害履歴図の作成にあたっては、以下の資料を引用した。

#### 【水害】

##### ① 1938年7月水害

- ・ 昭和13（1938）年7月降雨（大雨）による浸水区域を、社団法人日本河川協会（1991）『表六甲河川浸水実績図（全国の浸水実績図Ⅱ）』、建設省猪名川工事事務所（1984）『猪名川流域浸水実績図』、国土交通省近畿地方整備局『土石流発生状況、被害状況位置図（昭和13年災）』より編集。

##### ② 1950年9月水害

- ・ 昭和25（1950）年9月降雨・高潮（ジェーン台風）による浸水区域を、大阪市史編纂所（1996）『ジェーン台風の被害と高潮対策（新修大阪市史 第十巻 図9 戦災復興期の大阪）』より編集。

##### ③ 1953年9月水害

- ・ 昭和28（1953）年9月降雨（台風13号）による浸水区域を、建設省猪名川工事事務所（1984）『猪名川流域浸水実績図』より編集。

##### ④ 1961年9月水害

- ・ 昭和36（1961）年9月降雨・高潮（第2室戸台風）による浸水区域を、大阪府土木部（1991）『第二室戸台風の高潮による大阪市内浸水実績図』より編集。

##### ⑤ 1967年7月水害

- ・昭和 42 (1967) 年 7 月降雨 (昭和 42 年 7 月豪雨) による浸水区域を、建設省猪名川工事事務所 (1984) 『猪名川流域浸水実績図』、国立防災科学技術センター 『昭和 42 年 7 月 8・9 日豪雨による寝屋川流域洪水状況図』、兵庫県土木部 『表六甲河川浸水実績図 神戸市 (中央区・灘区・東灘区)』、尼崎市 (1967) 『昭和 42 年 7 月集中豪雨浸水状況図 尼崎市 (昭和 42 年 7 月集中豪雨浸水状況写真集)』、西宮市 『西宮浸水箇所図 昭和年間』 より編集。

⑥ 1972 年 7 月水害

- ・昭和 47 (1972) 年 7 月降雨 (昭和 47 年 7 月豪雨) による浸水区域を、建設省猪名川工事事務所 (1984) 『猪名川流域浸水実績図』 より編集。

⑦ 1983 年 9 月水害

- ・昭和 58 (1983) 年 9 月降雨 (台風 10 号) による浸水区域を、西宮市 『西宮浸水箇所図 昭和年間』 より編集。

⑧ 1990 年 9 月水害

- ・平成 2 (1990) 年 9 月降雨 (豪雨) による浸水区域を、西宮市 『西宮浸水箇所図 平成 2 年 (9 月) 集中豪雨』 より編集。

【土砂災害発生箇所 (がけ崩れ・土石流)】

⑨ 1938 年 7 月土砂災害

- ・昭和 13 (1938) 年 7 月降雨 (大雨) による土砂災害を、国土交通省近畿地方整備局 『土石流発生状況, 被災状況位置図 (昭和 13 年災)』、住吉村 (1939) 『昭和十三年七月五日大水害 住吉村被害地略圖 (昭和十三年大水害誌)』 より編集。

⑩ 1967 年 7 月土砂災害

- ・昭和 42 (1967) 年 7 月降雨 (昭和 42 年 7 月降雨) による土砂災害を、国土交通省近畿地方整備局 『土石流発生状況, 被災状況位置図 (昭和 42 年災)』 より編集。

【地震災害】

〈その 1〉

① 1995 年兵庫県南部地震被害

- ・建物被害は、建設省建築研究所 (1996) 『建築物被災度集計結果データ (平成 7 年兵庫県南部地震被害調査最終報告書)』、国土地理院 (1995) 『平成 7 年度兵庫県南部地震災害現況図 (第 II 版)』 より転載。
- ・道路・鉄道の被害は、国土庁土地局国土調査課 (1999) 『阪神・淡路地域地形変動図 (災害類型別土地保全基本調査 (阪神・淡路地域))』、国土地理院 (1995) 『平成 7 年度兵庫県南部地震災害現況図 (第 II 版)』 より転載。
- ・火災による被害は、国土地理院 (1995) 『平成 7 年度兵庫県南部地震災害現況図 (第 II 版)』 より転載。
- ・港湾の被害は、国土庁土地局国土調査課 (1999) 『阪神・淡路地域地形変動図 (災害類型別土地保全基本調査 (阪神・淡路地域))』、国土地理院 (1995) 『平成 7 年度兵庫県南部地震災害現況図 (第 II 版)』 より転載。

〈その 2〉

② 1854 年安政南海地震被害

- ・津波高は、渡辺偉夫 (1998) 『日本被害津波総覧 (第 2 版)』 より転載。

② 1891年濃尾地震被害

- ・液状化被害は、若松加寿江（2011）『日本の液状化履歴マップ 745-2008（DVD-ROM付き）』より転載。

③ 1995年兵庫県南部地震被害

- ・山地崩壊・地すべりは、国土庁土地局国土調査課（1999）『阪神・淡路地域災害状況図（災害類型別土地保全基本調査（阪神・淡路地域））』、国土庁土地局国土調査課（1999）『阪神・淡路地域地形変動図（災害類型別土地保全基本調査（阪神・淡路地域））』より転載。
- ・地盤形状は、国土地理院（1995）『平成7年度兵庫県南部地震災害現況図（第Ⅱ版）』より転載。
- ・液状化被害は、若松加寿江（2011）『日本の液状化履歴マップ 745-2008（DVD-ROM付き）』より転載。

【地盤沈下】

- ・阪神地区地盤沈下連絡協議会『阪神地区地盤沈下調査広域水準測量の成果（昭和39年～平成21年）』、尼崎市（2009）『尼崎市平成21年度精密水準測量成果簿』、西宮市（1995）『西宮市水準測量成果（平成7年6月）』、西宮市（2010）『西宮市水準測量成果（平成22年3月）』より編集。

なお、各地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の5万分の1地形図、空中写真、数値地図50000（地図画像）、数値地図25000（土地条件）及び基盤地図情報を使用した。（承認番号 平24 情使、第534号）

## 7.2 参考文献

本調査説明書の作成にあたっては、以下の資料、文献等を参考とした(50音順)。

(地形分類・土地利用)

- 埋立都市大阪研究会 (2012) 絵図から読み解く近世大阪三郷周辺地域の環境、埋立都市大阪研究会.
- 大阪府 (1978) 1/50,000 土地分類基本調査 (国土調査)「大阪西北部 (大阪府)、大阪東北部 (大阪府)」, 大阪府土木部都市整備局.
- 太田陽子・成瀬敏郎・田中眞吾・岡田篤正 - 編 (2004) 日本の地形 6 近畿・中国・四国、東京大学出版会, 68-75, 82-84, 92-101.
- 岡義記 (1963) 大阪平野北西部の地形発達史, 地理学評論, 36 (6), 309-322.
- 北田奈緒子・竹村恵二・三田村宗樹・中川康一 (2005) 大阪堆積盆地 (大阪湾岸域～大阪平野部) の堆積環境と表層構造, 土と基礎, 53(6), 7-9.
- 経済企画庁 (1974) 1/200,000 土地分類基本調査「兵庫県」, 経済企画庁.
- 建設省 (1993) 淀川水害地形分類図 (その 2) 淀川水害地形分類図, 建設省近畿地方建設局淀川工事事務所.
- 国土庁 (1976) 1/100,000 土地分類基本調査「大阪府」, 国土庁土地局.
- 国土地理院 (1981) 1/25,000 土地条件図「大阪西北部」 昭和 56 年調査.
- 国土地理院 (1983) 土地条件調査報告書 (大阪地区), 国土地理院.
- 総理府 (2000) 阪神・淡路大震災復興誌, 総理府阪神・淡路復興対策本部事務局.
- 田中眞吾 (2007) 兵庫の地理 地形で読む大地の歴史, のじぎく文庫, 154-166, 171-188.
- 中央防災会議事務局 (2006) 中央防災会議「東南海、南海地震等に関する専門調査会」(第 26 回) 中部圏・近畿圏の内陸地震の震度分布等の検討資料集, 中央防災会議事務局.
- 兵庫県 (1996) 1/50,000 土地分類基本調査 (国土調査)「大阪西北部」, 兵庫県都市住宅部土地対策課.
- 藤田和夫・笠間太郎 (1982) 地域地質研究報告 1/50,000 地質図幅 大阪西北部地域の地質, 地質研究所.
- 増田富士雄・宮原伐折羅 (2000) 大阪湾地域の完新統海成粘土層の特徴と形成過程, 第四紀研究, 39 (4), 349-355.
- 三田村宗樹 (2009) 近代・現代の地形改変 - 大阪周辺地域を例として -, デジタルブック 最新第四紀学, 日本第四紀学会 50 周年電子出版委員会編, CD-ROM および概説集.
- 三田村宗樹 (2009) 大阪・神戸の都市地質, デジタルブック 最新第四紀学, 日本第四紀学会 50 周年電子出版委員会編, CD-ROM および概説集.
- 吉岡敏和・宮地良典・寒川旭・下川浩一・奥村晃史・水野清秀・松山紀香 (1995) 兵庫県南部地震に伴う阪神地区の被害分布と微地形, 地質ニュース, 491 号, 24 - 28.
- 1/200,000 土地分類図 (地形分類図) 「兵庫県」(昭和 49 年発行), 経済企画庁
- 1/100,000 土地分類図 (地形分類図) 「大阪府」(昭和 51 年発行), 国土庁
- 1/50,000 土地分類基本調査 「大阪西北部」(表層地質図)(平成 10 年発行), 兵庫県
- 1/50,000 土地分類基本調査 「大阪西北部」(地形分類図)(平成 10 年発行), 兵庫県

- 1/50,000 土地分類基本調査 「大阪西北部」(土壤図)(平成10年発行), 兵庫県
- 1/50,000 土地分類基本調査 「大阪西北部(大阪府)、大阪東北部(大阪府)」(表層地質図)  
(昭和53年発行), 大阪府
- 1/50,000 土地分類基本調査 「大阪西北部(大阪府)、大阪東北部(大阪府)」(地形分類図)  
(昭和53年発行), 大阪府
- 1/50,000 土地分類基本調査 「大阪西北部(大阪府)、大阪東北部(大阪府)」(土壤図)(昭和53年発行), 大阪府
- 1/50,000 地形図 「大阪西北部」大正3年一部修正(大正5.3.30発行), 国土地理院.
- 1/50,000 地形図 「大阪西北部」昭和43年編集(昭和44.6.30発行), 国土地理院.
- 1/25,000 地形図 「宝塚」昭和7年要部修正(昭和12.8.30発行), 国土地理院.
- 1/25,000 地形図 「宝塚」昭和43年編集(昭和44.6.30発行), 国土地理院.
- 1/25,000 地形図 「伊丹」大正12年測量(昭和2.9.30発行), 国土地理院.
- 1/25,000 地形図 「伊丹」昭和42年改測(昭和44.3.30発行), 国土地理院.
- 1/25,000 地形図 「西宮」昭和7年要部修正(昭和11.2.28発行), 国土地理院.
- 1/25,000 地形図 「西宮」昭和43年改測(昭和44.3.30発行), 国土地理院.
- 1/25,000 地形図 「大阪西北部」昭和7年部分修正測量(昭和9.10.30発行), 国土地理院.
- 1/25,000 地形図 「大阪西北部」昭和42年改測(昭和44.3.30発行), 国土地理院.
- 1/25,000 治水地形分類図 「伊丹」昭和49年修正測量(昭和50.8.30発行), 国土地理院.
- 1/25,000 治水地形分類図 「伊丹」平成24年更新, 国土地理院. \*
- 1/25,000 治水地形分類図 「大阪西北部」昭和46年修正測量(昭和48.1.30発行), 国土地理院.
- 1/25,000 治水地形分類図 「大阪西北部」平成24年更新, 国土地理院. \*
- 内閣府 阪神・淡路大震災 総括・検証 調査シート  
(<http://www.bousai.go.jp/kensho-hanshinawaji/chosa/index.htm>)
- 兵庫県 武庫川周辺における水害に関する記録  
([http://web.pref.hyogo.lg.jp/hn04/hn04\\_1\\_000000143.html](http://web.pref.hyogo.lg.jp/hn04/hn04_1_000000143.html))  
(災害履歴調査)
- 尼崎市(2012) 尼崎市地域防災計画.
- 宇佐美龍夫(2003) 最新版日本地震被害総覧 416-2001. 東京大学出版会, 605p.
- 遠藤秀典・村田泰章・卜部厚志(1996) 平成7年兵庫県南部地震による神戸市・芦屋市・西宮市における家屋の被害分布. 地質調査所月報, 47(2/3), pp.67-77.
- 大阪管区气象台(1982) 大阪の気象100年. 312p.
- 大阪府(1979) 地下水採取規制図 累積沈下等量線図(大阪府の地盤沈下).
- 大阪府(2012) 大阪府環境白書 平成24年.
- 大阪府(2012) 大阪府地域防災計画.
- 岡田義光(2012) 日本の地震地図 東日本大震災後版. 東京書籍, 223p.
- 釜井俊孝・鈴木清文・磯部一洋(1996) 平成7年兵庫県南部地震による都市域の斜面変動. 地質調査所月報, 47(2/3), pp.175-200.
- 建設省国土地理院(1965) 土地条件調査報告書(大阪平野). 99p.
- 国土交通省近畿地方整備局大和川河川事務所(2009) 大和川水系河川整備基本方針.



国土交通省近畿地方整備局大和川河川事務所（2010）亀の瀬地すべり対策事業。

国土交通省国土政策局国土情報課（1999）土地保全基本調査（阪神・淡路地域）報告書. 79p.

地震調査研究推進本部地震調査委員会（2009）日本の地震活動－被害地震から見た地域別の特徴，第2版，496p.

関口辰夫・前野 政克（1995）兵庫県南部地震における「1万分1及び2.5万分1災害現況図」の作成. 国土地理院時報，No83，pp. 61-65.

内閣府（2009）中央防災会議「東南海、南海地震等に関する専門調査会」中部圏・近畿圏の内陸地震に関する報告.

西田顕郎・小橋澄治・水山高久（1996）土砂災害用データベースを活用した，兵庫県南部地震による山腹崩壊分布の解析. 砂防学会誌，Vol. 49，No. 1(204)，pp. 19-24.

羽鳥徳太郎（1980）大阪府・和歌山県沿岸における宝永・安政南海道津波の調査. 地震研究所彙報，Vol. 55，pp. 505-535.

兵庫県（2012）兵庫県地域防災計画.

三田村 宗樹，中川 康一，升本 眞二，塩野 清治，吉川 周作，古山 勝彦，佐野 正人，橋本 定樹，領木 邦浩，北田 奈緒子，井上 直人，内山 高，小西 省吾，宮川 ちひろ，中村 正和，野口 和晃，Shrestha Suresh，谷 保孝，山口 貴行，山本 裕雄（1996）1995年兵庫県南部地震による西宮・大阪地域の震害と地盤構造. 第四紀研究，35(3)，pp. 179-188.

宮澤清治・日外アソシエーツ編（2008）台風・気象災害全史<シリーズ災害・事故史3>. 日外アソシエーツ，477p.

若松加寿江(2011)日本の液状化履歴マップ 745-2007(DVD+解説書). 東京大学出版会，90p.

渡辺偉夫（1998）日本被害津波総覧[第2版]. 東京大学出版会. 238p.

環境省ホームページ「全国地盤環境情報ディレクトリ（平成23年度版）」  
([http://www.env.go.jp/water/jiban/dir\\_h23/index.html](http://www.env.go.jp/water/jiban/dir_h23/index.html))（平成24年）

気象庁ホームページ「気象統計情報」  
(<http://www.jma.go.jp/jma/menu/report.html>)

気象庁ホームページ「災害をもたらした気象事例」  
(<http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/data/bosai/report/index.html>)（平成24年）

神戸海洋気象台ホームページ「兵庫県災害年表」  
([http://www.jma-net.go.jp/kobe/shiryou/saigai\\_nenpyou/saigai2\\_index.html](http://www.jma-net.go.jp/kobe/shiryou/saigai_nenpyou/saigai2_index.html))

神戸市ホームページ「神戸 災害と戦争資料館」  
(<http://www.city.kobe.lg.jp/safety/disaster/index.html>)

神戸地方気象台ホームページ「兵庫県災害年表」（各年度）  
([http://www.jma-net.go.jp/kobe-c/shiryou/saigai\\_nenpyou/saigai2\\_index.html](http://www.jma-net.go.jp/kobe-c/shiryou/saigai_nenpyou/saigai2_index.html))

国土交通省近畿地方整備局淀川河川事務所ホームページ「淀川を知る 洪水の記録」  
(<http://www.yodogawa.kkr.mlit.go.jp/know/old/flood/index.html>)

## 資料

災害年表（地震災害）

災害年表（風水害）

# 災害年表(地震災害)

西暦 (和暦)	地域 (地震名称)	震央位置(°)		規模 (M)	記事		出典	出典
		北緯	東経		大阪府	兵庫県		
868年8月3日 (貞観10年7月8日)	播磨・山城	34 4/5	134.8	M≥7.0			播磨諸郡で家屋全壊多数。	日本の地震活動一被害地震から見た地域別の特徴
887年8月26日 (仁和3年7月30日)	五畿・七道	33	135	M8.0~8.5	津波による死者多数。		大阪府地域防災計画	
1361年8月3日 (正平16年6月24日)	畿内・土佐・阿波	33.0	135.0	M8.1/4~8.5	四天王寺倒壊、津波による死者数百名。		大阪府地域防災計画	
1510年9月21日 (永正7年8月8日)	摂津・河内	34.6	135.6	M6.5~7.0	河内藤井寺、その他2社倒壊。人家の被害多数。		大阪府地域防災計画	
1596年9月5日 (慶長1年7月13日)	畿内 (慶長伏見地震)	34 2/3	135 3/5	M7 1/2	堺で死者600人、大阪も人家被害多数。		大阪府地域防災計画	日本の地震活動一被害地震から見た地域別の特徴
1662年6月16日 (寛文2年5月1日)	山城・大和・河内・和泉・摂津・丹後・若狭・近江・美濃・伊勢・駿河・三河・信濃	35.2	135.95	M7 1/4~7.6	高槻城、岸和田城破壊。大阪で若干の死者。		大阪府地域防災計画	
1707年10月28日 (宝永4年10月4日)	五畿・七道 (宝永地震)	33.2	135.9	M8.6	大阪で死者約750人、家屋全壊1000棟余、他に津波による死者多数。		日本の地震活動一被害地震から見た地域別の特徴	日本の地震活動一被害地震から見た地域別の特徴
1854年12月23日 (安政11年11月4日)	東海・東山・南海街道 (安政東海地震)	34.0	137.8	M8.4	大阪で倒壊200軒。		大阪府地域防災計画	
1854年12月24日 (安政11年11月5日)	畿内・東海・東山・北陸・南海・山陰・山陽道 (安政南海地震)	33.0	135.0	M8.4	津波による死者多数、船舶被害1800、落橋10。		大阪府地域防災計画	
1865年2月24日 (元治2年1月29日)	播磨・丹波			M=6 1/4			加古川上流で家屋破壊多数。	日本の地震活動一被害地震から見た地域別の特徴
1891年10月28日 (明治24)	岐阜県南西部 (濃尾地震)	35.6	136.6	M8	死者24人、負傷者94人、家屋全壊1011棟、半壊708。		大阪府地域防災計画	
1892年1月3日 (明治25)	岐阜県南東部 (濃尾地震余震)	35.3	137.1	M5.5	大阪市の震度4		大阪府地域防災計画	
1894年1月10日 (明治27)	岐阜県南西部 (濃尾地震余震)	35.4	137.7	M6.3	大阪市の震度4		大阪府地域防災計画	
1899年3月7日 (明治32)	三重県南部 (紀和地震)	34.1	136.1	M7	大阪砲兵工廠、小学校等損傷。		大阪府地域防災計画	神戸市地域防災計画
1899年7月28日 (明治32)	大甲山						7月から約1年間六甲山山地は鳴動が続いた。	神戸市地域防災計画
1909年8月14日 (明治42)	滋賀県東部 (江濃(姉川)地震)	35.4	136.3	M6.8	大阪市の震度4		大阪府地域防災計画	神戸市地域防災計画
1916年11月26日 (大正5)	兵庫県南岸	34.6	135.0	M6.1	大阪市の震度4		死者1人、負傷者5人、全壊家屋3棟。	日本の地震活動一被害地震から見た地域別の特徴
1925年5月23日 (大正14)	兵庫県北部 (但馬地震)	35.6	134.8	M6.8	大阪市の震度4		北但馬地震。北部で被害。死者421人、負傷者804人、住家全壊1275棟、同焼失2180棟。	日本の地震活動一被害地震から見た地域別の特徴

西暦 (和暦)	地域 (地震名称)	震央位置(°)		規模 (M)	記事		
		北緯	東経		大阪府	兵庫県	
1927年3月7日 (昭和2)	京都府北部 (北丹後地震)	35.6	134.9	M7.3	死者21人、負傷者126人、全壊127、半壊117。	大阪府地域防災計画	日本の地震活動一被害地震から見た地域別の特徴
1936年2月21日 (昭和11)	奈良県地方 (河内大和地震)	34.5	135.7	M6.4	死者8人、負傷者52人、全壊18、半壊89。	大阪府地域防災計画	神戸市地域防災計画
1943年9月10日 (昭和18)	鳥取県東部 (鳥取地震)	35.5	134.2	M7.2	大阪市の震度4	大阪府地域防災計画	神戸市地域防災計画
1944年12月7日 (昭和19)	紀伊半島沖 (東南海地震)	33.6	136.2	M7.9	大阪市内で死者6人、負傷者120人、全壊122、半壊(小破を含む)2500。	大阪府地域防災計画	日本の地震活動一被害地震から見た地域別の特徴
1946年12月21日 (昭和21)	紀伊半島沖 (南海地震)	32.9	135.8	M8	死者32人、負傷者46人、全壊261、半壊217。	大阪府地域防災計画	日本の地震活動一被害地震から見た地域別の特徴
1948年4月18日 (昭和23)	紀伊半島沖	33.3	135.6	M7	津波の高さ：印南50cm、清水10cm	大阪の気象百年	神戸市地域防災計画
1948年6月15日 (昭和23)	紀伊水道 (日高川地震)	33.7	135.3	M6.7	大阪市の震度4	大阪府地域防災計画	神戸市地域防災計画
1952年7月18日 (昭和27)	奈良県地方 (吉野地震)	34.5	135.8	M6.7	死者2人、負傷者75人、全壊9、半壊7。	大阪府地域防災計画	日本の地震活動一被害地震から見た地域別の特徴
1952年11月5日 (昭和27)	カムチャツカ半島沖 (カムチャツカ津波)	52.3	161.0	M8.2	津波の高さ：清水112cm、串本83cm	大阪の気象百年	兵庫県地域防災計画
1958年11月7日 (昭和33)	択捉島付近	44.3	148.5	M8.1	津波の高さ：串本42cm、大阪6cm	大阪の気象百年	兵庫県地域防災計画
1960年5月23日 (昭和35)	チリ沖 (チリ地震津波)	39.5S	74.5W	M8.5	津波の高さ：串本308cm、大阪100cm	大阪の気象百年	兵庫県地域防災計画
1963年3月27日 (昭和38)	福井県沖 (越前沖地震)	35.8	135.8	M6.9	大阪市の震度4	大阪府地域防災計画	神戸市地域防災計画
1963年10月13日 (昭和38)	択捉島付近 (エトロフ島沖地震津波)	44	149.8	M8.1	津波の高さ：串本99cm、清水54cm	大阪の気象百年	兵庫県地域防災計画
1964年2月28日 (昭和39)	アラスカ南部近海 (アラスカ地震津波)	61.1	147.8	M8.5	津波の高さ：串本74cm、大阪22cm	大阪の気象百年	兵庫県地域防災計画
1965年2月4日 (昭和40)	アリユージャン中部 (アリユージャン地震津波)	51.3	178.6	M7.5	津波の高さ：串本112cm、大阪8cm	大阪の気象百年	兵庫県地域防災計画
1968年4月1日 (昭和43)	日向灘 (1968年日向灘地震)	32.3	132.5	M7.5	津波の高さ：清水118cm、串本47cm	大阪の気象百年	兵庫県地域防災計画
1969年9月9日 (昭和44)	岐阜県美濃中西部	35.8	137.1	M6.6	大阪市の震度4	大阪府地域防災計画	神戸市地域防災計画
1972年12月4日 (昭和47)	八丈島東方沖 (1972年12月4日八丈島東方沖地震)	33.2	141.3	M7.2	津波の高さ：串本26cm	大阪の気象百年	
1983年5月26日 (昭和58)	秋田県沖 (日本海中部地震津波)	40.4	139.1	M7.7			津波(最大波高)：(津居山108)cm。
1985年1月6日 (昭和60)	和歌山県北部	34.2	135.5	M5.8	大阪市の震度4	大阪府地域防災計画	兵庫県地域防災計画

西暦 (和暦)	地域 (地震名称)	震央位置(°)		規模 (M)	記事		
		北緯	東経		大阪府	兵庫県	
1993年7月12日 (平成5)	北海道南西沖 (北海道南西沖地震津 波)	42.8	139.2	M7.8		津波(最大波高): (舞鶴70cm)。 死者6402名、行方不明3名、負傷者40092 名、住家被害(全壊)104004棟、住家被害 (半壊)136952棟、住家被害(一部破 損)297811棟、非住家被害40918棟、文教施 設1079箇所、道路557箇所、橋りょう322 箇所、河川763箇所、崖くずれ3335箇所、フ ロック崩壊1472箇所、全焼7035棟、半焼89 棟、部分焼313棟、ほや977棟。	兵庫県 兵庫県地域防災計画
1995年1月17日 (平成7)	淡路島付近 (兵庫県南部地震)	34.6	135.0	M7.3	死者31人、負傷者3589人、全壊895棟、半 壊7232棟	大阪府地域防災計画	兵庫県地域防災計画
1995年1月25日 (平成7)	兵庫県東部	34.8	135.3	M5.1	大阪市の震度4	大阪府地域防災計画	神戸市地域防災計画
2000年10月6日 (平成12)	鳥取県西部 (鳥取県西部地震)	35.3	133.3	M7.3	負傷者4人。	日本の地震活動一被害 地震から見た地域別の 特徴一	日本の地震活動一被害地 震から見た地域別の特徴 一
2004年9月5日 (平成16)	紀伊半島南東沖 (紀伊半島南東沖地震)	33.08	137.08	M7.4	負傷者10人。	日本の地震活動一被害 地震から見た地域別の 特徴一	日本の地震活動一被害地 震から見た地域別の特徴 一

参照 ①国立天文台編(2011)「理科年表 平成24年」丸善出版

②宇佐美龍夫(2003)「新編日本被害地震総覧[416]-2001」東京大学出版会

※地震の緯度・経度、規模などは①、②の資料も参照した。

災害年表(風水害)

開始日				終了日				大阪府				兵庫県										
和暦	年	西暦	月	日	月	日	日	気象概要	最大風速 (m/s)	最大瞬間 風速 (m/s)	雨量 (mm)	事象	出典	最大風速 (m/s)	最大瞬間 風速 (m/s)	雨量 (mm)	事象	出典				
明治	1	1868	5	22	7	19	霖雨洪水					大和川大和橋の上流右岸の堤防決壊し、人家30戸を流亡。大和川管轄梅崎町付近一円が浸水。河内は浸水4尺。三島郡は五領村大字前島の堤防や同郡島本村大字広瀬の堤が決壊、耕地4百余町を浸し、人家5百余戸が漂蕩、8戸流出。同郡大冠村大字野中の字新開堤防を決壊、人家25戸家畜十数頭を流亡。	大阪の気象百年									
明治	1	1868	7				明治元年7月洪水					梅雨前線が北上、南下を繰り返して大雨をもたらし、大洪水になったものと判断されている。下流部の大和川右岸遠里尾、古市、円明、大井などで堤防決壊。安立町では民家30戸が流出。	河川整備基本方針 (大和川水系)									
明治	1	1868	9	3	9	4	風雨洪水					淀川堤防破壊により高槻城内が溢水。川々の堤防決壊16ヶ所、又川筋の崩壊10ヶ所。被害は三島郡70ヶ村東成郡2ヶ村に及んだ。	大阪の気象百年									
明治	3	1870	10	1			大風雨					風雨により稲作一円に吹倒 水冠。	大阪の気象百年									
明治	3	1870	10	12			大風雨洪水					淀川出水し、三島郡島本村大字広瀬字冠口堤防を破壊、同村大字高浜以下12ヶ部落を併呑。芥川筋如是村大字芝生堤防が決壊、大冠村大字番田外14ヶ村を侵害。その両岸でも北河内郡牧野村大字津の堤防を決壊して被害多し。この時大和川暴漲して東成郡墨江村大字遠里小野において堤塘130間を崩壊。	大阪の気象百年									
明治	4	1871	7	4			大風雨洪水					被害は摂河泉3国に及び、沿岸地方で大損害。摂津住吉郡若松新田が流失、溺死者40余人。同郡松屋新田から堺港に至る一帯に互って汐入り、堺町も浸水。北台場は大半破壊、この周辺の流失家屋173戸、倒家555戸。天保山辺は海嘯にて約百人が溺死、機械船等も村落に漂流され 大阪・神戸間の電信機も断切。	大阪の気象百年									
明治	5	1872	10	3	10	30	洪水					淀川洪張し、三島郡上牧村字三ツ樋における堤防を崩壊して浸水60日間。被害の村落は五領細8ヶ村・171町余。作物は悉く腐食。	大阪の気象百年									
明治	6	1873	8	30			大風雨洪水					三島郡三ヶ牧村大字唐崎字外島の堤防破壊、耕地20町余を侵害。	大阪の気象百年									
明治	9	1876	10				暴風雨洪水					淀川汎逸して三島郡前島村字一貫島堤防が決壊、耕作地及び宅地1百余町が浸水。神崎川では同郡味生村大字別府堤防が決壊、耕地364町余歩を浸して農作の被害甚大。	大阪の気象百年									
明治	13	1880	10	3			大風雨					摂津にて暴風雨。	大阪の気象百年									
明治	15	1882	8	5			暴風雨洪水					淀川出水により、三島郡唐崎村字外島の堤防2ヶ所を破り、耕地33町歩を漂蕩。同郡吹田村字下新田に於ける神崎川堤防も決壊、耕地165町歩を浸して水防夫1名溺死。	大阪の気象百年									
明治	16	1883	9	10			暴風雨					雨量は1825英寸、各川の水量が増加。	大阪の気象百年									
明治	16	1883	10	7			暴風雨					台風により、南海岸及び近畿地方暴風大。	大阪の気象百年									
明治	17	1884	7	1			大雨洪水					石津川の堤防破壊して養村に侵入、大和川の堤防も亦危、橋上が浸水。地方への交通機関はほとんど断絶。	大阪の気象百年									
明治	18	1885	6	15	7	1	明治大洪水					6月上旬より続いた降雨に加え、低気圧が相次いで大阪付近を襲い、6月15日夜半から豪雨となり、17日夜半までに淀川で183.3mmの雨量となった。さらに、6月25日頃から再び降り始め、7月1日には暴風も加わって、淀川は水位上昇。低気圧による洪水では、茨田郡(北河内郡)と讀良郡7ヶ村、東成郡27ヶ村(城東区・旭区・都島区)に濁水が溢れ、計113ヶ町村、約9900戸、約4452.6haが水没。その後の暴風雨により、大阪市の東区28、南区46、西区174、北区97の計340町と、大阪城~天王寺間の一部高台を除去くほとんどの低地部が水害を受け、被災人口は276,049人に達した。また、30余橋が流出。	淀川洪水の記録									
明治	18	1885	7	1			台風					5月下旬からの大雨と7月1日の台風により、大洪水が発生。大和川の水位は1丈8尺5寸。大阪府下では水害後のコレラ・チブスの流行による死者が多数。淀川では枚方の堤防が決壊。	河川整備基本方針 (大和川水系)									
明治	22	1889	8	20			洪水					淀川洪水、淀御牧、横島、八幡、大山崎地にて決壊。	大阪の気象百年									
明治	29	1896	7	10			大雨															
明治	29	1896	7	21	7	23	大雨					島本水位3.9m、三ヶ牧、大冠堤防決壊。	大阪の気象百年									
明治	29	1896	7	30			大雨															

開始日				終了日				大阪府				兵庫県							
和暦	年	西暦	月	日	月	日	日	気象概要	最大風速 (m/s)	最大瞬間風速 (m/s)	雨量 (mm)	事象	出典	最大風速 (m/s)	最大瞬間風速 (m/s)	雨量 (mm)	事象	出典	
明治	29	1896	8	9				大雨								神戸	神戸市で7時間に104mmの強雨。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表	
明治	29	1896	8	30	8	31		台風								神戸117	全県下にわたって水害が発生。最も激しかったのは加古川伊東、河辺郡に至る地区と但馬地区。加古川堤防が決壊し、田畑・家屋被害甚大。出石郡出石町では全戸浸水。室壇村では全橋梁流失。美葦郡三木町では、美葦川沿岸の被害大。武庫郡今津村(現西宮市)では、武庫川決壊し、鉄道路線を破壊、全村浸水。住吉川は6箇所決壊、横河堤防延長38間決壊、串田川1箇所破壊。死者40名、負傷者57名、住家全半壊流失230棟、床上・床下浸水8016棟。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表	
明治	29	1896	9					大雨				前月末よりの雨で大和川の枯木・富田・住道堤防、石川堤防決壊。	大和川の洪水・過去の水害						
明治	29	1896	9	6				大雨				前線降雨で淀川大洪水、唐島外島堤、大塚外島堤、三矢堤、広瀬堤決壊、右岸一帯浸水。	大阪の気象百年						
明治	29	1896	9	11				台風											
明治	30	1897	8	14				大雨											
明治	30	1897	8	23				大雨											
明治	30	1897	9	29	9	30		台風	神戸12.4		神戸129.7	武庫川出水、支流枝川堤防決壊。美葦川が急に増水して三木町全部水害、橋梁は志保川・百川を含む川筋一帯に流失。大庄屋池・永代池・八幡谷の口池・福寿池・方丈池等の堤防決壊。印南郡では、暴風雨のため諸川暴溢、堤防決壊35ヶ所で家屋全壊30戸、流失58戸、半壊143戸、破壊1,598戸、死者5名、田畑損害甚大。姫路市では、市川増水、揖保川氾濫、橋梁流失1ヶ所。宍粟郡城下村では、揖保川流域冠水、堤防決壊。出石郡神美村では、小野川氾濫、家屋全壊1戸、浸水5戸、冠水田220町歩。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表						
明治	31	1898	9	2	9	3		大雨											
明治	31	1898	9	15				大雨											
明治	32	1899	6	8				大雨								神戸	温帯低気圧。1時間降水量は、神戸30mm、市125mm、江崎灯台227mm、西宮106mm、明石154mm、三田100mm。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表	
明治	32	1899	7	8	7	9		大雨								神戸120	播磨全域にわたって大雨。但馬・摂津は比較的小。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表	
明治	32	1899	8	28				台風	神戸13.7										
明治	32	1899	9	8				台風	神戸27.7		神戸121	土佐湾から北東進し、和歌山市南方に上陸後、奈良県を通る。加古・印南郡に被害があったが不詳。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表						
明治	33	1900	8	28				大雨											
明治	33	1900	9	5				大雨											
明治	33	1900	9	27	9	28		台風	神戸16.7		有馬110	室戸岬から潮岬をかすめて関東地方中部に進んだ台風。淡路では諸川氾濫。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表						
明治	34	1901	6	30	7	1		大雨			神戸83 西宮74	梅雨前線により、淀川が氾濫し川辺郡に被害。猪野溜池決壊。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表						
明治	35	1902	7					大雨											
明治	35	1902	8	5				大雨											
明治	35	1902	8	10	8	11		大雨	神戸13.3		神戸112.7 有馬235.0	出石郡神美村で田畑浸水。美葦、美方、朝来、城崎の諸郡に被害有り。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表						
明治	35	1902	9	7	9	8		大雨											
明治	35	1902	9	28				台風											
明治	36	1903	4	11				雷雨				死傷者3名。	大阪の気象百年						

開始日				終了日				大阪府				兵庫県						
和暦	年	西暦	月	日	月	日	日	気象概要	最大風速 (m/s)	最大瞬間 風速 (m/s)	雨量 (mm)	事象	出典	最大風速 (m/s)	最大瞬間 風速 (m/s)	雨量 (mm)	事象	出典
明治	36	1903	7	7	7	9	大雨			264		梅雨前線により四国東部から近畿一体に強い降雨。大和川の水位は5.3mとなり、流域全体で田畑、家屋の浸水、道路、堤防等の損害が多数。建物被害11,696軒。	河川整備基本方針 (大和川水系)			神戸 231.2	梅雨前線により、淡路・阪神の沿岸に200～300mmの豪雨。神戸市では、水源地の決壊により宇治川が氾濫。死者4名、負傷者5名、住家全壊6棟、半壊46棟、流失4棟、床上浸水860棟、床上浸水5409棟、護岸破壊24ヶ所。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
明治	36	1903	7	14	7	15	大雨						被害は甚だしくなかった。			神戸 133.1		神戸地方気象台兵庫 県災害年表
明治	37	1904	6	18	7	18	大雨						六甲山周辺に100mm内外の降雨。明石郡では山崩れにより線路道路の埋没あり。武庫川の吉元村で6尺の増水。床上浸水213棟、船舶破壊8隻。			神戸10.9		神戸地方気象台兵庫 県災害年表
明治	37	1904	7	9	7	10	台風						9日夜に和歌山県に上陸、北東進して琵琶湖から佐渡ヶ島へ抜けた。			神戸20.0		神戸地方気象台兵庫 県災害年表
明治	37	1904	7	12	8	12	大雨						加古川の大部村で増水11尺、天川の谷外村で14尺、市川の田原村で9尺、夢前川の置塩村で4尺。					神戸地方気象台兵庫 県災害年表
明治	37	1904	8	30	8	31	台風						河川の増水位は、加古川の九合村で9尺、天川の谷内村で7尺、円山川の出石町で9尺。			有馬213		神戸地方気象台兵庫 県災害年表
明治	37	1904	9	16	9	17	台風						但馬地方と水上郡・多紀郡は洪水による被害大。城崎郡奥竹野村では竹野川支流が氾濫。死傷者4名、家屋倒壊16棟、破壊132棟、床上浸水1109棟、床上浸水2570棟、船舶被害25隻、山崩れ13ヶ所。			神戸46		神戸地方気象台兵庫 県災害年表
明治	37	1904	10	15	10	15	大雨						飾磨郡谷内村では、天川増水6尺。					神戸地方気象台兵庫 県災害年表
明治	38	1905	4	20	4	20	大雨						低気圧。神戸市で床上・床下浸水792棟、はしけ破壊・流失17隻。			神戸56.9		神戸地方気象台兵庫 県災害年表
明治	38	1905	6	10	6	27	大雨						梅雨前線により、10日から24日までの15日間、毎日降雨。特に14～15日と21日前後の雨量が多く、被害をもたらし。期間降水量・有馬：240(10～15日)、210(18～21日)、西宮：176(10～15日)、179(18～21日)。死者5名、家屋倒壊・破壊16棟、床上浸水197棟、床上浸水3591棟、山崩れ12ヶ所、船舶破壊・流失125隻。					神戸地方気象台兵庫 県災害年表
明治	38	1905	7	6	7	6	大雨						武庫川・神崎川・円山川・庄下川の各川が出水、有馬・多紀・出石の諸郡に被害。					神戸地方気象台兵庫 県災害年表
明治	38	1905	7	10	7	10	大雨						由良川が出水。多紀郡草山村の出水10尺。住家全半壊7棟。					神戸地方気象台兵庫 県災害年表
明治	38	1905	8	17	8	17	台風						姫路市では船場川増水、豊岡町と三江村では明石川増水し水田冠水。神戸郡では被害箇所少なからず。潮村(現洲本市)では、水田全面冠水。播磨郡では田畑冠水。死者1名、床上浸水275棟、山崩れ1ヶ所。			有馬160 神戸91		神戸地方気象台兵庫 県災害年表
明治	38	1905	8	21	8	21	大雨						明石川流域。					神戸地方気象台兵庫 県災害年表
明治	38	1905	8	25	8	25	大雨						前線による降雨。1時間降水量の最大は73.3mm。死者1名、負傷者2名、家屋倒壊2棟、浸水10219棟。					神戸地方気象台兵庫 県災害年表
明治	39	1906	5	13	5	13	大雨						加古川・河東郡にて水害有り。					神戸地方気象台兵庫 県災害年表
明治	39	1906	6	24	6	24	大雨						加古川・印南郡にて水害有り。					神戸地方気象台兵庫 県災害年表
明治	39	1906	6	30	6	30	大雨						加古川及び由良川、多紀郡にて水害有り。					神戸地方気象台兵庫 県災害年表
明治	39	1906	7	14	7	14	大雨						出石川にて水害有り。					神戸地方気象台兵庫 県災害年表
明治	39	1906	7	16	7	16	大雨						熱帯低気圧。神戸市で床上浸水281棟。			神戸65		神戸地方気象台兵庫 県災害年表
明治	39	1906	9	12	9	13	大雨						武庫川・有馬郡にて水害。三田町における水位12尺。死者1名。			有馬117		神戸地方気象台兵庫 県災害年表
明治	39	1906	10	23	10	25	台風						揖保郡大津(現姫路市)にて暴風海嘯のため、堤防破壊。夙川に水害あり。床上・床上浸水10棟、堤防破壊22ヶ所。			神戸10.1		神戸地方気象台兵庫 県災害年表
明治	40	1907	6	14	6	14	大雨						武庫郡精道村(現芦屋市)で芦屋川出水。			神戸76.0		神戸地方気象台兵庫 県災害年表
明治	40	1907	7	2	7	2	大雨						梅雨前線。死者2名、負傷者2名、床上・床上浸水1753棟、船舶被害2隻。			神戸48.1		神戸地方気象台兵庫 県災害年表
明治	40	1907	7	18	7	18	台風						神戸港では波浪が海岸に押し寄せ、島上町沿岸の家屋に床上浸水。船舶被害16隻。			神戸18.0		神戸地方気象台兵庫 県災害年表
明治	40	1907	8	16	8	16	台風						台風中心通過付近に豪雨。					神戸地方気象台兵庫 県災害年表
明治	40	1907	8	24	8	26	台風						台風が紀伊東岸に上陸した後、内地を横断。出石郡では出石川・小野川が氾濫、出石町で全戸浸水、室堀村で全橋梁流失、護岸崩壊6ヶ所。多紀郡では全域河川氾濫被害多し。死者11名、住家全半壊31棟、床上浸水60棟、床上浸水285棟、山崩れ227ヶ所。			有馬236		神戸地方気象台兵庫 県災害年表



兵庫県									
和暦	年	西暦	開始日			大坂府			出典
			日	月	日	事象	事象		
明治	40	1907	9	8	9	気象値		有馬125	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
						最大風速 (m/s)	最大瞬間 風速 (m/s)		
明治	40	1907	9	8	9				佐治川・三原川・津井川・天井手川・堺川氾濫。揖保郡天津村勤兵衛新田(現姫路市)で沿岸高潮のため堤防決壊、養魚池損傷。
明治	40	1907	10	14					加古郡加古新村の溜池決壊8ヶ所。
明治	41	1908	6	22	6	23			夢前川・千種川氾濫、垂水と塩谷間で土砂崩壊のため列車一時不通。夢前川の出水位は曾佐村で8尺。
明治	41	1908	6	26					出石川増水氾濫、出石町にて9尺。
明治	41	1908	7						姫路白浜地区の市川阿保堤防決壊。床上・床下浸水15棟。
明治	41	1908	7	16					円山川氾濫、豊岡にて増水10尺。
明治	41	1908	8	6	8	7			播州とその北方山間地対及び淡路の各地方で、雨量合計が100mm以上。神戸港内の被害は軽微。城崎郡では浸水家屋多数。家屋倒壊1棟、床上・床下浸水228棟。
明治	41	1908	8	23					水上郡佐治町で竹田川氾濫、沼貴村で佐治川増水12尺に達して堤防超流、吉良村で竹田川増水14尺で堤防超流。
明治	41	1908	10	7			神戸101.1		低気圧。神戸市で浸水家屋あり。神戸市1時間降水量23.8mmの豪雨。船舶被害2隻。
明治	41	1908	10	14	10	15	有馬103.5		低気圧。神戸市で円山川増水5尺、仮橋数ヶ所流失。沼貴村で佐治川15尺増水、吉良村で竹田川16尺増水、堤防超流。床上浸水100棟。
明治	42	1909	4	6	4	7	神戸20.9		室戸岬付近から和歌山・奈良県を通過した熱帯低気圧による。神戸市の家屋倒壊、溺死・行方不明は少なからず。床上・床下浸水200棟、船舶被害あり。
明治	42	1909	6	5			神戸130.5		神戸市で15時間で123mm、1時間29mmの強雨。
明治	42	1909	6	24			神戸37.4		梅雨前線による。河川流域別被害額は、本庄川400円、三原川・天川1,362円、篠山川1313円。
明治	42	1909	6	26	6	28	神戸65.3		梅雨前線による。河川流域別被害額は、夙川306円、武庫川・妙法寺川95円、芦屋川81円、明石川684円。
明治	42	1909	7	17					津名郡浅野村で被害額24,520円(耕地5,170円、土木17,356円)。
明治	42	1909	8	27					水上郡沼貴村で増水位11尺、堤防超流。
明治	42	1909	9	10					千種川氾濫、佐用郡中安村増水により堤防超流。揖保川は揖保郡新宮村(現新宮町)にて増水のため氾濫。佐用郡大田村で堤防決壊。建物被害119棟、床上浸水100棟。
明治	42	1909	9	18	9	20			天川、揖保川、三原川、洲本川、円山川、加古川の各河川氾濫。
明治	42	1909	9	30			西宮45.0		武庫川増水、昆陽村(現伊丹市)で被害あり。
明治	43	1910	5	10	5	11	神戸21.0		主として風害と浪害で、一部高潮害が発生。水害は但馬地方に限る。神戸市では家屋損傷多く、倒木、煙突・板塀破壊、瓦傷散。美方郡浜坂町では橋梁流失、田畑冠水有り。船舶被害63隻。
明治	43	1910	6	4					低気圧。神戸市で浸水数百戸、港内船舶被害2隻、仁川・芦屋川・住吉川の堤防決壊。
明治	43	1910	8	29					円山川・城崎郡に水害。豊岡出水8尺。
明治	43	1910	9	6	9	9	神戸296 西宮284		熱帯低気圧の東方に誘発された前線によって生じた豪雨。特に県南東部の豪雨が激しく、被害も甚大。田畑冠水、流出、死傷者4名、家屋被害、流破8、埋没38、床上浸水75棟。武庫川流域で崩壊39ヶ所、山崩れ41ヶ所。
明治	43	1910	10	11			神戸62.2		洲本町(現洲本市)では、諸川が3~4尺増水、由良港への県道山崩壊。浜坂港沖で数十隻の漁船破損し、111名行方不明。宮津には高潮があり、海岸の家屋は1尺以上浸水。
明治	44	1911	6	14	6	16	神戸153		低気圧。魚崎村(現神戸市)で堤防12間崩壊。武庫郡本山村(現神戸市)で堤防3間決壊、大川上流堤防5間破損。洲本川流域の堤防決壊は37ヶ所。武庫川増水10尺、夙川・住吉川3尺、洲本川8尺。床上・床下浸水1230棟、山崩れ3ヶ所。
明治	44	1911	6	19			神戸72.5		高潮による田畑冠水もあり、塩田の被害4町歩。相生湾では工場等に浸水し、工事遅延3ヶ月。武庫郡須磨村(現神戸市)で妙法寺川増水のため堤防決壊。阪神間及び淡路の諸川増水し、堤防の諸所決壊や道路破損等。尾崎村の被害が最多。死者3名、住家全半壊6棟、床上・床下浸水1290棟、船舶被害6隻、はしけ遭難12隻。

開始日				終了日				大阪府				兵庫県						
和暦	年	西暦	月	日	月	日	日	気象概要	最大風速 (m/s)	最大瞬間 風速 (m/s)	雨量 (mm)	事象	出典	最大風速 (m/s)	最大瞬間 風速 (m/s)	雨量 (mm)	事象	出典
明治	44	1911	6	27				大雨									梅雨前線。河川の増水は、加古川17尺、円山川12尺、竹田川8尺、武庫川7尺。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
明治	44	1911	7	2				大雨									梅雨前線。河川の増水は、武庫川12尺、加古川12尺。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
明治	44	1911	7	30				大雨									前線。武庫川の増水12尺、市川7尺。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
明治	44	1911	8	4				台風						神戸11.8			諸川の増水による被害少なからず。河川の増水は、明石川14尺、美濃川7尺、加古川7尺、茶山川8尺、佐治川6尺、猪名川8尺、三田川12尺。床下浸水275棟、船舶被害1隻。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
明治	44	1911	8	15	8	17		暴風雨				近畿地方かなりの被害あり。	大阪の気象百年	神戸15.3			姫路市では白鷺城の被害甚大、飾磨方面では飾磨一体の沿岸を大浪が洗い塩田が復旧不能。龍野では田畑冠水、洲本町(現洲本市)の東海岸では高潮により船舶6~7隻方不明。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
明治	44	1911	10	12				大雨									城崎郡香住町で矢田川橋梁3ヶ所流出、亀井堰大破、堤防決壊13ヶ所。但馬北部にも被害があったと推定される。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
明治	45	1912	5	14				大雨									武庫川出水3尺。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
明治	45	1912	8	16				大雨									円山川出水10尺。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
明治	45	1912	8	23				高潮									住家全半壊流失8棟、床上・床下浸水746棟、木材流失多数、漁船流失20隻。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
明治	45	1912	8	24				台風						神戸16.7			大甲風刃・中瀬・但馬山間地帯で多雨。兵庫港では激浪高く、難波船多数、浸水家屋多数、駒ヶ林・新湊川尻堤防崩壊2ヶ所。床下浸水670棟、船舶被害92隻、構橋10間大破。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
大正	1	1912	9	22	9	23		台風	37.0		158	大阪湾高潮。死者3名、家屋全半壊203棟、床上浸水2300戸、船舶破損沈没41隻。	大阪の気象百年	神戸17.7	神戸28.7		室戸台風と同様の台風が室戸岬から和歌山県・大阪府を通過。但馬地域の被害が激甚で洪水禍による。次いで淡路の風害と高潮・浪害、阪神・播磨は風浪害により被害大。死者21名、負傷25名、住家全半壊1303棟、床下浸水2252棟、防波堤・護岸の決壊・破損566ヶ所。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
大正	2	1913	6	30				大雨									加西郡多加野村で被害有り。局地的な強雨による局地被害と推察。表土流失7町歩。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
大正	2	1913	8	21	8	22		大雨									20時間内外に150mm内外の強雨。加古川16尺、芋谷川16尺、真谷川16尺の増水位。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
大正	2	1913	10	16	10	17		台風									和歌山県沖を通過した台風で、但馬北部に前線性の豪雨がいった。床下浸水2棟。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
大正	3	1914	6	18	6	20		大雨									竹田川流域の被害2,612円(うち、堤防決壊・破損1,855円)。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
大正	3	1914	7	11				大雨									揖保川流域に小水害があったと推察される。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
大正	3	1914	9	6				大雨									津名郡郡家町の被害額448円。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
大正	3	1914	9	14				台風	神戸11.4								須磨では鉄道石垣40間崩壊、一ノ谷川尻崩壊。神戸市では兵庫・駒ヶ林付近一帯被害。神戸港ではしげ敷隻運難。三原郡では海岸道路の損壊が大。西播沿岸では20m/s内外の烈風があったと推定され、浪害があったものと考えられる。負傷者3名、被害家屋300戸、漁船破損30隻。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
大正	3	1914	9	30	10	1		台風	神戸15.2								九州南方から潮岬をかすめて三重県・関東地方を通った台風。報告はないが、被害が推定される。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
大正	3	1914	10	18	10	20		大雨									竹田川流域被害額2,612円(うち、堤防決壊1,855円)。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
大正	4	1915	5	11				大雨									低気圧が徳島から和歌山付近を通過。それに伴い、播州と有馬に大雨。淡路南部では南風が烈風であって、浪害があったものと推定される。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
大正	4	1915	6	26				大雨									梅雨前線。住吉川5尺、味泥川9尺、大川3尺の出水。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
大正	4	1915	7	23				大雨									佐野川出水による被害1,025円。7月中・下旬は県下全般に無降水・曇靄気味で、淡路の各観測所で雨量を観測しておらず、日付に誤りがあるか、あるいは局地的な雷雨によるものか不詳。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
大正	4	1915	8	5				台風	20.0								河川の出水は、法華山谷川112尺、天川13尺、夢前川11尺、円山川11尺、佐治川(氷上郡)流域の被害55,260円。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
大正	4	1915	8	8	8	9		台風						神戸116.5			神戸市駒ヶ林海岸は数十年かかつて見ざる被害、建物5棟崩壊、1棟流失、西出町橋破壊、運河戸原橋は海水が橋上1尺5寸に達した。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
大正	4	1915	8	9	8	10		大雨									神戸での17時間降水量は135mm。河川の増水位は、住吉川3尺、都賀川3.8尺、武庫川3尺。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表

和暦		開始日		終了日		大阪府				兵庫県			
						気象概要		事象		事象		事象	
年	西暦	月	日	月	日	最大風速 (m/s)	最大瞬間 風速 (m/s)	雨量(mm)	最大風速 (m/s)	最大瞬間 風速 (m/s)	雨量(mm)	事象	出典
大正	4	1915	9	8					神戸12.7			県内海は偏南風強直し、神戸市・武庫郡・津名郡では高潮害が発生。出石郡神美村で被害家屋802戸、佐用郡全域で稲作減収、神崎郡にも被害有り。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
大正	4	1915	9	29	9	30					岩屋 100.0	低気圧。河川の出水は、洲本川17尺、楠本川15尺、富島川16尺、室津川15尺、烏飼川17尺。被害額：建物600円、水稲9,400円、その他300円。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
大正	4	1915	10	7	10	8			神戸15.9			県下各河川別被害額(千円)は、円山川160、夢前川63、佐治川55、天川50、千種川49、揖保川35、岸田川14、矢田川14、市川7、万願寺川6。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
大正	5	1916	2	29							岩屋80.0	低気圧が瀬戸内海沿岸部を通過。円山川出水9尺。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
大正	5	1916	5	6								県統計書には加古川出水となるが、流域の雨量少なく、むしろ揖保川の出水の公算大。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
大正	5	1916	6	25	6	28					有馬 140.3	佐用郡では橋梁流失多数、千種川水位13尺、揖保川・市川出水、武庫川12尺、洗川(印南郡)12尺、天川8尺、加古川8尺、猪名川8尺。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
大正	5	1916	7	5							摩耶山 30.5	竹田川出水位5尺。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
大正	5	1916	8	10								大雷雨あり、落雷数ヶ所。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
大正	5	1916	9	5							有馬72.3	武庫川出水位12尺、円山川16尺。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
大正	5	1916	9	24								熱帯低気圧。但馬地方に豪雨があり、円山川出水位16尺(年間最高位)に達して出水。揖保郡室津村(現御津町)の朝鮮出漁船団11隻が対馬沖にて遭難、68名が行方不明。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
大正	5	1916	10	13								円山川出水位11尺。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
大正	6	1917	8	3					神戸18.2			西播山岳地に豪雨。神戸では暴風2日8時～3日正午。神戸港では遭難船多数。三原郡沼島村で被害家屋100戸、橋梁流失2ヶ所、道路破損20ヶ所。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
大正	6	1917	9	29	10	1			神戸20.3			県内全般に大雨があり、風害よりも洪水害をかなり受けた。多紀郡(現藤山町)では明治29年のものと被害の程度変わらぬ。城崎郡では円山川が氾濫、田畑60町歩被害。長井村で死者2名、負傷者32名、家屋の流失5棟、埋没2棟。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
大正	6	1917	10	10	10	11						高地的に強雨が降り、但馬、淡路で被害の大きい地区があった(円山川、淡路南部)。出石郡神美村では、死者2名、田畑埋没・浸水、船舶被害。洲本町では、家屋破損5棟、浸水157棟、田畑流失・冠水。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
大正	7	1918	7	11	7	13			神戸21.2			12日豊後水道・西中国より日本海に入った優勢な台風。佐用・赤穂郡を主とした西播地区で台風前面に生じた前線性豪雨による被害が多く、揖保川は揖保郡で7.8尺、宍粟郡で6尺、千種側は赤穂郡で13.8尺、佐用郡で12.0尺、大津川8尺、円山川は出石で5尺、養父郡で10尺に増水。死者10名、住家全半壊3棟、床上・床下浸水128棟、橋流失。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
大正	7	1918	8	20	8	22						雨量は中央山岳地帯に多い。佐治川8尺、武庫川7尺、神崎川12尺、揖保川6.8尺。家屋流失40棟、床上・床下浸水166棟。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
大正	7	1918	8	29	8	30			神戸21.3			四国東部をかすめ、30日大阪湾を北東進。淡路島は風浪害有り。津名郡洲本町で家屋破損8戸、浸水320戸、堤防決壊8ヶ所、橋梁流失2、田畑冠水。生穂町で護岸決壊4ヶ所、溜池決壊1ヶ所。三原郡津井村で漁船流失・大破2隻、堤防決壊6ヶ所、道路決壊4ヶ所、崖崩れ10ヶ所。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
大正	7	1918	9	13	9	14						死者120名、負傷者28名。主として但馬地域。	兵庫県地域防災計画
大正	8	1919	6	26								円山川の養父郡で出水位6尺、被害422円。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
大正	8	1919	7	4							岩屋 150.5	西播地方、特に宍粟郡に多雨。被害額(千円)は、美郷川61、千種川21.2、揖保川7、大津川10.1。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
大正	8	1919	7	27							有馬89.6	円山川の出石郡で出水位11尺。出石町・豊岡町(現豊岡市)に大雨有り。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
大正	8	1919	8	14	8	16						円山川出水、出石郡で11尺、城崎で4.8尺。崖崩れ10ヶ所、護岸決壊1ヶ所。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表

開始日				終了日				大阪府				兵庫県						
和暦	年	西暦	月	日	月	日	日	気象概要	最大風速 (m/s)	最大瞬間 風速 (m/s)	雨量 (mm)	事象	出典	最大風速 (m/s)	最大瞬間 風速 (m/s)	雨量 (mm)	事象	出典
大正	8	1919	9	12	9	14	大雨						前線。武庫川(武庫郡)出水位6尺。岩屋を中心とする明石海峡周辺で最も雨が強く、次いで淡路島南部・武庫川流域。	神戸14.8	岩屋 169.5 有馬 125.5			神戸地方気象台兵庫 県災害年表
大正	9	1920	6	15			大雨						梅雨前線。住吉川2尺、被害255円。	-				神戸地方気象台兵庫 県災害年表
大正	9	1920	6	27			大雨						梅雨前線。猪名川流域の河辺郡伊丹(現伊丹市)、長尾、東谷、中谷の各町村被害計10,072円。	-				神戸地方気象台兵庫 県災害年表
大正	9	1920	7	24			台風						千種川4.5尺、佐用郡西庄・中安・徳久村計土木再築費3,400円。	神戸27.8				神戸地方気象台兵庫 県災害年表
大正	9	1920	8	4			台風	24.0		82			雨は多紀・氷上・川辺・有馬郡の六甲山付近に多し。	-	神戸76.2			神戸地方気象台兵庫 県災害年表
大正	9	1920	8	9			大雨						前線の降雨。淡路南部と市川・夢前川流域で雨量多い。洲本町の12時間降水量は168mm。樋戸野・千種川氾濫。家屋破壊1棟、床下浸水488棟。	-	岩屋93.0			神戸地方気象台兵庫 県災害年表
大正	9	1920	8	15	8	16	大雨						熱帯低気圧。千種川7尺、三原川7尺、本庄川9尺、洲本川も出水。	神戸18.8				神戸地方気象台兵庫 県災害年表
大正	9	1920	8	20	8	21	台風	20.0					神戸市では降雪数カ所、下水氾濫、床下浸水、再度山寺院震災死1名。千種川出水位7尺。	神戸29.9				神戸地方気象台兵庫 県災害年表
大正	9	1920	8	27	8	28	大雨						千種川(佐用郡)出水位7尺。神戸市内落雷数ヶ所、下水氾濫と床下浸水有り。	-	岩屋86.8			神戸地方気象台兵庫 県災害年表
大正	9	1920	12	29			大雨						季節風による大雨、強風、波浪、波浪。城崎郡内川村で円山川氾濫、香住海岸堤防流失、防潮堤流失。	-				神戸地方気象台兵庫 県災害年表
大正	10	1921	6	12	6	15	大雨						梅雨前線。小部、姫路、洲本、但馬豊岡で豪雨、各地で水害。	-	小部 199.4			神戸地方気象台兵庫 県災害年表
大正	10	1921	7	7			大雨						但馬小水害があったと推定。	-				神戸地方気象台兵庫 県災害年表
大正	10	1921	8	27			大雨						土佐濱室戸岬西方から北東進して大阪付近を経て琵琶湖上に進んだ熱帯性低気圧。神戸では暴風。各地降雨は、40余日の大旱魃後だったため作物には好影響。	神戸25.0	神戸22.7			神戸地方気象台兵庫 県災害年表
大正	10	1921	9	25	9	26	台風	25.0					川辺・有馬・多紀・氷上・出石・城崎の各郡の被害が激しく、各河川は増水。大阪湾に高潮起こり、大阪港(天保山)測候所付近は浸水1尺内外。美濃川流域の被害は相当大きく、三木町は全被害。行方不明4名、床下浸水950棟、船舶被害75隻。	神戸33.9				神戸地方気象台兵庫 県災害年表
大正	11	1922	8	11	8	12	大雨						養父郡八鹿町を中心とする局地的な雷雨による豪雨。	-				神戸地方気象台兵庫 県災害年表
大正	11	1922	9	19	9	20	大雨						神戸市浸水家屋多数、神戸での4時間降水量は88mm。	-	神戸95.4			神戸地方気象台兵庫 県災害年表
大正	11	1922	9	20	9	21	大雨						豊岡での4時間降水量は78.4mm。家屋流失3棟、護岸流失5。	-				神戸地方気象台兵庫 県災害年表
大正	12	1923	6	7	6	8	大雨						熱帯低気圧が四国東部を掠め、淡路・大阪湾を通過、阪神間より上陸。降水量は六甲山系周辺と淡路島に多く、西宮市・尼崎市等には水害があったものと推察(大阪府下浸水1万戸余り)。	神戸18.3	西宮 135.0			神戸地方気象台兵庫 県災害年表
大正	12	1923	6	15	6	23	大雨						熱帯低気圧が九州北部を通り、広島付近・岡山・本県北西部を通過。県下各地とも激しい雨量。明石川の堤防決壊し死者2名、阪神地方で沈没・難破船数十隻で行方不明十数名。美濃川の水位高まり川筋の被害有り、ただし三木町無害。	神戸18.8	有馬 234.9			神戸地方気象台兵庫 県災害年表
大正	12	1923	6	30	7	1	大雨						本県中央山間及び高地地帯に多雨。千種川水位4.6m。	-				神戸地方気象台兵庫 県災害年表
大正	12	1923	8	31			大雨						熱帯低気圧が播磨灘・東播・丹波通過。雨量は一般に少量。	神戸17.2	神戸65.7 有馬 100.0			神戸地方気象台兵庫 県災害年表
大正	12	1923	9	14	9	15	大雨						但馬野北西部浜阪では雨量多く、640mm。城崎郡香住町の道路・橋梁・堤防野流し破壊被害大、美方郡大庭村の家屋流失、耕地、橋流失被害大。住家半壊3棟、流失1棟、床下浸水82棟、山崩れ15。	神戸23.4				神戸地方気象台兵庫 県災害年表
大正	12	1923	10	10			台風						那覇南方より北東に進み、九州南方より紀州熊野灘を経て東京付近を通過した台風の前線に誘発された地形性前線による豪雨。但馬と淡路南部に大雨。	神戸29.3				神戸地方気象台兵庫 県災害年表
大正	13	1924	9	11	9	12	台風						九州北部を通過って東北東進した熱帯低気圧。勢力は中級だったが、人口稠密な県南部を東進したのと、若干高潮気味があったり、雨量は大きく多くなかったが比較的被害が多かった。神戸では小高潮。兵庫吉田新田から駒ヶ林肝がん一帯は暴風襲来時刻が満潮時で海嘯状態となり、吉田新田で床下浸水300戸。	神戸17.7	有馬 102.5			神戸地方気象台兵庫 県災害年表

開始日				終了日				大阪府				兵庫県						
和暦	年	西暦	月	日	月	日	日	気象概要	最大風速 (m/s)	最大瞬間 風速 (m/s)	雨量 (mm)	事象	出典	最大風速 (m/s)	最大瞬間 風速 (m/s)	雨量 (mm)	事象	出典
大正	14	1925	7	10				大雨					神戸地方気象台兵庫 県災害年表			小部21.9	床上・床下浸水3棟。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
大正	14	1925	7	23				大雨					神戸地方気象台兵庫 県災害年表	神戸16.1			雨量は少ない。神戸港で解13、漁船2沈没。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
大正	14	1925	8	16	8	17		台風	16.0		56	大阪の気象百年						神戸地方気象台兵庫 県災害年表
大正	14	1925	9	4				台風					神戸地方気象台兵庫 県災害年表			神戸57.3	神戸では西須磨天上川氾濫、電鉄一部不通。床上・床下浸水18000棟。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
大正	14	1925	9	7				大雨					神戸地方気象台兵庫 県災害年表				豊岡、城崎で震災後のバラック建の倒壊22棟。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
大正	15	1926	5	28	5	29		大雨					神戸地方気象台兵庫 県災害年表			灘128.2 有馬 110.9	神戸市では家屋・土崩・土崩崩壊有り。加古郡では加古川増水、田畑浸水。揖保郡では柿ヶ池堤防決壊1、水田3町歩著廃。武庫郡では夙川堤防決壊。西宮、但馬以外の県内各地には100mm内外の降雨有り、最多雨地は千種川・揖保川・市川・美藪川・武庫川の諸川流域及び淡路島で100mm以上。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
大正	15	1926	7	1				大雨					神戸地方気象台兵庫 県災害年表			有馬34.7	床上・床下浸水10棟。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
大正	15	1926	7	30				大雨	神戸8.6				神戸地方気象台兵庫 県災害年表				家島に発生、播磨・大阪湾を通過した雷雨による。風力よりも風向きが急変したため船舶に被害を与えた。神戸市では落雷6、煙突・電柱倒壊により電話線切断。神戸港では汽船の岸壁衝突。明石市内及び軍部において立木家屋の倒壊、農作物被害多し。岸田川増水、浜坂田地浸水。床下浸水1017棟以上、解流失30。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
大正	15	1926	9	15				大雨					神戸地方気象台兵庫 県災害年表			神戸41.4	神戸市では、42分間に41.3mmの降雨。西宮では落雷により1戸破損。浸水2100棟、帆船沈没1隻。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
大正	15	1926	9	17				台風					神戸地方気象台兵庫 県災害年表	神戸15.5			神戸市では煙突・電柱・板塀の被害多し。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	2	1927	8	26				大雨					神戸地方気象台兵庫 県災害年表			神戸30.8	床上・床下浸水47棟。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	2	1927	9	5				大雨					神戸地方気象台兵庫 県災害年表			灘200.0	洲本での12時間降水量が138mm(うち、121mmは8時間以内に降雨)。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	2	1927	9	12	9	14		大雨					神戸地方気象台兵庫 県災害年表			志筑 118.7 城崎 111.1 洲本40.7	熱帯低気圧。淡路南部と豊岡にて100mm内外の降雨があったが、風は弱かった。神戸・洲本・豊岡とも8m/s以下であったので風害は考えられない。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	3	1928	6	24				大雨					神戸地方気象台兵庫 県災害年表				兵庫県播磨地方を東進した温帯低気圧による。20日～22日まで多量(60mm内外)の雨のあった直後のため、水害が増大した。各河川の増水水位は、市川(花田村)2.8尺、夢前川(余部村)2.5尺、揖保川(竜野)2.9尺。神戸市では石垣崩2、姫路市では市川増水、漁船流失有り。明石市では瓦、電線に被害有り。阪神地方では浸水家屋多数。兵庫県では橋流失、田畑被害有り。城崎郡では田畑浸水。死者3名、床上・床下浸水99棟。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	3	1928	7	18				大雨					神戸地方気象台兵庫 県災害年表				前線。水上郡春日部村では山崩れのため死者9名。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	3	1928	8	18	8	19		台風					神戸地方気象台兵庫 県災害年表			有馬 150.2	淡路島で大雨。洲本測候所の観測では12時間降水量は116mm。水害があったものと推定されるが、詳らかでない。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	3	1928	8	30				台風					神戸地方気象台兵庫 県災害年表			有馬 137.8	河川堤防決壊、浸水、家屋倒壊、農作物の被害等がなかりあった。沈船2。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	3	1928	9	2				大雨					神戸地方気象台兵庫 県災害年表				雷雨。強雨は雷を伴い、局地的に若干の水害があった。落雷により新居港船体一部焼失、神出村(現神戸市)半焼1、多可郡那珂町焼死1名、水上郡芦田村焼失1、有馬郡大沢村(現神戸市)焼失1。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	3	1928	9	11	9	12		大雨					神戸地方気象台兵庫 県災害年表				三原郡一村では123mmの大雨(うち、112mmは20時間以内の降雨)、赤穂郡赤穂町(現赤穂市)で105mm、その他の地域は100mm未満。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	4	1929	8	1				大雨					神戸地方気象台兵庫 県災害年表				城崎郡田川村で家屋半壊13棟。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	4	1929	8	15				台風	神戸16.2			大阪の気象百年	神戸地方気象台兵庫 県災害年表			灘80.0	武庫川その他河川増水し、西宮付近海水浸水家屋相当有り。神戸市付近では電灯・電話線等の被害有り。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	4	1929	9	8	9	11		台風					神戸地方気象台兵庫 県災害年表				潮岬に接近し、房総半島を通過した台風のため、地形的に生じた前線性の降雨による豪雨。但馬北部に豪雨、県中央以南の雨量は少量。円山川・竹野川・三田川・岸田川・大柄川出水し、水害があった。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	4	1929	10	25	10	26		台風	神戸19.5				神戸地方気象台兵庫 県災害年表			有馬 119.5	津名郡では稲作被害大。但馬地区以外に100mm内外の降雨。志筑、網干、柏原、福住、篠山、三木、高砂、三田、千刈は100mmを越した。死者2名、住家全半壊2棟、解流失2隻、上屋倒壊1戸。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表

開始日				終了日				大阪府				兵庫県						
和暦	年	西暦	月	日	月	日	日	気象概要	最大風速 (m/s)	最大瞬間風速 (m/s)	雨量 (mm)	事象	出典	最大風速 (m/s)	最大瞬間風速 (m/s)	雨量 (mm)	事象	出典
昭和	5	1930	6	26	6	29	大雨						梅雨前線。美方郡村岡町では山崩れのため交通杜絶。円山川沿岸出水、城崎郡田岡町にて増水12尺。				梅雨前線。美方郡村岡町では山崩れのため交通杜絶。円山川沿岸出水、城崎郡田岡町にて増水12尺。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	5	1930	7	8			大雨						津名郡中田村で田畑浸水著しい。約9時間の降水量は、北条91mm、柱72mm、三木51mm。				津名郡中田村で田畑浸水著しい。約9時間の降水量は、北条91mm、柱72mm、三木51mm。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	5	1930	7	31	8	1	台風					台風。死者2名、家屋全半壊・床上・床下浸水13328棟。					台風。死者2名、家屋全半壊・床上・床下浸水13328棟。	大阪の気象百年
昭和	5	1930	8	1			大雨						熱帯性低気圧に伴った前線性の豪雨。主に但馬・丹後で被害。死者・不明者1名、浸水27棟、山崩れ9ヶ所。				熱帯性低気圧に伴った前線性の豪雨。主に但馬・丹後で被害。死者・不明者1名、浸水27棟、山崩れ9ヶ所。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	5	1930	8	15			大雨	9.3		135		死者2名、住家全半壊・浸水13328棟。	大阪府地域防災計画 関連資料集					
昭和	5	1930	8	30			大雨						雷雨。神戸市では平野送電線落雷、海岸通りその他浸水多数。加西郡北条町落雷数ヶ所、揖保郡新宮村(現新宮町)では耕地流失2町歩、橋流失3ヶ所、堤防決壊3ヶ所、浸水8戸、神戸市の1時間降水量の最大値は42.6mm。				雷雨。神戸市では平野送電線落雷、海岸通りその他浸水多数。加西郡北条町落雷数ヶ所、揖保郡新宮村(現新宮町)では耕地流失2町歩、橋流失3ヶ所、堤防決壊3ヶ所、浸水8戸、神戸市の1時間降水量の最大値は42.6mm。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	5	1930	9	12			大雨						雷雨。洲本町(現洲本市)、津名郡鮎原・三原郡広田村では電柱数ヶ所に落雷。市村付近には被害があったらしい。洲本2時間20分に32mmの強雨、雨は市村周辺の極地に限られた。				雷雨。洲本町(現洲本市)、津名郡鮎原・三原郡広田村では電柱数ヶ所に落雷。市村付近には被害があったらしい。洲本2時間20分に32mmの強雨、雨は市村周辺の極地に限られた。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	5	1930	10	20			大雨						雷雨。豊岡の1時間降水量の最大値は、41.2mm。				雷雨。豊岡の1時間降水量の最大値は、41.2mm。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	5	1930	10	30			大雨		神戸12.1				温帯低気圧。洲本港では、各航路杜絶、電灯・電話線故障、機船転覆により死者4名。神戸市では、海港博覧会被害大、その他小破損多し。円山川増水8尺、各支川とも著しく増水、豊岡付近の村浸水200町歩で水稲に相当被害。養父郡関宮村・高柳村で稲木倒れ・稲束流失、損害大。				温帯低気圧。洲本港では、各航路杜絶、電灯・電話線故障、機船転覆により死者4名。神戸市では、海港博覧会被害大、その他小破損多し。円山川増水8尺、各支川とも著しく増水、豊岡付近の村浸水200町歩で水稲に相当被害。養父郡関宮村・高柳村で稲木倒れ・稲束流失、損害大。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	6	1931	7	9	7	10	大雨						雷雨。加東郡では畑・芋畑被害。姫路市では浸水家あり。水上郡柏原町では堤防決壊15間。加西郡では浸水田が数十町歩。赤穂町(現赤穂市)では、千種川18尺増水、水田浸水あり。各地ともに落雷あり。浸水43棟。		小部66.3		雷雨。加東郡では畑・芋畑被害。姫路市では浸水家あり。水上郡柏原町では堤防決壊15間。加西郡では浸水田が数十町歩。赤穂町(現赤穂市)では、千種川18尺増水、水田浸水あり。各地ともに落雷あり。浸水43棟。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	6	1931	9	17	9	18	大雨						熱帯低気圧。姫路市周辺に大雨。				熱帯低気圧。姫路市周辺に大雨。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	6	1931	10	8			大雨						有馬川増水、有馬郡有馬町(現神戸市)では堤防決壊、神戸市水室町では山崩れ5ヶ所。8日朝までの5日間に108mm。家屋流失1棟、浸水169棟。				有馬川増水、有馬郡有馬町(現神戸市)では堤防決壊、神戸市水室町では山崩れ5ヶ所。8日朝までの5日間に108mm。家屋流失1棟、浸水169棟。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	6	1931	10	12	10	13	大雨	12.7					熱帯性低気圧による烈風と大雨。神戸市では倉庫倒壊・板塀・瓦等小破損。城崎郡茶佐村では奈佐川堤防決壊。多紀郡では道路破損、橋流失あり。水上郡柏原町では道路、橋の流失多く、稲作被害大、道路堤防決壊多し。住家全半壊3棟、床上・床下浸水1000棟、機船沈没9ヶ所、漁船行方不明20隻。				熱帯性低気圧による烈風と大雨。神戸市では倉庫倒壊・板塀・瓦等小破損。城崎郡茶佐村では奈佐川堤防決壊。多紀郡では道路破損、橋流失あり。水上郡柏原町では道路、橋の流失多く、稲作被害大、道路堤防決壊多し。住家全半壊3棟、床上・床下浸水1000棟、機船沈没9ヶ所、漁船行方不明20隻。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	7	1932	7	1	7	2	大雨						梅雨前線。三島郡で田畑浸水約千町。大阪市内の床上・床下浸水3800棟。				梅雨前線。三島郡で田畑浸水約千町。大阪市内の床上・床下浸水3800棟。	
昭和	7	1932	7	5			亀の瀬地すべり						亀の瀬地すべりにより、河道が閉塞され、上流部で浸水被害が発生。				亀の瀬地すべりにより、河道が閉塞され、上流部で浸水被害が発生。	
昭和	7	1932	7	7	7	9	大雨						梅雨前線。被害不明。				梅雨前線。被害不明。	
昭和	7	1932	8	7			大雨						雷雨。風害死1名、神戸市では雷撃重傷1名、床下浸水数百戸、高塚では60戸浸水。				雷雨。風害死1名、神戸市では雷撃重傷1名、床下浸水数百戸、高塚では60戸浸水。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	7	1932	9	9			大雨						雷雨。神戸市では浸水家屋350戸、落雷数ヶ所。芦屋では溺死1名、半壊1戸。				雷雨。神戸市では浸水家屋350戸、落雷数ヶ所。芦屋では溺死1名、半壊1戸。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	7	1932	11	14	11	15	台風						神戸市では電線切断、板塀破損多し。但馬方面は雨多し。淡路管内で田浸水500町歩。帆船沈没3隻、帆船破損1隻。				神戸市では電線切断、板塀破損多し。但馬方面は雨多し。淡路管内で田浸水500町歩。帆船沈没3隻、帆船破損1隻。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	8	1933	4	25	4	28	大雨						淡路島では山崩れのため家屋2棟倒壊、由良洲本街道及び西浦方面山崩れ諸々に起こり、交通杜絶。六甲山周辺にも相当多雨。約12時間降水量は、洲本140mm、市18mm、岩屋90mm、志筑80mm。				淡路島では山崩れのため家屋2棟倒壊、由良洲本街道及び西浦方面山崩れ諸々に起こり、交通杜絶。六甲山周辺にも相当多雨。約12時間降水量は、洲本140mm、市18mm、岩屋90mm、志筑80mm。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	8	1933	7	4			大雨						雷雨。佐用郡では橋梁流失多数。				雷雨。佐用郡では橋梁流失多数。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	8	1933	7	8			大雨						津名郡生穂町では道路1250m、堤防決壊70m。				津名郡生穂町では道路1250m、堤防決壊70m。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	8	1933	7	26			大雨						前線。但馬に大雨、栗原郡では震死2名、赤穂郡では震死1名、宝塚では落雷数ヶ所。				前線。但馬に大雨、栗原郡では震死2名、赤穂郡では震死1名、宝塚では落雷数ヶ所。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	8	1933	8	2	8	3	台風						淡路南部、南シナ海より南朝鮮に入った台風。				淡路南部、南シナ海より南朝鮮に入った台風。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表

開始日				終了日				大阪府				兵庫県							
和暦	年	西暦	月	日	月	日	日	気象概要	最大風速 (m/s)	最大瞬間 風速 (m/s)	雨量 (mm)	事象	出典	最大風速 (m/s)	最大瞬間 風速 (m/s)	雨量 (mm)	事象	出典	
昭和	8	1933	8	9				大雨											神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	8	1933	8	13				大雨											神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	8	1933	8	15				大雨											神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	8	1933	8	25				大雨											神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	8	1933	9	4	9	5		台風											神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	8	1933	10	6				大雨											神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	8	1933	10	20				台風											神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	9	1934	6	20	6	21		大雨											神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	9	1934	7	11	7	12		大雨											神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	9	1934	7	21				大雨											神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	9	1934	8	1				雷雨											神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	9	1934	9	20	9	21		室戸台風	48.4	60.0	223	死者1812名、行方不明者76名、負傷者8932名、家屋全壊・流失14368棟、半壊15674棟、床上浸水142910棟、床下浸水40830棟。							神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	10	1935	6	17				大雨											神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	10	1935	6	29				大雨											兵庫県地域防災計画
昭和	10	1935	6	30				大雨											神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	10	1935	8	9	8	11		台風											神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	10	1935	8	11				風雨	42.0		183	台風。負傷20名、家屋倒壊・流失117棟、床上浸水3633棟、床下浸水43752棟。							神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	10	1935	8	27	8	30		台風	13.8	21.6	74	負傷者10名、家屋全壊・流失116棟、半壊74棟、床上浸水3632棟、床下浸水43669棟。							神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	10	1935	8	31	9	2		大雨											神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	10	1935	9	4				大雨											神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	10	1935	10	27				大雨											神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	11	1936	2	4				大雨											神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	11	1936	2	4	2	5		強風											神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	11	1936	4	25				強風											神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	11	1936	6	22				大雨											神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	11	1936	7	23	7	24		台風											神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	11	1936	8	26	8	27		大雨											神戸地方気象台兵庫 県災害年表

開始日				大阪府				兵庫県			
和暦	年	西暦	終了日	気象概要	事象	出典	気象値		事象	出典	
							最大風速 (m/s)	最大瞬間 風速 (m/s)			雨量(mm)
昭和	11	1936	9月26日	大雨					前線。姫路地方においてはこの降雨のため、農作物は30%減収、淡路地方においては大雨。約19時間に洲本で125mm、富島で121mm、灘で101mm、志筑で90mm、市村で84mmの降雨。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表	
昭和	11	1936	10月2日	台風	家屋浸水4300余戸、市電運休。	大阪の気象百年			雨量は比較的多かったが、被害が少なかったのは降雨が長時間にわたったため。浸水家屋は神戸市600戸、尼崎170戸、揖保郡14戸、東播地方17戸。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表	
昭和	12	1937	6月16日	大雨					雷雨。但馬地方を除く県内各地で落雷があり、震死・建物焼失あり。那波町・相生町(現相生市)・船坂村・高森村(現赤穂市)で降雹。飾磨町(現姫路市)では家屋浸水、機船遭難があった。死者3名、家屋浸水65棟、機船遭難1隻。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表	
昭和	12	1937	7月9日	大雨					雷雨。各地で落雷があり、震死・焼失あり。神戸市六甲口一フウエイでも落雷。姫路市は浸水1尺。死者1名、住家焼失2棟。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表	
昭和	12	1937	7月15日	大雨					雷雨。加東郡社町外各地で堤防等が決壊、田畑浸水。宍粟郡神野村では震死1名、家屋全焼1戸。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表	
昭和	12	1937	9月10日	台風	負傷2名、住家全半壊流失21戸、床上浸水824戸、床下浸水4351戸。	大阪の気象百年	神戸19.7		雨量は県南部沿岸60~80mmで、但馬は多量。尼崎市では高潮が押し寄せ、浸水被害。武庫郡天住村では満潮で高潮となり、丸島付近で床上浸水。武庫郡鳴尾村(現西宮市)の海岸には2丈余の高潮。家屋倒壊・浸水、橋梁・堤防・道路の決壊甚だしい。死者17名。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表	
昭和	13	1938	7月3日	大雨	前線。死者・不明者19名、負傷2名、住家全半壊流失183棟、床上浸水456棟、床下浸水25106棟。	大阪の気象百年			梅雨前線。住吉川、芦屋川、(播磨地域の)市川、夢前川、揖保川、千種川、(但馬地域の)円山川、出石川が氾濫。表六甲市街地での土砂災害が顕著。この災害から2ヶ月後に六甲砂防工事事務所が設置され、水害復興のための砂防工事が国の直轄施工で行われた。死者731名、負傷1463名。	兵庫県地域防災計画	
昭和	13	1938	8月1日	大雨					低気圧に伴った前線による雷雨。雨量の特に多かったのは、淡路島南部、六甲山系、多可郡。先の阪神大水害で流失した岩石・土砂により床上浸水、住吉・大石・青谷・芦屋・天王・加古・市川の諸川は増水。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表	
昭和	13	1938	8月19日	大雨					九州南西洋上を北上中だった台風のために誘発された前線による雨。洲本を中心に大雨。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表	
昭和	13	1938	9月5日	台風	床上浸水1919棟、床下浸水13870棟。	大阪府地域防災計画 関連資料集	神戸22.3		高潮が発生、平常潮位より0.5~2.1m高まり、浸水被害があった。特に、魚崎町(現神戸市)海岸や打出海岸、西宮市、鳴尾村(現西宮市)の阪神築港理め立て地、大庄村(現尼崎市)では、数十軒の浸水とバタック300戸以上の浸水。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表	
昭和	14	1939	6月16日	大雨	前線、熱帯低気圧。床上・床下浸水5500棟。	大阪の気象百年					
昭和	14	1939	8月1日	大雨					瀬戸内海・近畿を横切る前線に発した雷雨が、前線の南下とともに滋賀県より京都府を経て本県に入り、さらに岡山・広島に進んだ際に降った強雨。1時間雨量87.7mmは測候所開始以来より昭和28年2月までの記録、最多雨量は摩耶山の183mm。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表	
昭和	14	1939	9月10日	大雨					低気圧。県南東部に多く水害あり、おおよそ14時間の降雨。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表	
昭和	15	1940	7月9日	雷雨	1時間降水量の最大63.8mm。死者7人 家屋倒壊7戸 同浸水11万7千戸 堤防決壊3ヶ所。	大阪の気象百年					
昭和	15	1940	7月15日	集中豪雨	雨量120mmの集中豪雨、生駒山グライダー場で山崩れ。	大阪府地域防災計画 関連資料集					
昭和	15	1940	9月6日	大雨					雷雨。神戸市では兵庫・須磨その他の浸水家屋54戸。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表	
昭和	15	1940	9月12日	台風					三原郡福良町浸水家屋360棟。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表	
昭和	16	1941	6月25日	大雨	梅雨前線。住家全壊2棟、床下浸水9130棟、がけ崩れ4ヶ所。	大阪の気象百年					
昭和	16	1941	8月15日	台風			神戸22.2		県下西部地方において死傷者、家屋倒壊、道路・橋梁破壊、汽車・電車不通、農作物等に被害大。大阪市では、0.1P線より1mの高潮。神戸市は中突堤・万国波止場付近で高潮。尼崎市は阪神電車海岸線不通、築地・灘波・杭瀬・神崎方面、武庫郡大庄村村当瀬しい浸水。死者18名、行方不明者5名、負傷者15名、家屋全壊620棟、半壊160棟、浸水家屋11275棟、船舶流失・沈没114隻。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表	
昭和	16	1941	9月30日	台風			神戸13.0		本県下西部地方は風雨激しく、各地で被害。高潮襲来により浸水、護岸決壊、貨物船沈没。県一円で死者2名、行方不明者1名、負傷者2名、家屋全壊35棟、半壊103棟、家屋浸水4276棟、船舶流出沈没28隻。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表	
昭和	17	1942	6月23日	大雨					梅雨前線。六甲山系と淡路地方・水上市・多可郡に多量。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表	



開始日				終了日				大阪府				兵庫県						
和暦	年	西暦	月	日	月	日	日	気象概要	最大風速 (m/s)	最大瞬間風速 (m/s)	雨量 (mm)	事象	出典	最大風速 (m/s)	最大瞬間風速 (m/s)	雨量 (mm)	事象	出典
昭和	17	1942	8	27	8	28		台風				床上・床下浸水400棟。	大阪の気象百年	神戸12.6			雨量は福良118mm、内海沿岸は30mm内外。兵庫県三方村、津名郡志筑・井穂町、三原郡灘村で、防波堤や突堤、河川護岸、海岸護岸が決壊。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	17	1942	9	21	9	22		台風				床上浸水70棟、床下浸水7025棟。	大阪の気象百年	-			熱帯低気圧。豪雨により水害発生。雨量は但馬全区と兵庫県淡路島において特に多かった。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	18	1943	6	14			大雨							-			低気圧による大雨。降雨は水上・多可・神崎・兵庫県山岳地に多く、沿岸地は少なかつた。死者4名、家屋全壊2棟、床上浸水10棟、床下浸水55棟。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	18	1943	7	25	7	26	大雨							-			南部特に関防決壊。有馬・美濃郡に多く、家屋浸水や道路決壊等の被害あり。床上浸水46棟、家屋浸水500棟。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	18	1943	8	15			大雨							-			大雨の状態が不安定のため、数日前より雷雨頻発。浜坂町では、14日218mm、15日112mmの豪雨。但馬浜坂及びその近傍水害。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	18	1943	9	11			大雨							-			生野で1日量として161mmの豪雨。前線に発生した雷雨によるもので、相当の被害があったものと推定される。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	18	1943	9	20			大雨							神戸11.7			熱帯性低気圧。揖保郡磯崎町・木田村・石海村(現太子町)では耕地浸水。兵庫県原村では家屋や水田流失、冠水田あり。西谷村では堤防決壊。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	19	1944	8	7			大雨							神戸24.7			熱帯性低気圧。近畿地方と静岡県下にながりの被害。高潮が尼崎市街地に浸水。美方郡八田村では家屋倒壊5戸、家屋損傷56戸。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	19	1944	9	4			大雨							-			低気圧。兵庫県三方村に被害あり。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	19	1944	9	7	9	8		台風				大阪市内浸水3600戸、堤防決壊3カ所、船舶沈没3隻。	大阪の気象百年	-			低気圧。姫路市では農作物30%減収、家屋倒壊あり。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	19	1944	9	17			台風16号	18.6	21.8	53	各地に豪雨被害大。床上浸水8591棟、床下浸水7266棟。	大阪府地域防災計画 関連資料集	神戸18.7				赤穂・佐用両郡で雨量大、それ以外の地区はすべて100mm未満で被害は少ない。河川神水は、千種川(赤穂郡)5.20m、千種川(上郡町)4.79m。尾崎市では家屋流失1棟、半壊2棟、床上浸水4169棟、床下浸水4072棟、非住家浸水812棟。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	19	1944	10	7	10	8	台風20号	18.6	21.8	52	死者58名、行方不明者45名、負傷者37名、家屋全壊・流失1132棟、半壊863棟、床上浸水5358棟。	大阪府地域防災計画 関連資料集	神戸23.3				神戸では烈風により風害。但馬地方では八鹿・豊岡・城崎の各地で6~8日合量220mm内外の大雨を記録、円山川付近に水害が発生したことが推定される。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	20	1945	3				大雨							-			城崎郡国府村では畑流失5反歩。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	20	1945	9	14			大雨							-			低気圧。加西郡富田村では水稲30%減収。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	20	1945	9	17	9	18	枕崎台風	19.0	22.5	3	死者・不明者4名、床上浸水28234棟、床下浸水10800棟。	大阪府地域防災計画 関連資料集	神戸27.4				雨量は兵庫県及び但馬の西部山間地対に多く、この豪雨による被害と淡路島では風害による甚大な被害あり。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	20	1945	10	2	10	3	大雨							-			水上郡沼津村では浸水のため水稲10%減収、出石郡高橋村でも堤防・道路決壊や田畑浸水被害あり。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	20	1945	10	9	10	13	阿久根台風	19.0	15.5	3	死者1名、行方不明者3名、家屋全壊・流失805棟、床上浸水10034棟、床下浸水19550棟。	大阪府地域防災計画 関連資料集	神戸14.1				円山川流域低地は悉く浸水、水田は大地と化す。豊岡地方の家屋は殆どが浸水。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	21	1946	6	18	6	19	大雨							灘150.0 岩屋 160.3			前線。降雨は六甲山系の南側と淡路島に特に大。明石郡、美濃郡、津名郡で浸水。神戸市では道路破損決壊や橋梁流失、河川破損決壊。津名中田村では田畑埋没、道路決壊、山崩れ等あり。生穂町では道路決壊。佐野町では河川護岸決壊。宍粟郡下見方村では家屋被害、道路破損あり。家屋全壊1棟、半壊1棟、床上浸水597棟、床下浸水358棟。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	21	1946	7	29	7	30	台風				台風。家屋半壊4戸、床下浸水200戸、堤防決壊1カ所。	大阪の気象百年	神戸17.6				熱帯低気圧。朝来・養父・宍粟郡、淡路島で雨量多く、赤穂・揖保郡水害。相生市では河川堤防決壊1カ所、床下浸水207戸。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	22	1947	7	9			大雨							-			熱帯性低気圧。局地的な豪雨により有馬・美濃・加東・明石郡及び淡路北部に水害。道路、河川、砂防、工事関係に被害あり。負傷者1名、家屋全壊3棟、半壊7棟、流失2棟、床上浸水228棟、床下浸水5862棟。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	22	1947	9	14	9	15	カスリーン台風							-			姫路市農作物70%減収、堤防決壊、家屋浸水あり。床上・床下浸水50棟。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	22	1947	9	20			大雨							-			前線。局地的な豪雨で、篠山地方では相当の水害が推測される。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	23	1948	1	14	1	15	大雨							神戸14.0			温帯低気圧。家屋倒壊4棟、海岸破壊3ヶ所、護岸決壊0ヶ所。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	23	1948	7	2			大雨							六甲山 127.5			低気圧。水上郡和田村で山崩れ3ヶ所。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表

開始日				終了日				大阪府				兵庫県							
和暦	年	西暦	月	日	月	日	日	気象概要	最大風速 (m/s)	最大瞬間風速 (m/s)	雨量 (mm)	事象	出典	最大風速 (m/s)	最大瞬間風速 (m/s)	雨量 (mm)	事象	出典	
昭和	23	1948	7	19	7	21	大雨						大甲山 135.1				雷雨。水上郡佐治町では詳細不明であるが水害が見込まれる。武庫郡良元村弁天池(仁川駅北)決壊、京阪神急行今津線築堤・鉄橋の橋脚崩壊、民家9軒破壊流出、福井・高松・蔵人の400余戸が床上床下浸水。武庫川支流支多田川・御手洗川・天王川・天人川・谷洲川氾濫して武庫川西部より伊丹市に及んだ。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表	
昭和	23	1948	8	24	8	26	大雨					熱帯低気圧。家屋半壊8棟、床下浸水30棟。	大阪の気象百年	六甲山 110.3			熱帯低気圧。市川・夢前川・上中流における豪雨。風は弱かった。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表	
昭和	23	1948	8	27			大雨												
昭和	23	1948	9	10			大雨						神戸16.8				雷雨性の雨で局地的に強く、短時間の強雨。加古・印南郡浸水家屋多数、印南郡南部被害大。水上郡柏原町を中心とする17ヶ町村に被害。揖保川山崎町で3.9mの増水。家屋全半壊流失34棟、床下浸水85棟、非住家一部破壊82棟、山崩れ30余ヶ所。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表	
昭和	23	1948	9	11	9	12	大雨					日本海低気圧。床下浸水698棟。	大阪の気象百年						
昭和	23	1948	10	4	10	5	リビーター台風					床上浸水14棟、床下浸水約500棟。	大阪の気象百年						
昭和	23	1948	11	5	11	6	大雨					南岸低気圧。床下浸水約500棟。	大阪の気象百年						
昭和	23	1948	11	19			アグネス台風							神戸22.3			台風中心が室戸岬付近に接近する頃、東北東風が強吹。津名郡志筑町では海岸防潮堤・防波堤破壊。円山川上流堤防1ヶ所決壊。行方不明1名、床下浸水12棟、漁船遭難1隻。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表	
昭和	24	1949	6	20	6	23	デラ台風					台風アラと梅雨前線。住家全半壊流失11棟、床上浸水173棟、床下浸水14714棟、非住家被害7棟、がけ崩れ23ヶ所、鉄軌道被害8ヶ所。	大阪の気象百年	神戸252 西宮272 有馬255 六甲山292 伊丹235			被害は主として豪雨によるもので、武庫川地区西宮・伊丹・尼崎・神戸市に大さきく、有馬・明石郡明石市・加古・加西・印南郡・洲本市及び津名郡由良町がこれに次ぐ。床下浸水は西宮・尼崎・伊丹・宝塚川辺管管内に多し。冠水田は東播印南・明石・加西郡、大久保町・有馬郡及び武庫川地区に多し。被害の最大河川は、猪名川筋・天神川・天王川・三原川・大日川・伊川・美葦川・表六甲川。死者5名、住家全半壊12棟、床上浸水50棟、床下浸水1016棟、海岸破壊9ヶ所、公園被害2ヶ所、山・崖崩れ15ヶ所、漁船流失5隻、溜池決壊7ヶ所。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表	
昭和	24	1949	7	28	7	29	ヘスター台風							神戸116			被害は台風消滅後発生した前線による豪雨によるもので、30日夜から31日未明にかけて県南部で豪雨。特に赤穂・揖保・川辺郡に多量で、河川の氾濫その他相当の被害が出た。床下浸水462棟、土砂崩れ1ヶ所、山崩れ1ヶ所。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表	
昭和	24	1949	9	18	9	20	大雨										前線性豪雨。宍粟郡南部を中心として揖保・神崎・加古・飾磨の各郡に被害。住家半壊21棟、全壊2棟、流失8棟、床上浸水234棟、床下浸水1175棟、鉄道損失14ヶ所、鉄道被害1ヶ所、通信施設被害17ヶ所。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表	
昭和	24	1949	9	22	9	24	大雨					二つ玉低気圧。負傷1名、床上浸水100棟、床下浸水2001棟。	大阪の気象百年						
昭和	24	1949	11	23	11	24	台風												
昭和	25	1950	1	6			強風					季節風。大阪港機能麻痺。船舶被害1隻。	大阪の気象百年						
昭和	25	1950	1	30			大雨												
昭和	25	1950	1	30	1	31	強風					季節風。建物被害1棟、床下浸水330棟、船舶被害3隻。	大阪の気象百年	有馬70.2					
昭和	25	1950	2	10			強風					季節風。死者1名、建物被害1棟、船舶沈没1隻。	大阪の気象百年	西宮68.0					
昭和	25	1950	3	6	3	7	大雨					日本海低気圧、前線。床上浸水2棟、床下浸水2277棟、がけ崩れ1ヶ所。	大阪の気象百年	六甲山 248.6 神戸 137.5 有馬 169.0 西宮 147.8				温暖前線によって生じた強雨。伊丹市、河辺郡中谷村、長尾村、洲本市、河辺郡で護岸決壊、河川決壊、道路の崩土、崩岩、仮橋流失などの被害。洲本測候所では総雨量101mm、河辺郡は70mm内外の雨量。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	25	1950	4	1			大雨												
昭和	25	1950	5	19	5	20	大雨					梅雨前線、二つ玉低気圧。建物被害3棟、床下浸水300棟、鉄軌道被害1ヶ所、電柱倒壊10数本。	大阪の気象百年						
昭和	25	1950	6	20	6	21	大雨					梅雨前線。建物全壊1棟、床下浸水2232棟。	大阪の気象百年						
昭和	25	1950	6	25			大雨												

開始日				終了日				大阪府				兵庫県							
和暦	年	西暦	月	日	月	日	日	気象概要	最大風速 (m/s)	最大瞬間風速 (m/s)	雨量 (mm)	事象	出典	最大風速 (m/s)	最大瞬間風速 (m/s)	雨量 (mm)	事象	出典	
昭和	25	1950	6	27	6	29	大雨		28.1	44.7	65	梅雨前線。床下浸水710棟。 死者240名、行方不明者16名、負傷者21215名、家屋全壊・流失10625棟、半壊60708棟、床上浸水54139棟、床下浸水40025棟。	大阪の気象百年 大阪府地域防災計画 関連資料集	—	神戸48	神戸97 西宮64	特に被害が甚大な風水害。但馬・丹波等の山岳部で雨量多く、神戸市以東の沿岸部・淡路島では高潮・高波が顕著で、潮位の偏差は神戸市1.47m、洲本市1.19m上昇。死者41名、負傷者904名。 島下の被害は概して軽微な方であったが、大阪湾沿岸と淡路島の紀淡海峡に面した沿岸地方では高潮による浸水家屋や田畑に被害(潮風による被害が多い)。床上浸水453棟、床下浸水4345棟、非住家被害34戸、電柱倒壊23ヶ所。	兵庫県地域防災計画	
昭和	25	1950	9	2	9	4	ジェーン台風												
昭和	25	1950	9	12	9	14	キジア台風												
昭和	26	1951	7	1	7	2	ケイト台風					梅雨前線とケイト台風。床上浸水8棟、床下浸水8256棟。	大阪の気象百年	神戸15.8	六甲山167.0 神戸117.5	この台風による被害は主として降雨による。本台風に引き続き8日より15日に連続降雨により水害が出て被害分難が困難なものもあり。死者・不明者2名、負傷6名、住家全半壊76棟、床下浸水7458棟、山崩れ14ヶ所、浸水1592町歩、護岸流失28ヶ所、山林被害673町歩、護岸流出決壊52ヶ所、溜池水道等損壊103ヶ所。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表		
昭和	26	1951	7	7	7	9	大雨					梅雨前線。床下浸水2424棟。	大阪の気象百年		住吉駅489 尼崎駅400 神戸334.5 西宮393.8 六甲山411.7	梅雨前線。神戸以東の武川地区を含む阪神地区と淡路島で雨量大。死者3名、行方不明3名、負傷者6名、住家全壊6棟、半壊23棟、一部破損5棟、床上浸水388棟、床下浸水10615棟、山崩れ30町歩、船舶沈没1隻、溜池破損136か所、非住家被害34棟。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表		
昭和	26	1951	7	10	7	16	大雨					梅雨前線。行方不明1名、負傷4名、建物被害85棟、床上浸水681棟、床下浸水13671棟、がけ崩れ121ヶ所、船舶被害20隻。	大阪の気象百年	—	—	—	—	—	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	26	1951	10	13	10	15	ルース台風					死者1名、負傷1名、床上浸水492棟、床下浸水2583棟。	大阪の気象百年	神戸19.6	—	—	—	—	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	27	1952	1	25			強風					季節風。床下浸水50棟、船舶被害1隻。	大阪の気象百年		岩屋114.9 六甲山122.1	—	—	—	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	27	1952	4	9			大雨												
昭和	27	1952	5	10			大雨							神戸14.0	—	—	—	—	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	27	1952	6	22	6	25	ダイナ台風					建物被害1棟、床下浸水3550棟、がけ崩れ2ヶ所、通信施設被害17回線。	大阪の気象百年	神戸14.9	灘145.5	淡路島、水上・多紀・有馬・川辺郡の山地で雨量大。各河川は急激に水位上昇し、上流支流川では堤防溢流有り。警戒水位を越えた河川の増水位は、武庫川(三田)3.7、有馬川(道場)1.8、榎谷川(玉津)1.6、伊川(玉津)1.6、杉原川(中町)2.55。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表		
昭和	27	1952	7	1	7	3	大雨					死者1名、床上浸水491棟、床下浸水8166棟。	大阪の気象百年	—	灘133.6 六甲山156.0	梅雨前線。武庫川上流・明石・加古・杉原・佐治・竹田・法華山谷・天の各河川で護岸堤防が決壊。道路・橋梁の被害も大。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表		
昭和	27	1952	7	9	7	11	7月豪雨			389		死者・不明者41名、負傷者454名、家屋全壊・流失187棟、床上・床下浸水192238棟。	大阪府地域防災計画 関連資料集	—	西宮250.0 神戸166.6	梅雨前線。支流・小河川の水位急上昇急、前回の破損個所の増破、新たに決壊が生じた被害有り。特に雨量200mmを超えた阪神地区の武庫川流域の被害額大、河川道路関係被害大。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表		
昭和	27	1952	8	5			大雨					床下浸水172棟。 大正池決壊により東近畿一帯で水害。死傷者1718名、住家全半壊流失1387棟、床上・床下浸水4208棟。 季節風。大阪港機能麻痺。汽船沈没1隻。 寒冷前線通過。強風による架線切れにより、国鉄一時不通。 瀬戸内海低気圧。床下浸水20棟。	大阪の気象百年	—	灘82.5	短時間の局地的強雨。護岸の破損、高水敷の洗掘、家屋浸水、田畑冠水、流失等甚大な被害有り。神崎郡北部と相生市北部は被害甚大。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表		
昭和	27	1952	11	4	11	5	アグネス台風												
昭和	28	1953					前線												
昭和	28	1953	1	12	1	15	強風												
昭和	28	1953	3	11			強風												
昭和	28	1953	5	29	5	30	大雨												

開始日				終了日				大坂府				兵庫県							
和暦	年	西暦	月	日	月	日	日	気象概要	最大風速 (m/s)	最大瞬間 風速 (m/s)	雨量 (mm)	事象	出典	最大風速 (m/s)	最大瞬間 風速 (m/s)	雨量 (mm)	事象	出典	
昭和	28	1953	6	4	6	8	8	台風2号				負傷1名、住家全半壊86棟、床上浸水30棟、床下浸水3841棟、がけ崩れ8ヶ所、鉄軌道被害3ヶ所。	大阪の気象百年	神戸17.4	神戸24.2	六甲山262.9 神戸147.6 有野201.0	死者8名、負傷者2名、住家全半壊21棟、一部破損15棟、床上浸水175棟、床下浸水7360棟、非住家被害38戸、山・崖崩れ86ヶ所、船舶沈没6隻、船舶流失15隻、船舶破損3隻。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表	
昭和	28	1953	7	2	7	6	大雨				梅雨前線。死者1名、住家全半壊2棟、床下浸水1475棟。	大阪の気象百年	-	-	有野110.4	梅雨前線。北部を中心に大雨、甚大な被害が発生。死者4名、負傷者3名、住家全半壊流失3棟、床上浸水31棟、床下浸水591棟、非住家被害2戸、山・崖崩れ52ヶ所。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表		
昭和	28	1953	7	17	7	20	大雨				梅雨前線。負傷1名、建物被害1棟、床下浸水3274棟。	大阪の気象百年							
昭和	28	1953	8	14	8	15	南山城水害				国・私鉄一時不通。床下浸水60棟。	大阪の気象百年							
昭和	28	1953	9	1			大雨				前線により府北部に局地的豪雨。住家全半壊5棟、床上浸水41棟、床下浸水1510棟。	大阪の気象百年							
昭和	28	1953	9	14	9	15	大雨				寒冷前線通過に伴い阪神地方に強雷雨。鉄道交通混乱。負傷4名。	大阪の気象百年							
昭和	28	1953	9	24	9	26	台風13号	22.0	28.9	176	中河内地区の山崩れで堰堤崩壊し、荒廃、植林地崩壊。死者26名、行方不明者1名、負傷者453名、家屋全壊・流失877棟、半壊3354棟、床上浸水13434棟、床下浸水150354棟。	大阪府地域防災計画 関連資料集	神戸26.8	神戸40.0	神戸187.6 有野245.0 灘261.8 六甲山187.9	県内では暴風雨、人的被害・建物の倒壊など甚大な被害を受けた。死者6名、負傷者31名、家屋の全壊291棟、半壊745棟、流失19棟、一部損壊8108棟、床上浸水3702棟、床下浸水15522棟、非住家被害625戸、山・崖崩れ190ヶ所、船舶沈没3隻、船舶流失1隻、鉄軌道被害106ヶ所。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表		
昭和	29	1954	6	5	6	7	大雨				日本海低気圧。床上浸水20棟、床下浸水1205棟。	大阪の気象百年	-	-	神戸74.5 六甲山89.4	低気圧に伴う前線。床下浸水411棟、山・崖崩れ3ヶ所。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表		
昭和	29	1954	6	22	6	23	大雨				梅雨前線。死者1名、負傷者1名、建物全半壊2棟、床下浸水362棟。	大阪の気象百年	-	-	神戸58.3	梅雨前線が停滞。県内は風雨が強まり、人的被害が発生。死者3名、床上浸水2棟、床下浸水217棟、船舶沈没1隻、船舶破損2隻。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表		
昭和	29	1954	6	28	6	30	大雨				梅雨前線。府下の中小河川に大被害。死者2名、負傷者1名、建物被害35棟、床上浸水532棟、床下浸水34686棟。	大阪の気象百年	-	-	灘347.0 神戸191.3 六甲山204.9	梅雨前線。九州から四国、紀伊半島及び阪神地域で大雨となり、甚大な被害が発生。県内の降水量は、南部では100mm前後、淡路島・阪神地域では200mm。死者6名、負傷者8名、住家全半壊23棟、床上浸水1604棟、床下浸水16769棟、山・崖崩れ72ヶ所、鉄軌道被害2ヶ所、船舶流失1隻。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表		
昭和	29	1954	7	4	7	6	大雨				梅雨前線。府北部を中心に被害。死者1名、建物全半壊11棟、床上浸水344棟、床下浸水16894棟。	大阪の気象百年	-	-	神戸188.6 六甲山184.3 西宮175.0	前線と低気圧。四国北部、中国、近畿地方では大雨、河川が増水、溢水して家屋、田畑の浸水、土砂災害などの被害が多く発生。県内の降水量は南部地方で100～200mm、中・北部地方で50～100mm。家屋の全壊2棟、床上浸水17棟、床下浸水3177棟、非住家被害1戸、山・崖崩れ44ヶ所、鉄道被害5ヶ所。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表		
昭和	29	1954	8	17	8	20	台風5号				負傷者9名、床下浸水53棟。	大阪の気象百年	神戸14.2	六甲山132.1 神戸59.8 灘84.1	六甲山132.1 神戸59.8 灘84.1	県内での被害は建物などの浸水が中心で、比較的軽少。床上浸水1棟、床下浸水349棟、非住家被害1戸、山・崖崩れ1ヶ所。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表		
昭和	29	1954	9	10	9	14	台風12号				建物被害30棟、床下浸水224棟。	大阪の気象百年	-	-	神戸12.2 灘34.0	暴風半径が大きく、進行速度も緩慢で、暴風の吹走継続時間が長く、神戸で10m/s以上の強風が63時間も続いた。しかし降水量は全般的に寡雨だった。負傷者13名、家屋の全壊20棟、半壊111棟、一部破損1801棟、床上浸水396棟、床下浸水2332棟、非住家被害464戸、山・崖崩れ5ヶ所、鉄軌道被害2ヶ所、船舶沈没4隻、通信施設被害396ヶ所。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表		
昭和	29	1954	9	17	9	19	台風14号				負傷4名、建物被害8棟、床下浸水129棟、がけ崩れ1ヶ所。	大阪の気象百年	-	-	神戸68.4 六甲山105.3	県南部の沿岸地域では20m/sを越す強風、降水量も六甲山の北側や北但地域では100mmを超えた。死者3名、家屋の全壊5棟、床上浸水35棟、山・崖崩れ1ヶ所、通信施設被害4ヶ所。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表		
昭和	29	1954	9	25	9	27	洞爺丸台風	26.3	26.3		台風15号。死者2名、負傷者7名、建物全半壊87棟、床上浸水88棟、床下浸水239棟、鉄軌道被害4ヶ所。	大阪の気象百年	-	-	神戸42.6 灘102.8	死者7名、負傷者90名、家屋の全壊292棟、半壊696棟、流失1棟、一部破損669棟、床上浸水1060棟、床下浸水5431棟、非住家被害3382戸、山・崖崩れ5ヶ所、鉄軌道被害191ヶ所、通信施設被害857ヶ所、船舶沈没13隻、船舶流失13隻、船舶破損18隻。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表		
昭和	30	1955	4	14	4	18	大雨				前線停滞。建物被害5棟、床下浸水293棟。	大阪の気象百年	-	-	六甲山193.5 神戸113.6	顕著な前線を伴った低気圧が来襲、また前線が停滞したため、県内は降雨が続いて大雨となった。負傷者6名、床下浸水206棟、山・崖崩れ3ヶ所、鉄軌道被害1ヶ所。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表		
昭和	30	1955	6	18	6	19	大雨				梅雨前線。床下浸水1145棟、がけ崩れ2ヶ所。	大阪の気象百年							
昭和	30	1955	7	22	7	23	大雨				熱帯低気圧。床下浸水70棟。	大阪の気象百年							
昭和	30	1955	8	31			大雨				日本海低気圧、前線。床下浸水230棟。	大阪の気象百年							
昭和	30	1955	9	29	10	11	台風22号				床下浸水150棟。	大阪の気象百年							

開始日				終了日				大阪府				兵庫県								
和暦	年	西暦	月	日	月	日	日	気象概要	最大風速 (m/s)	最大瞬間 風速 (m/s)	雨量 (mm)	事象	出典	最大風速 (m/s)	最大瞬間 風速 (m/s)	雨量 (mm)	事象	出典		
昭和	30	1955	10	19	10	20	台風26号					死者1名、床下浸水55棟、がけ崩れ3ヶ所、船舶被害3隻。	大阪の気象百年				灘61.4	近畿地方は強風が吹き荒れたが、県内の降雨はそれほど多くなかった。家屋の一部破損2棟、船舶破損1隻、通信施設被害3ヶ所。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表	
昭和	31	1956	2	27			強風					発達した低気圧が太平洋岸を通過。架線切れにより国・私鉄混乱。船舶被害1隻。	大阪の気象百年							
昭和	31	1956	3	18	3	19	大雨					低気圧が太平洋岸を通過。床下浸水650棟。	大阪の気象百年							
昭和	31	1956	6	7			大雨					梅雨前線。大阪市、堺市で床下浸水550棟。	大阪の気象百年							
昭和	31	1956	6	11	6	12	大雨					梅雨前線。低気圧。床下浸水2430棟。	大阪の気象百年							
昭和	31	1956	6	23			強風					日本海低気圧。船舶沈没1隻。	大阪の気象百年							
昭和	31	1956	7	23			大雨					寒冷前線通過。大阪の最大1時間降水量32.4mm。落雷により国・私鉄混乱。建物被害1棟、床下浸水1649棟。	大阪の気象百年							
昭和	31	1956	8	16	8	19	台風9号					死者1名、負傷者1名、建物被害7棟、床上浸水21棟、床下浸水109棟、船舶被害2隻。	大阪の気象百年	神戸19.6				暴風半徑が狭かったのが特徴。降雨は比較的少なかったが、県中部の中国山地沿いや北部では50～100mmと多くなった。負傷者3名、家屋の半壊1棟、床下浸水27棟、非住家被害77戸、鉄軌道被害4ヶ所、通信施設被害364回線、船舶沈没2隻。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表	
昭和	31	1956	9	7	9	10	台風12号						山・がけ崩れ1ヶ所、鉄軌道被害1ヶ所、通信施設被害41回線。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表						
昭和	31	1956	9	25	9	27	台風15号	106				台風自体の雨の他に寒冷前線の活動による降雨が重なり、最大雨量は石川流域で250mm、大和川上流域で210mm。三郷町で堤防が決壊、初瀬川流域では大三輪町、大西領芝西地区で堤防が決壊、葛城川流域で広陵町藤之森、御所市南部で柳田川が決壊し、大きな被害が発生。この洪水により大和川流域全体では建物被害が12435戸、浸水被害が1038ha。大阪府と奈良県を合わせて死者・行方不明者4名、家屋全・半壊18棟、床上浸水700棟、床下浸水11717棟。大阪府のみでは死者・行方不明者2名、家屋全・半壊1棟、床上浸水141棟、床下浸水8075棟。	河川整備基本方針 (大和川水系)	神戸16.8 神戸23.8	神戸161.8 大甲山188.6 灘292.4	各地で大雨。特に淡路島が多く、総降水量が300mm前後。死者1名、行方不明者1人、家屋の全壊2棟、半壊3棟、一部破損2棟、床下浸水427棟、非住家被害8棟、山・崖崩れ15ヶ所、鉄軌道被害1ヶ所、通信施設被害338回線。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表			
昭和	31	1956	10	30	10	31	大雨					前線停滞。床下浸水300棟。	大阪の気象百年	神戸16.8 神戸23.8				兵庫県では100mm内外の降水、淡路島では150mmを超えた。県南部の沿岸沿いは、15m/s前後の強風。住家全壊1棟。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表	
昭和	32	1957	4	19	4	21	大雨													
昭和	32	1957	6	27	6	28	台風5号	14.4	22.8	293.0		東大阪水害(6月水害)。雨量300mmの集中豪雨。生駒山系、枚岡市の山崩れにより水源産地の崩壊、溪流の荒廃。死者6名、負傷者4名、家屋全半壊流失20棟、床上・床下浸水121819棟。	大阪府地域防災計画 関連資料集	大甲山296.3 神戸207.3 西宮206.4 有野201.5 灘200.0	県内全般に総雨量が100mmを超える降雨。特に大甲山周辺では200mmを超える大雨。死者3名、負傷者2名、家屋の全壊1棟、流失1棟、半壊10棟、床上浸水867棟、床下浸水12800棟、非住家被害21戸、山・崖崩れ34ヶ所、鉄軌道被害8ヶ所、通信施設被害984回線。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表				
昭和	32	1957	7	10			大雨					梅雨前線。大阪府を中心に被害。落雷により私鉄混乱。建物全半壊7棟、床上浸水938棟、床下浸水24096棟。	大阪の気象百年							
昭和	32	1957	7	12			大雨					梅雨前線。床上浸水42棟、床下浸水2878棟。	大阪の気象百年							
昭和	32	1957	7	16	7	17	大雨					梅雨前線。大阪の最大1時間降水量60.0mm。床上浸水866棟、床下浸水23687棟、停電約50000世帯。	大阪の気象百年							
昭和	32	1957	7	28			大雨					前線。鉄道一時不通。停電。床下浸水900棟。	大阪の気象百年							
昭和	32	1957	8	12			大雨					床上浸水15棟、床下浸水745棟。	大阪の気象百年							
昭和	32	1957	9	7			台風10号					床上浸水1棟、床下浸水568棟。	大阪の気象百年	神戸15.5				床上浸水50棟、床下浸水956棟、非住家被害1棟、崖崩れ3ヶ所、通信施設被害175回線。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表	
昭和	32	1957	9	9	9	11	大雨					前線停滞。床上浸水15棟、床下浸水745棟。	大阪の気象百年							
昭和	33	1958	4	21	4	23	大雨					前線停滞。床上浸水16棟、床下浸水3146棟。	大阪の気象百年					前線。家屋の全壊2棟、山・崖崩れ5ヶ所、港湾関係被害1ヶ所。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表	
昭和	33	1958	7	23	7	27	大雨											前線。県北部の所々で雷を伴った局地的な大雨となった。床下浸水90棟、山・崖崩れ1ヶ所。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表	

開始日				終了日				大阪府				兵庫県								
和暦	年	西暦	月	日	月	日	日	気象概要	最大風速 (m/s)	最大瞬間 風速 (m/s)	雨量 (mm)	事象	出典	最大風速 (m/s)	最大瞬間 風速 (m/s)	雨量 (mm)	事象	出典		
昭和	33	1958	8	24	8	26	台風17号					負傷10名、建物全半壊81棟、床上浸水9棟、床下浸水798棟、床下浸水19ヶ所。 がけ崩れ19ヶ所。	大阪の気象百年				神戸70.9 六甲山 139.5 西宮77.4	負傷者3名、家屋の全壊2棟、半壊10棟、一部破損6棟、床上浸水30棟、床下浸水308棟、非住家被害9棟、山・崖崩れ1ヶ所、通信施設被害84回線、船舶沈没1隻。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表	
昭和	33	1958	8	27	8	28	大雨					寒冷前線通過。府北部に強雷雨。建物全半壊2棟、床上浸水279棟、床下浸水1541棟。	大阪の気象百年				伊丹土木 出張所 183.1 伊丹 150.7	降雨の中心となった伊丹市付近では約4時間に150mm前後の強雨。宝塚・伊丹・尼崎で屋根傾斜2棟、床上浸水186棟、床下浸水2350棟、山・崖崩れ4ヶ所などの被害。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表	
昭和	33	1958	9	15	9	18	台風21号											死者1名、負傷者2名、床下浸水8棟、非住家被害9棟、通信施設被害5回線。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表	
昭和	33	1958	9	26	9	28	狩野川台風											県北部に100mmを越す雨を降らせただけで、影響は少。床上浸水2棟、床下浸水3棟、非住家被害1棟、山・崖崩れ2ヶ所、通信施設被害12回線。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表	
昭和	33	1958	10	15			大雨					前線通過。床下浸水3795棟。	大阪の気象百年							
昭和	34	1959	7	13	7	15	台風5号					大阪の日降水量134.2mm。建物被害2棟、床上浸水282棟、床下浸水26147棟。	大阪の気象百年					神戸 114.5 西宮 114.3 灘91.5	関東地方以西の各地で大雨。県内では淡路島や南東部で100mmを越す大雨。行方不明者1名、床上浸水57棟、床下浸水9903棟、非住家被害3棟、山・崖崩れ20ヶ所、鉄軌道被害2ヶ所。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	34	1959	8	13	8	14	台風7号				199	台風7号と前線。死者2名、建物被害6棟、床上浸水887棟、床下浸水11711棟。	大阪の気象百年					神戸 181.2 西宮 256.7 六甲山 226.5	床上浸水470棟、床下浸水4461棟、山・崖崩れ4ヶ所、通信施設被害800回線。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	34	1959	9	15	9	18	台風14号 (宮古島台風)											死者1名、負傷者2名、家屋の一部破損2棟、床下浸水41棟、非住家被害7棟、鉄軌道被害1ヶ所、通信施設被害4回線。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表	
昭和	34	1959	9	26	9	27	伊勢湾台風					台風15号。死者1名、負傷者14名、建物被害482棟、床上浸水19棟、床下浸水1062棟、がけ崩れ8ヶ所、船舶被害20隻。	大阪の気象百年				神戸84.7 灘218.8 六甲山 166.0	県内の降雨状況は、県北部と淡路島南部では全般に200mm以上、県北部の一部では300mmに達した。この雨で円山川支流の奈佐川の堤防が決壊・氾濫し、豊岡市内の約60%が浸水。死者19名、負傷者242名、住家の全壊66棟、全壊1棟、流失44棟、半壊189棟、半壊1棟、一部損壊941棟、床上浸水8654棟、床下浸水17634棟、非住家被害536棟、山・崖崩れ372ヶ所、港湾被害34ヶ所、漁港被害52ヶ所、鉄軌道被害22ヶ所、通信施設被害1728回線、船舶破損64隻、木材流失270。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表	
昭和	34	1959	11	2			大雨					日本海低気圧、寒冷前線通過。大阪の最大1時間降水量38.5mm。死者1名、床上浸水43棟、床下浸水4672棟。	大阪の気象百年							
昭和	35	1960	4	19	4	20	大雨					低気圧が瀬戸内を東進。陸海空の交通混乱。建物被害4棟、汽船大破1隻。	大阪の気象百年							
昭和	35	1960	5	18	5	19	大雨					南岸低気圧。床上浸水10棟、床下浸水2593棟。	大阪の気象百年				神戸 136.3 六甲山 190.5 西宮 113.2 有野87.0	低気圧と前線の影響により、神戸市付近から大阪府中部を結ぶ地域に大雨。家屋の全壊1棟、床上浸水25棟、床下浸水1156棟、山・崖崩れ9ヶ所、船舶沈没1隻。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表	
昭和	35	1960	5	27			大雨					二つ玉低気圧。床下浸水30棟。	大阪の気象百年							
昭和	35	1960	6	21	6	22	豪雨					梅雨前線、日本海低気圧。建物被害7棟、床下浸水566棟、山崩れ1ヶ所。	大阪の気象百年							
昭和	35	1960	7	7	7	8	大雨					梅雨前線。床下浸水200棟。	大阪の気象百年							
昭和	35	1960	7	15	7	16	大雨													
昭和	35	1960	8	10	8	12	台風11号													

開始日				終了日				大阪府				兵庫県							
和暦	年	西暦	月	日	月	日	日	気象概要	最大風速 (m/s)	最大瞬間 風速 (m/s)	雨量 (mm)	事象	出典	最大風速 (m/s)	最大瞬間 風速 (m/s)	雨量 (mm)	事象	出典	
昭和	35	1960	8	12	8	13	台風12号					床上浸水168棟、床下浸水18658棟。	大阪の気象百年				神戸 149.0 六甲山 193.4 灘182.2	台風は勢力が比較的弱かったため風の影響は微弱だったが、雨は台風が瀬戸内海に接近した12日を中心に強まった。北陸付近に達した13日には温帯低気圧化したため、この低気圧から南西に延びる寒冷前線により、13日から14日にかけて局地的な雷雨が発生、菅住地方で強雨となった。家屋の全壊1棟、半壊3棟、床上浸水86棟、床下浸水3037棟、山・崖崩れ12ヶ所、船舶沈没1隻、小型船舶被害2隻、通信施設被害103回線。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	35	1960	8	28	8	30	台風16号					死者3名、負傷者3名、建物被害58棟、床上浸水478棟、床下浸水8934棟、がけ崩れ101ヶ所、船舶被害1隻。	大阪の気象百年				神戸 166.3 六甲山 425.9 有野 425.5	28日から台風による影響が始め、台風の通過した29日は風雨ともに強まった。揖保川が氾濫してかなりの水害が発生。神戸港の最高潮位(IP上)は169cm、最大偏差108cm。死者32名、負傷者65名、家屋の全壊65棟、流失44棟、半壊233棟、床上浸水3898棟、床下浸水15488棟、非住家被害689戸、山・崖崩れ261ヶ所、鉄軌道被害31ヶ所、通信施設被害1737回線、船舶沈没12隻、船舶流失5隻、船舶破損14隻、木材流失40。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	35	1960	10	6	10	7	豪雨										神戸43.0	前線と低気圧。但馬地方を中心に100mmを超える大雨。円山川やその支流では増水により仮橋数ヶ所が流失、城崎町では県道冠水。美方郡浜坂町では溜池の堤防が一部決壊。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	36	1961	5	28	5	29	台風4号					建物全壊2棟、床上浸水2棟、床下浸水57棟。	大阪の気象百年	神戸16.3	神戸24.8		床下浸水20棟、船舶の沈没3隻、破損1隻。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表	
昭和	36	1961	6	24	6	30	豪雨	9.8	12.0	296	死者1名、家屋の全壊・流失11棟、床上浸水2855棟、床下浸水32205棟。	大阪府地域防災計画 関連資料集				神戸 512.7	兵庫県では25日から27日にかけて3回にわたる集中豪雨があり、神戸市を中心に県南部に大きな被害をもたらした。神戸市内では所々で崖崩れを誘発し、多数の犠牲者を出した。また、短時間による急激な増水により、小河川、支流、溜池等が決壊・溢水。神戸市では宇治川の溢水では生田区(現在は中央区)元町付近一帯が水浸しとなった。また、加古川水系・霊川・別府川の溢水により加古川市内及び南部一帯が浸水。死者41名、負傷者119名、家屋の全壊204棟、流失14棟、半壊496棟、床上浸水8973棟、床下浸水61588棟、非住家被害703戸。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表	
昭和	36	1961	7	9	7	10	大雨					寒冷前線通過。十三で強風により煙突倒壊。落雷により国・私鉄混雑、東大阪一体で停電。6/24~7/10の全国にわたる大雨を「昭和36年梅雨前線豪雨」と名付けた。	大阪の気象百年						
昭和	36	1961	7	25			大雨					日本海低気圧。床上浸水5棟、床下浸水25棟。	大阪の気象百年						
昭和	36	1961	9	15	9	17	第2室戸台風	33.3	50.6	44	死者32名、負傷者2392名、家屋の全壊・流失3386棟、半壊21356棟、床上浸水61488棟、床下浸水59729棟。	大阪府地域防災計画 関連資料集		神戸27.0	神戸39.2	神戸 136.0	県内の被害は淡路島を含む県南部では高潮によるもの、県北部では円山川をはじめ、中小河川の氾濫による水害が大きかった。淡路島では高潮及び7~8mに達する高波により海岸防波堤の損壊は激しかったが、阪神間の防波堤はその機能を発揮し、高潮による浸水面積は室戸、ジェーン台風に比べて非常に小さかった。死者10名、負傷者134名、家屋の全壊434棟、流失63棟、半壊1805棟、床上浸水8973棟、床下浸水36944棟、非住家被害4658戸、港湾91ヶ所、海岸189ヶ所、砂防98ヶ所。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表	
昭和	36	1961	10				大雨					寒冷前線通過。府下10万戸停電。床上浸水282棟、床下浸水1025棟、通信回線被害55000回線。	大阪の気象百年						
昭和	36	1961	10	6	10	7	大雨										灘137 神戸81.2	台風第23号くずれの低気圧。淡路島では大雨、洲本市内外で約130戸が床下浸水。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	36	1961	10	26	10	28	大雨			151		低気圧が瀬戸内を通過。建物全半壊2棟、床上浸水187棟、床下浸水5923棟、がけ崩れ12ヶ所。	大阪の気象百年				神戸 123.2 灘215 六甲山 176 有野160	大雨で淡路島の洲本市の一部で約100戸が床下浸水、島内の数ヶ所が山・崖崩れが発生したが、いずれも軽微。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	37	1962	4	2	4	3	大雨										神戸44.6 六甲山82	低気圧。県西部の山間地帯から脊梁山脈に降雨多く、生野付近では総降水量は100mm。床下浸水60棟、山・崖崩れ1ヶ所、鉄軌道被害1ヶ所、海上交通障害。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	37	1962	6	6	6	7	大雨					梅雨前線。床下浸水150棟。	大阪の気象百年						
昭和	37	1962	6	8	6	11	大雨										神戸 148.0 灘229	梅雨前線。加古川上流部を中心に堤防の決壊、溢水による被害が頻出。淡路島の三原川水系、武庫川水系、明石川水系や円山川水系の上流部でも水害が発生。死者2名、負傷者1名、家屋の全壊2棟、半壊6棟、流失1棟、一部破損9棟、床上浸水336棟、床下浸水5070棟、山・崖崩れ110ヶ所、船舶流失2隻、鉄軌道被害9ヶ所、通信施設被害2302回線。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	37	1962	6	9	6	10	大雨					梅雨前線。死者1名、建物被害1棟、床下浸水1169棟。	大阪の気象百年						

開始日				終了日				大阪府				兵庫県							
和暦	年	西暦	月	日	月	日	日	気象概要	最大風速 (m/s)	最大瞬間 風速 (m/s)	雨量 (mm)	事象	出典	最大風速 (m/s)	最大瞬間 風速 (m/s)	雨量 (mm)	事象	出典	
昭和	37	1962	6	12	6	15	大雨					梅雨前線。死者1名、負傷者5名、建物被害4棟、床上浸水30棟、床下浸水649棟、がけ崩れ14ヶ所。	大阪の気象百年				神戸 125.3 六甲山 164	梅雨前線。死者1名、家屋の一部損壊4棟、床上浸水1棟、床下浸水1069棟、山・崖崩れ32ヶ所、通信施設被害1回線。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	37	1962	6	24	6	25	大雨					梅雨前線。死者1名、負傷者15名、建物被害34棟、床下浸水11棟、船舶被害16隻、鉄軌道被害11ヶ所、停電30万戸。				六甲山72 神戸55.5 西宮55	梅雨前線に伴う低気圧。県内各地で50mm程度の降雨。床下浸水30棟、山・がけ崩れ5ヶ所、鉄軌道被害1ヶ所、通信施設被害1回線。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表	
昭和	37	1962	6	26			大雨					梅雨前線。床下浸水50棟。	大阪の気象百年						
昭和	37	1962	7	1	7	6	大雨						大阪の気象百年				六甲山 248 神戸 167.1 西宮154	梅雨前線。死者3名、負傷者2名、家屋の全壊3棟、半壊5棟、一部破損3棟、床上浸水2棟、床下浸水177棟、山・崖崩れ22ヶ所、船舶沈没1隻。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	37	1962	7	4	7	6	大雨					梅雨前線。建物全壊6棟、床上浸水30棟、床下浸水649棟、がけ崩れ10ヶ所。	大阪の気象百年						
昭和	37	1962	7	26	7	27	台風7号					死者1名、負傷者15名、建物被害34棟、床下浸水11棟、船舶被害16隻、鉄軌道被害11ヶ所、停電30万戸。	大阪の気象百年						
昭和	37	1962	10	14			大雨					寒冷前線通過。床下浸水600棟、通信施設被害1300回線。	大阪の気象百年						
昭和	38	1963	5	8	5	30	大雨						大阪の気象百年				神戸 311.9	梅雨期の様相を呈してきて、5月中は大雨。負傷者6名、家屋の全壊4棟、半壊1棟、一部破損4棟、床上浸水2棟、床下浸水123棟、非住家被害1棟、山・崖崩れ25ヶ所。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	38	1963	5	14	5	15	大雨					日本海低気圧、寒冷前線。床下浸水1574棟、鉄軌道被害1ヶ所。	大阪の気象百年						
昭和	38	1963	5	16	5	17	大雨					梅雨前線。床下浸水177棟、船舶事故1件。	大阪の気象百年						
昭和	38	1963	5	21	5	22	大雨					梅雨前線。床下浸水534棟、船舶事故1件(沈没)。	大阪の気象百年						
昭和	38	1963	5	27	5	28	大雨					梅雨前線。床下浸水1124棟、通信回線不通3000回線。	大阪の気象百年						
昭和	38	1963	6	2	6	6	台風2号					床下浸水1448棟、山崩れ1ヶ所。	大阪の気象百年				神戸72.3 六甲山 127	県南部地方の水・多可・神崎郡、西宮市一帯で局地的豪雨、加古川、市川、夢前川の中・上流で氾濫し、大きな被害が発生。死者3名、負傷者18名、家屋の全壊12棟、半壊33棟、流失11棟、一部破損262棟、床上浸水2456棟、床下浸水8625棟、非住家被害318棟、山・崖崩れ141ヶ所、鉄軌道被害12ヶ所、通信施設被害71回線、木材流失71、ろ・かい等による舟の被害3隻。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	38	1963	6	13	6	14	台風3号					負傷1名、住家全半壊1棟。	大阪の気象百年				神戸30.8 六甲山73	山・崖崩れ2ヶ所、船舶沈没6隻。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	38	1963	7	10	7	11	大雨						大阪の気象百年				神戸41.4	梅雨前線が西日本に停滞、前線を低気圧が東進してきたため大雨となった。県中部の岸田川、矢田川の上流地帯で強く降り、強雨域が次第に南下して県中部の山岳地帯に移動、揖保川上流の安積付近で強雨を降らせながら停滞。別の西から移動してきた強雨域が県内に入り、千種町などで強雨を降らせ、別の北から南下してきた強雨域と合体してさらに強雨を降らせながら東へと移動。県内各地で山崩れや河川の氾濫による被害が発生。死者4名、家屋の全壊3棟、半壊31棟、流失9棟、一部破損25棟、床上浸水524棟、床下浸水926棟、非住家被害40棟、山・崖崩れ44ヶ所、鉄軌道被害2ヶ所、通信施設被害24回線、木材流失220、船舶沈没2隻、流失1隻、ろかい等による舟の被害6隻。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	38	1963	8	7	8	11	台風9号						大阪の気象百年				六甲山 218 神戸76.8 名塩 120.5	脊梁山脈以南で降雨。死者2名、床上浸水1棟、床下浸水5棟、非住家被害1戸、山・崖崩れ5ヶ所、通信施設被害2回線。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	38	1963	8	16	8	17	大雨					寒冷前線。床下浸水325棟。	大阪の気象百年						
昭和	38	1963	8	25			大雨					寒冷前線。大阪の1時間降水量41.0mm。大阪市、布施市などで大規模な停電。床上浸水86棟、床下浸水2698棟。	大阪の気象百年						
昭和	38	1963	8	30	8	31	大雨					日本海低気圧。電線切断により9万戸停電。船舶沈没2隻。	大阪の気象百年						
昭和	39	1964	6	19	6	20	大雨					梅雨前線、日本海低気圧。建物被害2棟、床下浸水79棟、がけ崩れ3ヶ所、通信施設被害6000回線。	大阪の気象百年						
昭和	39	1964	6	25	6	27	大雨					梅雨前線。床上浸水3棟、床下浸水1760棟。	大阪の気象百年						
昭和	39	1964	7	14	7	16	昭和39年7月山陰 北陸豪雨						大阪の気象百年					梅雨前線が山陰沿岸に停滞して活動が活発化したため、県北部で大雨。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表



開始日				終了日				大阪府				兵庫県										
和暦	年	西暦	月	日	和暦	年	西暦	月	日	気象概要	気象値	最大瞬間風速 (m/s)	雨量 (mm)	事象	出典	気象値	最大瞬間風速 (m/s)	雨量 (mm)	事象	出典		
昭和	39	1964	8	24	台風14号					陸上・海上・航空交通混乱。床上浸水23棟。					この台風は勢力が比較的弱く、風は10～15m/s程度、降雨も県中部の山岳地帯が150～170mmで他の山間部や県南西部では100mm内外、海岸地帯に向かうにつれて少なくなり、瀬戸内地帯では20mm以下であった。負傷者4名、家屋の全壊1棟、半壊4棟、床上浸水37棟、床上浸水800棟、非住家被害9戸、海岸2ヶ所、砂防21ヶ所、港湾19ヶ所、漁港4ヶ所。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表					この台風は勢力が比較的弱く、風は10～15m/s程度、降雨も県中部の山岳地帯が150～170mmで他の山間部や県南西部では100mm内外、海岸地帯に向かうにつれて少なくなり、瀬戸内地帯では20mm以下であった。負傷者4名、家屋の全壊1棟、半壊4棟、床上浸水37棟、床上浸水800棟、非住家被害9戸、海岸2ヶ所、砂防21ヶ所、港湾19ヶ所、漁港4ヶ所。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	39	1964	9	24	台風20号	19.0	31.7	41	負傷者17名、家屋全壊・流失104棟、半壊15棟、床上・床下浸水10563棟。	大阪府地域防災計画 関連資料集				高潮は満潮時よりも前に起こったが、台風中心の気圧と経路の割に強い高潮が起こり、神戸港周辺の市街地はかなりの浸水や船舶の転覆、突堤、防潮堤の破損等があった。死者8名、負傷者86名、家屋の全壊243棟、流失52棟、半壊770棟、床上浸水6423棟、床上浸水16762棟、非住家被害2635戸、海岸27ヶ所、砂防124箇所、港湾139ヶ所。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表	神戸26.8	神戸41.3	神戸69.2	高潮は満潮時よりも前に起こったが、台風中心の気圧と経路の割に強い高潮が起こり、神戸港周辺の市街地はかなりの浸水や船舶の転覆、突堤、防潮堤の破損等があった。死者8名、負傷者86名、家屋の全壊243棟、流失52棟、半壊770棟、床上浸水6423棟、床上浸水16762棟、非住家被害2635戸、海岸27ヶ所、砂防124箇所、港湾139ヶ所。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表		
昭和	40	1965	5	2	大雨									低気圧。県南部は暴風。神戸では死者1名、芦屋・神戸では非住家倒壊2棟、三原郡では山・崖崩れ1ヶ所が発生。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表	神戸21.3	神戸32.6	神戸51.2	低気圧。県南部は暴風。神戸では死者1名、芦屋・神戸では非住家倒壊2棟、三原郡では山・崖崩れ1ヶ所が発生。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表		
昭和	40	1965	5	26	台風6号				死者2名、負傷者2名、床上浸水182棟、床上浸水13134棟、がけ崩れ14ヶ所、通信施設被害4回線。	大阪の気象百年				家屋の半壊2棟、床上浸水382棟、床上浸水5476棟、山・崖崩れ71ヶ所、鉄道被害5ヶ所、通信施設被害198ヶ所。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表			173.6	家屋の半壊2棟、床上浸水382棟、床上浸水5476棟、山・崖崩れ71ヶ所、鉄道被害5ヶ所、通信施設被害198ヶ所。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表		
昭和	40	1965	6	19	大雨				梅雨前線。建物被害2棟、床上浸水79棟、がけ崩れ3ヶ所。	大阪の気象百年				台風第9号から変わった温帯低気圧が停滞していた梅雨前線を刺激。県南部では10m/sを越す強風、県中部地方では100～150mmの大雨。山・崖崩れ6ヶ所、通信施設被害3ヶ所。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表	神戸11.8	神戸19.6	神戸62.8	台風第9号から変わった温帯低気圧が停滞していた梅雨前線を刺激。県南部では10m/sを越す強風、県中部地方では100～150mmの大雨。山・崖崩れ6ヶ所、通信施設被害3ヶ所。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表		
昭和	40	1965	7	20	大雨									梅雨前線。県北・西部の山間部では200mm以上の降水量を観測。岸田川、市川、千草川、揖保川等が増水、流域で水害が発生。姫路市内の一部でも浸水。家屋の全壊1棟、半壊2棟、一部損壊8棟、床上浸水15棟、床上浸水943棟、山・崖崩れ38ヶ所、鉄道被害1ヶ所、船舶破損1隻。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表	神戸71.3			梅雨前線。県北・西部の山間部では200mm以上の降水量を観測。岸田川、市川、千草川、揖保川等が増水、流域で水害が発生。姫路市内の一部でも浸水。家屋の全壊1棟、半壊2棟、一部損壊8棟、床上浸水15棟、床上浸水943棟、山・崖崩れ38ヶ所、鉄道被害1ヶ所、船舶破損1隻。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表		
昭和	40	1965	9	9	台風23号				死者1名、負傷者24名、建物全壊15棟、半壊28棟、床上浸水230棟、床上浸水566棟、建物一部破損137棟、非住家被害414棟、鉄道被害5ヶ所、通信施設被害1487回線、船舶沈没1隻。	大阪の気象百年				死者1名、負傷者24名、建物全壊15棟、半壊28棟、床上浸水230棟、床上浸水566棟、建物一部破損137棟、非住家被害414棟、鉄道被害5ヶ所、通信施設被害1487回線、船舶沈没1隻。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表	神戸30.0	神戸48.5	神戸55.4	死者1名、負傷者24名、建物全壊15棟、半壊28棟、床上浸水230棟、床上浸水566棟、建物一部破損137棟、非住家被害414棟、鉄道被害5ヶ所、通信施設被害1487回線、船舶沈没1隻。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表		
昭和	40	1965	9	18	台風24号				死者3名、行方不明1人、負傷者16名、建物全壊13棟、半壊34棟、流失1棟、床上浸水436棟、床上浸水12009棟、建物一部破損165棟、非住家被害99棟、がけ崩れ194ヶ所、鉄道被害3ヶ所、通信施設被害1929回線、木材流失180m。	大阪の気象百年				死者3名、行方不明1人、負傷者16名、建物全壊13棟、半壊34棟、流失1棟、床上浸水436棟、床上浸水12009棟、建物一部破損165棟、非住家被害99棟、がけ崩れ194ヶ所、鉄道被害3ヶ所、通信施設被害1929回線、木材流失180m。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表	神戸24.0	神戸40.0	418.6	死者3名、行方不明1人、負傷者16名、建物全壊13棟、半壊34棟、流失1棟、床上浸水436棟、床上浸水12009棟、建物一部破損165棟、非住家被害99棟、がけ崩れ194ヶ所、鉄道被害3ヶ所、通信施設被害1929回線、木材流失180m。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表		
昭和	40	1965	11	9	異常潮位				床上浸水270棟、国鉄桜島線一時不通。	大阪の気象百年												
昭和	41	1966	6	9	大雨									低気圧。県南では20m/sを超える暴風、海上は時化となり、内海航路が欠航。淡路島南部では崖崩れ(2ヶ所)等の被害有り。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表			六甲山74	低気圧。県南では20m/sを超える暴風、海上は時化となり、内海航路が欠航。淡路島南部では崖崩れ(2ヶ所)等の被害有り。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表		
昭和	41	1966	6	27	台風4号									超大型台風が本州南方から関東沖に進み、関東・東北地方に記録的な大雨を降らせ、大きな被害を出したが、県内でも淡路島の南部で若干の被害(護岸の破損2ヶ所、土砂崩れ10ヶ所)有り。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表			神戸27.9	超大型台風が本州南方から関東沖に進み、関東・東北地方に記録的な大雨を降らせ、大きな被害を出したが、県内でも淡路島の南部で若干の被害(護岸の破損2ヶ所、土砂崩れ10ヶ所)有り。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表		
昭和	41	1966	6	30	大雨				梅雨前線。床上浸水3600棟、床上浸水30000棟、非住家被害13棟、がけ崩れ43ヶ所、鉄道被害3ヶ所。	大阪の気象百年												
昭和	41	1966	7	1	豪雨																	
昭和	41	1966	7	7	大雨				梅雨前線。道路浸水、堤防決壊、陸空の交通混乱。床上浸水3000棟、床上浸水4400棟。	大阪の気象百年												
昭和	41	1966	8	13	異常潮位				床上浸水、突堤水没、電車線路水没。	大阪の気象百年												
昭和	41	1966	8	14	台風13号																	
昭和	41	1966	8	23	台風15号																	
昭和	41	1966	9	16	大雨				南岸低気圧と前線。水田冠水、道路損壊、山くずれ発生。床上浸水22000棟。	大阪の気象百年												
昭和	41	1966	9	17	大雨																	
昭和	41	1966	9	21	大雨																	
昭和	41	1966	9	22	大雨																	
昭和	41	1966	9	23	台風24号																	
昭和	41	1966	9	25	台風24号																	



開始日				終了日				大阪府				兵庫県						
和暦	年	西暦	月	日	月	日	日	気象概要	最大風速 (m/s)	最大瞬間風速 (m/s)	雨量 (mm)	事象	出典	最大風速 (m/s)	最大瞬間風速 (m/s)	雨量 (mm)	事象	出典
昭和	45	1970	1	30	1	31	大雨							神戸17.0		灘112	低気圧が小型台風並みに発達。淡路島や東北地方では100mmを超える1月としては記録的な大雨。東北地方では、この大雨により融雪が起こり、各河川は洪水状態となって警戒水位を突破したところも出た。淡路島と東北地方では、低地の浸水や山山川下流部での道路冠水の被害が出た。山・崖崩れ6ヶ所、船舶沈没2隻。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	45	1970	6	14	6	16	大雨									神戸112.0	熱帯低気圧から変わった低気圧、梅雨前線。県内陸部で強雨となり総雨量が300mmに達して、県下各地で浸水や山・崖崩れ等の被害が発生。家屋の全壊2棟、半壊2棟、一部破損1棟、床上浸水20棟、床下浸水535棟、山・崖崩れ22ヶ所。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	45	1970	7	4	7	6	台風2号					負傷者13名、建物全壊1棟、床下浸水23棟。	大阪の気象百年	神戸23.3	神戸34.0	六甲山143 有野100 神戸86.0	六甲山周辺で強雨、阪神地区の一部で浸水などの被害が発生。家屋全壊1棟、半壊1棟、床上浸水15棟、床下浸水145棟、山・崖崩れ9ヶ所。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	45	1970	8	14	8	15	台風9号										県南西部で局地的に200mm以上の大雨、浸水被害発生。負傷者7名、家屋全壊1棟、半壊48棟、一部破損15棟、床上浸水102棟、床下浸水5209棟、山・崖崩れ20ヶ所。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	45	1970	8	18	8	18	大雨										寒冷前線。特に洲本市では8時40分から10時30分にかけて強い雷雨。床上浸水2棟、床下浸水784棟、山・崖崩れ3ヶ所、電話不通49回線。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	45	1970	8	20	8	22	台風10号										県南西部で100～200mmの降雨、西播地方に被害が発生。負傷者10名、家屋全壊5棟、半壊21棟、一部損壊84棟、床上浸水147棟、床下浸水1236棟、山・崖崩れ61ヶ所、鉄軌道被害1ヶ所、通信施設被害645回線。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	46	1971	5	27	5	27	大雨									六甲山101 神戸50.5	気圧の谷の接近で前線の活動が活発となって大雨。神戸市内で4ヶ所の山・崖崩れが発生。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	46	1971	7	18	7	18	昭和46年7月豪雨										上空に強い寒気が流れ込んで大気の状態が非常に不安定となり、関東から近畿、中国地方にかけての広い範囲で雷が発生。相生市周辺では4時間に150～200mmの強い雨。死者22名、負傷者100名、家屋全壊11棟、半壊16棟、床上浸水712棟、床下浸水6532棟、山・崖崩れ39ヶ所、鉄軌道被害1ヶ所。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	46	1971	7	23	7	26	大雨										梅雨前線、低気圧。県中部、県北部で雷を伴った強雨。県内の被害は西播地方と但馬地方。死者2名、家屋の全壊2棟、破損2棟、床下浸水185棟、山・崖崩れ9ヶ所。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	46	1971	8	5	8	6	台風19号										強風により県北部で建設中の工場が倒壊して死者1名。洲本市由良町では高波が押し寄せ、25戸の床下浸水や道路、護岸損壊等の被害が発生。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	46	1971	8	28	9	1	台風23号					負傷者1名、がけ崩れ2ヶ所。	大阪の気象百年	神戸19.5	神戸29.1	神戸136.5	総降水量は台風の中心が通過した淡路島南部で300mm、県中・北部の山間部で200mm、その他の地方でも100～150mmの大雨となった。淡路島南部では、三原川支流の大日川が決壊、床下浸水や耕地冠水の被害が出た。負傷者1名、家屋の半壊1棟、一部破損2棟、床上浸水37棟、床下浸水1996棟、山・崖崩れ41ヶ所。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	46	1971	9	2	9	5	異常潮位					大阪市此花区で下水道より海水が逆流し、浸水被害。国鉄桜島線一時不通。	大阪の気象百年				4日から8日の満潮時には、尼崎市の西宮市、神戸市、洲本市の海岸地帯の一部で床上浸水延べ22戸、床下浸水延べ1000戸となった。県内では、床上浸水329世帯、床下浸水4751世帯。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	46	1971	9	5	9	7	豪雨										秋雨前線。県北部の出石川が決壊。小河川の溢水などにより耕地920haが冠水、土砂崩れによる山陰本線の不通被害が発生。宝塚市、尼崎市方面では、局地的に降った大雨により720戸が浸水。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	46	1971	9	26	9	27	台風29号					東大阪市、大東市、八尾市などに浸水被害。床上浸水52棟、床下浸水1153棟。	大阪の気象百年				梅雨前線、低気圧。県南東部と淡路島では1時間に50～70mmの豪雨、各地で被害が発生。死者9名、負傷者9名、家屋全壊3棟、半壊7棟、流失1棟、一部損壊3棟、床上浸水44棟、床下浸水2264棟、山・崖崩れ61ヶ所、鉄軌道被害8ヶ所。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	47	1972	6	7	6	9	大雨					日本海低気圧。大阪市大淀区、此花区、東淀川区で浸水被害。	大阪の気象百年				兵庫県で総降水量は、県中部で400mmを超え、北部は300mm、南東部で250mmとなり、各地で被害が発生。家屋の全壊4棟、半壊12棟、一部損壊8棟、床上浸水50棟、床下浸水2102棟、山・崖崩れ207ヶ所、鉄軌道被害5ヶ所、通信施設被害242回線。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	47	1972	7	3	7	13	昭和47年7月豪雨				300	西日本被害大。梅雨前線の活動。負傷者10名、家屋全壊・流出23棟、半壊42棟、床上浸水6186棟、床下浸水40346棟。	大阪府地域防災計画 関連資料集					神戸地方気象台兵庫 県災害年表

開始日				終了日				大阪府				兵庫県							
和暦	年	西暦	月	日	月	日	日	気象概要	最大風速 (m/s)	最大瞬間 風速 (m/s)	雨量 (mm)	事象	出典	最大風速 (m/s)	最大瞬間 風速 (m/s)	雨量 (mm)	事象	出典	
昭和	47	1972	7	23	7	29	異常潮位										台風7号と9号の通過後、急激に潮位が上昇、異常潮を記録。最近5ヶ年の平均潮位を基準とした偏差は、大阪湾と瀬戸内海沿岸で30～40cm。洲本市由良町の一部では満潮時に海水が排水溝から逆流、床下浸水の被害が発生、多い日には100戸内外に達した。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表	
昭和	47	1972	7	27			異常潮位					国鉄桜島線24本運転休止。	大阪の気象百年						神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	47	1972	8	7	8	12	異常潮位												神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	47	1972	8	20	8	22	大雨							神戸	137.0		神戸市東区では雷雨により400戸が床下浸水、送電線に落雷し2500戸が停電。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表	
昭和	47	1972	9	8	9	9	大雨							神戸	91.5		雷を伴った強い雨が降り、淡路島で150～200mm、その他の地域で100～150mmの大雨。家屋の半壊2棟、床上浸水9棟、床下浸水526棟、山・崖崩れ7ヶ所。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表	
昭和	47																		
昭和	47	1972	9	13	9	20	台風20号			118		死者3名、負傷者9名、家屋全壊・流出8棟、半壊90棟、床上浸水9283棟、床下浸水60146棟。	大阪府地域防災計画 関連資料集	神戸	34.7	41.4	中山208 三川山 201 神戸114	16日屋頂から風雨が強まり、県南西部では降水量は50mm程度と少なかつたものの、そのほかの地方では100～200mmで、なかでも豊岡市では180mmの大雨で円山川は警戒水位を超え、円山川に流れ込む支流が溢水し、豊岡市、城崎町では広範囲にわたって浸水。行方不明者5名、負傷者5名、家屋の流失1棟、一部破損7棟、床上浸水197棟、床下浸水1143棟、山・崖崩れ21ヶ所、鉄軌道被害2ヶ所、船舶沈没・流失11隻。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	48	1973	5	1	5	2	大雨					日本海低気圧。床上浸水67棟、床下浸水2528棟。	大阪の気象百年						神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	48	1973	7	2			大雨							有野	22		低気圧。県下全域で雷発し、局地的に強い雨が降った。特に赤穂市内で浸水、山・崖崩れ等の被害が発生。床上浸水10棟、床下浸水636棟、山・崖崩れ2ヶ所。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表	
昭和	48	1973	10	13			大雨					寒冷前線。床下浸水430棟。	大阪の気象百年						神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	49	1974	4	7	4	9	大雨					前線停滞。阪和線一時不通。床下浸水390棟。	大阪の気象百年						神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	49	1974	6	17	6	18	大雨												神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	49	1974	6	21			大雨					二つ玉低気圧。大阪、守口、東大阪で浸水被害。床上浸水23棟、床下浸水666棟。	大阪の気象百年						神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	49	1974	7	3	7	11	台風8号												神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	49	1974	8	27	8	28	大雨							神戸	63.5		秋雨前線。前線に近い県南部で大雨、淡路島では100mmを超え、一宮町で崖崩れ1ヶ所の被害が発生。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表	
昭和	49	1974	9	1	9	2	台風16号							神戸	15.3	21.5	淡路島南部の沿岸では南寄りの強風の影響で潮位が30～60cm上昇、満潮時には洲本市由良町で床下浸水65棟の被害。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表	
昭和	49	1974	9	8	9	9	台風18号					貝塚市、泉佐野市で浸水被害。床下浸水10棟。	大阪の気象百年						神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	50	1975	3	20			大雨												神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	50	1975	6	25			大雨					梅雨前線。東大阪市で床下浸水200棟。	大阪の気象百年						神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	50	1975	7	3	7	4	7月豪雨					梅雨前線による大雨。床上浸水1933棟、床下浸水22493棟。	大阪府地域防災計画 関連資料集	六甲山 116 神戸 88.0 名塩 115 名塩 57			低気圧に伴う強い雨雲が六甲山系付近で停滞、阪神地域では7時間100～150mmという大雨。西宮・尼崎市を中心に浸水被害。床上浸水277棟、床下浸水3651棟、山・崖崩れ3ヶ所。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表	
昭和	50	1975	7	7			大雨							神戸	50.0		低気圧。西脇市の一部で水害が発生。負傷者1名、床上浸水171棟、山・崖崩れ8ヶ所。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表	
昭和	50	1975	8	6	8	7	大雨					寒冷前線。床上浸水135棟、床下浸水2479棟、がけ崩れ2ヶ所。	大阪の気象百年					神戸地方気象台兵庫 県災害年表	

開始日				終了日				大阪府				兵庫県							
和暦	年	西暦	月	日	月	日	日	気象概要	最大風速 (m/s)	最大瞬間 風速 (m/s)	雨量 (mm)	事象	出典	最大風速 (m/s)	最大瞬間 風速 (m/s)	雨量 (mm)	事象	出典	
昭和	50	1975	8	21	8	24	台風6号					負傷者2名、床上浸水182棟、床下浸水3777棟、非住家被害3棟、がけ崩れ2ヶ所、鉄軌道被害1ヶ所、通信施設被害1ヶ所。	大阪の気象百年	神戸16.1	神戸23.8	神戸118.5 六甲山129	淡路島東部と阪神地域で風雨による被害が発生。台風上陸直後に大阪湾一帯に高潮、淡路島を中心に床上浸水等の被害。家屋の半壊1棟、床上浸水82棟、床下浸水1841棟、山・崖崩れ6ヶ所。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表	
昭和	50	1975	9	23	9	23	大雨					梅雨前線。死者1名、床上浸水42棟、床下浸水2009棟、がけ崩れ9ヶ所、鉄軌道被害3ヶ所。	大阪の気象百年			神戸65.0 名塩58 六甲山101	県中部・南部で強い雷雨。水上郡と阪神地域では1時間に40～70mmの激しい雨。柏原町、西紀町(現篠山市)、伊丹・宝塚・明石・尼崎市の一部で浸水。床上浸水4棟、床下浸水230棟、山・崖崩れ1ヶ所。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表	
昭和	50	1975	11	6	11	7	大雨					梅雨前線。死者1名、床上浸水9棟、床下浸水500棟。	大阪の気象百年			神戸55.0	低気圧。県南部、淡路島で100mm前後の大雨、淡路島南部で被害が発生。床下浸水38棟、農業被害101ha。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表	
昭和	51	1976	6	8	6	11	大雨					国鉄・地下鉄一時不通。大東市で停電2600戸、床下浸水770棟。	大阪の気象百年						
昭和	51	1976	7	19	7	21	台風9号					停電700戸。床上浸水9棟、床下浸水500棟。	大阪の気象百年			灘201	淡路島南部で集中豪雨、水害が発生。家屋半壊1棟、床上浸水12棟、床下浸水780棟、山・崖崩れ3ヶ所。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表	
昭和	51	1976	7	26	7	28	大雨					停電で、国・私鉄及び地下鉄一時不通。大阪府北東部で降雹。死者1名、負傷者1名、床上浸水5棟、床下浸水1150棟。	大阪の気象百年						
昭和	51	1976	9	8	9	17	台風17号					死者1名、建物全壊1棟、半壊1棟、床上浸水22棟、床下浸水3893棟、建物一部破壊5棟、がけ崩れ31ヶ所、鉄軌道被害3ヶ所。	大阪の気象百年			神戸206.0 六甲山217 名塩282	期間の総降水量は、県中部と南西部で50mm以上、家島では100mm以上という記録的な量に達し、大きな災害が発生。死者16名、行方不明者3名、負傷者41名、家屋の全壊124棟、半壊252棟、一部破壊73棟、床上浸水17042棟、床下浸水57412棟、山・崖崩れ769ヶ所、鉄軌道被害9ヶ所、通信施設被害1回線、木材流失1。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表	
昭和	52	1977	7	16	7	16	大雨					床上浸水6棟、床下浸水171棟。	大阪の気象百年			神戸34.0	西脇市、多可郡中・黒田庄町で強い雷雨が発生、落雷・浸水被害が発生。床下浸水421棟、山・崖崩れ14ヶ所。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表	
昭和	52	1977	7	17	7	17	大雨												
昭和	52	1977	9	7	9	8	大雨												
昭和	52	1977	11	16	11	17	大雨							神戸12.8	神戸20.3	神戸96.5	前線活動が活発化、県内全域で雷を伴う大雨。淡路島西岸地域では集中豪雨、総降水量が250mmを超えて水害が発生。床下浸水216棟、山・崖崩れ6ヶ所。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表	
昭和	53	1978	6	16	6	16	大雨												
昭和	53	1978	6	22	6	23	大雨					梅雨前線。行方不明1名、負傷者23名、床上浸水1棟、床下浸水536棟、がけ崩れ7ヶ所。	大阪の気象百年			六甲山106 神戸85.5 名塩76	低気圧、梅雨前線。神戸市押部で局地的に集中豪雨、1名死亡、3名が負傷。23日には六甲山系で5ヶ所の山・崖崩れが発生。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表	
昭和	53	1978	7	10	7	10	大雨					国・私鉄のダイヤ乱れ、大阪の1時間降水量65mmは解説以来の記録。床下浸水827棟。	大阪の気象百年						
昭和	53	1978	8	2	8	3	台風8号												
昭和	53	1978	9	15	9	16	台風18号												
昭和	53	1978	9	29	9	29	大雨												
昭和	54	1979	5	7	5	8	豪雨					瀬戸内低気圧。床下浸水1688棟。	大阪の気象百年						
昭和	54	1979	5	26	5	26	大雨					日本海低気圧。停電1万戸、私鉄ダイヤ乱れ、大阪空港49便欠航。死者1名、負傷者1名。	大阪の気象百年						
昭和	54	1979	6	26	7	2	6月豪雨	497				梅雨前線による大雨。家屋全壊・流出3棟、半壊1棟、床上浸水1336棟、床下浸水22865棟。	大阪府地域防災計画 関連資料集			神戸208.5	梅雨前線。雨の降り初めから29日までの雨量は、佐用178mm、洲本と福崎173mm、一宮で169mmに達し、干種川では堤防がえぐられ始めため、付近住民に避難命令が出された。家屋半壊1棟、床下浸水91棟、山・崖崩れ11ヶ所。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表	
昭和	54	1979	9	24	10	2	台風16号												
昭和	54	1979	9	26	9	26	大雨					前線。床下浸水7202棟。	大阪の気象百年						
昭和	54	1979	9	30	10	1	台風16号	149				死者1名、負傷者5名、家屋半壊19世帯、床上浸水5088棟、床下浸水41489棟。	大阪府地域防災計画 関連資料集						

開始日				大阪府				兵庫県							
和暦	年	西暦	日	終了日	気象概要	最大風速 (m/s)	最大瞬間風速 (m/s)	雨量 (mm)	事象	出典	最大風速 (m/s)	最大瞬間風速 (m/s)	雨量 (mm)	事象	出典
昭和	54	1979	10 14	10 20	台風20号				陸海空の交通混乱。公立学校、幼稚園では19日臨時休校。	大阪の気象百年	神戸16.2	神戸29.3		県北部と淡路島を中心に災害が発生。負傷者6名、家屋半壊19棟、床上浸水263棟、床下浸水1146棟、山・崖崩れ20ヶ所。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	55	1980	2 1		強風				冬型。泉大津市沖で砕石運搬船転覆して死者3名。	大阪の気象百年				県北部から西部にかけて100mmを超える大雨、赤穂・龍野市・温泉・関宮・香住町などで被害が発生。床下浸水8棟、山・崖崩れ3ヶ所。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	55	1980	5 21		台風3号					大阪の気象百年					
昭和	55	1980	6 1	6 3	豪雨				南海高野線一時不通、大阪市淀川区と堺市で降雹、大きなもの直径3cm。床上浸水27棟、床下浸水624棟、がけ崩れ1ヶ所。	大阪の気象百年					
昭和	55	1980	7 23	7 24	豪雨								神戸49.0	積乱雲が発生。豪雨、突風、落雷。西播磨地方では雷を伴った風雨、姫路市で道路の冠水、落雷による停電があった。川西市では40戸の床下浸水。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	55	1980	8 7		豪雨								三田15	積乱雲が発生。西宮市を中心とした狭い範囲で集中豪雨。床上浸水60棟、床下浸水2371棟。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	55	1980	8 29	8 31	大雨								神戸145.5 名塩142	前線、温帯低気圧。県南西部を中心に被害が発生。姫路・明石市などでは、天川の堤防決壊のおそれが生じたため、自衛隊の派遣が要請された。床上浸水15棟、床下浸水1369棟、山・崖崩れ18ヶ所、鉄軌道被害2ヶ所。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	55	1980	8 31		大雨				前線。道路冠水2ヶ所。床上浸水4棟、床下浸水377棟。	大阪の気象百年					
昭和	55	1980	9 11		台風13号						三田17			兵庫県では強風による倒木や看板・トタン板等が飛散、人的被害が発生。淡路島を中心に県南部では高潮により海水が逆流、床上浸水有り。死者1名、負傷者12名、家屋半壊3棟、一部損壊119棟、床上浸水8棟、床下浸水441棟、山・崖崩れ11ヶ所。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	55	1980	10 13	10 14	台風19号						神戸12.4	神戸24.0		県北部で60mm、淡路島では100mmの雨量、淡路島を中心に土木施設、農林水産施設に被害有り。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	55	1980	10 25	10 27	強風・高潮									台風並みの勢力の低気圧。強風と大潮により異常に海面が盛り上がり上がった。豊岡市、淡路島などで浸水、釣り人が防波堤などに取り残される事故が相次いだ。床上浸水4棟、床下浸水265棟。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	56	1981	6 22	6 23	大雨								六甲山81 名塩62	台風第5号から変わった熱帯低気圧。六甲山周辺で50mmを超える雨、山・崖崩れが発生。床下浸水1棟、山・崖崩れ3ヶ所。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	56	1981	6 25	6 28	大雨									梅雨前線。雷を伴った強い雨が県南部を中心に降り、土砂災害が発生。姫路市では天川の増水によって浸水。床下浸水42棟。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	56	1981	7 1	7 3	大雨									梅雨前線。佐用町で雹じりの強い雨・落雷で民家1戸が焼け、約5000戸が停電。県北部や南西部では3日間の降水量が100mmを超え、山・崖崩れなどの被害、河川が増水。加西市では溜め池の堤防が決壊、付近の民家が浸水。床下浸水7棟、山・崖崩れ6ヶ所。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	56	1981	9 3	9 4	大雨						神戸12.3		名塩65	台風第18号から変わった温帯低気圧。突風を伴った強い雨が降り、六甲山でキャンピングをしていた小学生が避難。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	56	1981	10 7	10 9	大雨				変電所27ヶ所に落雷・停電405000戸、私鉄の交通一時乱れる。床上浸水53棟、床下浸水1924棟、がけ崩れ2ヶ所。	大阪の気象百年			低気圧。激しい雷雨で、総雨量が100mmに達したところもあった。尼崎市などで浸水、道路等に被害があった。床上浸水16棟、床下浸水236棟。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表	
昭和	57	1982	7 9		大雨								三田52 名塩6	積乱雲が発生。兵庫県一宮町、三田市で降雹があり農作物に被害。雷を伴った強雨により、三田・宝塚市で溜め池や用水路に被害。床下浸水48棟。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	57	1982	7 24	7 25	昭和57年7月豪雨								名塩116 神戸68.5 六甲山127	梅雨前線。県南部地方で総降水量が100mmを超えたところが有り。山・崖崩れ2ヶ所。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	57	1982	7 30		大雨								六甲山61 神戸4.5 名塩8	低気圧に伴う前線。六甲山付近で激しい強雨。宝塚市と伊丹市で浸水被害、崖崩れにより阪急電車に支障が出た。床上浸水2棟、床下浸水5棟。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	57	1982	8 1	8 3	台風10号	13.4		209	台風とその後の低気圧による大雨。死者8名、負傷者4名、家屋全壊・流出70世帯、半壊一部破損含み99世帯、床上浸水10610棟、床下浸水63460棟。	大阪府地域防災計画 関連資料集	神戸19.3	神戸29.2	強い風を伴った強雨により、降水量が多い所で150mmを超え、河川は増水、浸水や土砂災害が発生。死者2名、負傷者4名、家屋全壊1棟、半壊1棟、一部損壊5棟、床上浸水36棟、床下浸水526棟、山・崖崩れ36ヶ所、鉄軌道被害2ヶ所。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表	
昭和	57	1982	8 7	8 8	大雨								名塩145	大気の状態が不安定で、京阪神から西播磨地方にかけて激しい雷雨。浸水被害や落雷による停電事故が多発した。家屋全壊1棟、床上浸水456棟、床下浸水4676棟、山・崖崩れ3ヶ所、鉄軌道被害1ヶ所。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表

兵庫県															
大坂府					兵庫県										
和暦	年	西暦	開始日		終了日	気象概要	気象値			出典					
			日	月			日	月	日		最大風速 (m/s)	最大瞬間 風速 (m/s)	雨量(mm)		
							事象		事象						
昭和	57	1982	9	24	9	25	台風19号				神戸18.5	神戸32.2	神戸	淡路島や県南西部の沿岸地域から山間部で風雨が強まる。県西部や島諸部では強風と塩害により農作物の被害が大きかった。負傷者3名、家屋一部破損1棟、床上浸水10棟、山・崖崩れ3ヶ所、鉄道被害1ヶ所。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	58	1983	6	20	6	21	大雨						神戸 111.5	低気圧、梅雨前線。県南部で浸水、田畑の冠水、護岸崩壊などの被害。床上浸水4棟、非住家被害2棟、山・崖崩れ10ヶ所。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	58	1983	7	20	7	21	大雨							低気圧、梅雨前線。県中部を中心に大雨が降り、河川や道路等に被害が発生。山・崖崩れ5ヶ所。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	58	1983	8	16	8	17	台風5号					神戸33.4	神戸94.0	県南東部で50～100mmの大雨。神戸市内のホテル2棟が浸水、淡路島では農業用施設に被害。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	58	1983	9	7	9	8	大雨					神戸17.2		寒冷前線の通過により、県南部で強い雷雨が発生。神戸市西区からは強い雨によって住家の浸水被害が発生。各所で落雷による停電が相次いだ。床上浸水15棟、床上浸水320棟、非住家被害33棟。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	58	1983	9	24	9	30	台風10号				神戸19.1	神戸30.0	神戸 269.0 名塩347	台風と前線による大雨で、県内では河川の氾濫、山・崖崩れ等の災害が多く発生。死者13名、負傷者16名、家屋全壊11棟、半壊45棟、一部破損21棟、床上浸水1783棟、床上浸水10792棟、非住家被害8棟、病院施設被害1ヶ所。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	59	1984	6	7	6	8	大雨				神戸11.0		神戸 105.5 名塩112	寒冷前線。県南部で所々で100mmを超える大雨。淡路島では山・崖崩れや浸水被害が発生、定期航路一時欠航。床上浸水1棟、山・崖崩れ1ヶ所。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	59	1984	6	25	6	27	大雨						六甲山 116 生野116 三木109	梅雨前線。県南部で100mmを越す大雨、住家、公共土木施設、農林水産施設などに被害が発生。住家一部破損1棟、床上浸水1棟、床上浸水75棟、非住家被害1棟、山・崖崩れ33ヶ所。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	59	1984	7	25	7	26	大雨							大気の状態が不安定となり、県南西部では雷を伴う大雨。家島群島や沿岸部、姫路市などで浸水被害、加古川市では工場に被害が発生。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	60	1985	6	18	6	6	台風6号				神戸12.2	神戸22.9		梅雨前線、台風5号から変わった低気圧と台風6号。県南西部を中心に大雨。負傷者1名、家屋一部損壊1棟、床上浸水84棟、非住家被害1棟、山・崖崩れ10ヶ所。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	60	1985	8	12			大雨					神戸20.5		県南部でまとまった雨が降り、局地的な大雨によって淡路島で被害が発生。床上浸水110棟、床上浸水1452棟。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	61	1986	7	9	7	13	大雨							梅雨前線。局地的に雷を伴った大雨。家屋一部破損2棟、床上浸水14棟。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	61	1986	7	20	7	23	大雨						羽束川 195	梅雨前線、低気圧。局地的な大雨。家屋一部破損1棟、床上浸水8棟、床上浸水387棟、非住家被害9棟。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	62	1987	6	8	6	9	大雨							低気圧、梅雨前線。土木関係や農林関係に被害。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	62	1987	7	12	7	21	大雨						六甲山 243 名塩217 神戸 154.0	梅雨前線。床上浸水1棟、床上浸水38棟、非住家被害2棟。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	62	1987	9	10	9	13	豪雨							秋雨前線。床上浸水7棟。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	62	1987	9	24	9	25	大雨							低気圧。淡路島で局地的に大雨。床上浸水45棟。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	62	1987	10	13	10	18	台風19号				神戸19.1	神戸33.5		県内各地で浸水や冠水被害が発生、大鳴門橋も一時通行止め。負傷者2名、住宅一部破損6棟、床上浸水167棟、床上浸水3377棟、非住家被害3633棟。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	63	1988	6	3			豪雨						神戸 191.5	低気圧。淡路島で200mm越、南東部で150～200mmの大雨。死者2名、家屋全壊2棟、半壊5棟、床上浸水3棟、床上浸水197棟、山・崖崩れ101ヶ所。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	63	1988	7	13	7	15	豪雨							梅雨前線。県北部や南西部を中心に大雨。床上浸水4棟。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	63	1988	7	20			豪雨							梅雨前線。雷を伴った強雨。床上浸水21棟。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	63	1988	7	23	7	25	大雨							梅雨前線。県南西部で100mmを超える大雨、浸水被害等が発生。家屋全壊1棟、床上浸水2棟、床上浸水143棟。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
昭和	63	1988	8	19	8	20	大雨						神戸87.0	大気の状態が不安定で、県南東部を中心に雷を伴った強雨により浸水などの被害が発生。床上浸水18棟、床上浸水75棟。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表





開始日				終了日				大阪府				兵庫県			
和暦	年	西暦	月	日	和暦	年	西暦	月	日	気象概要	最大風速 (m/s)	最大瞬間風速 (m/s)	雨量 (mm)	事象	出典
平成	5	1993	7	27	7	28	台風5号							県南西部を中心に大雨。兵庫県千種町で鉄砲水が発生、姫路市打越の市道脇で崖崩れ(幅約10m、長さ約10m)等の被害。床下浸水12棟、非住家損壊1棟、山・崖崩れ2ヶ所。	神戸地方気象台兵庫県災害年表
平成	5	1993	7	29	7	30	台風6号							台風による強風で淡路島・阪神間の航路が一部欠航。雨により三原郡南淡町で県道沿いの斜面が崩れ落ち、通行不能。	神戸地方気象台兵庫県災害年表
平成	5	1993	8	9	8	11	台風7号							東寄りの風が強まり、内海の航路がほとんど欠航。三原朝南淡町では県道沿いの斜面で土砂崩れが発生。	神戸地方気象台兵庫県災害年表
平成	5	1993	8	31	9	5	台風13号							暴風による看板等の飛散、倒木、これらによる電線切断により神戸・加古川市、淡路島などの12市16町の約2万世帯で停電が発生。局地的な豪雨となった県中・西部では、兵庫・佐用郡などで民家に浸水被害。神戸港では高潮が発生。負傷者1名、家屋半壊・破損3棟、床下浸水53棟、山・崖崩れ14ヶ所。	神戸地方気象台兵庫県災害年表
平成	6	1994	7	7			大雨							落雷や強雨のため、列車の運休や停電(御津町、姫路市)、浸水(西脇市)などの被害が発生。床上浸水1棟、床下浸水50棟。	神戸地方気象台兵庫県災害年表
平成	6	1994	9	6	9	7	9月豪雨							兵庫県から大阪府にかけての地域で局地的に激しい雷雨。雨は6日深夜から7日早朝までの長時間にわたり、伊丹市、川西市、尼崎市で床上・床下浸水が発生。床上浸水1331棟、床下浸水2831棟。	神戸地方気象台兵庫県災害年表
平成	6	1994	9	28	9	30	台風26号							県北部で大雨。城崎郡城崎町上山で円山川が氾濫し浸水。豊岡市、日高・浜坂町でも浸水被害。神戸市と淡路島では倒木や街灯の倒壊などで約1500世帯で停電。床上浸水3棟、床下浸水156棟。	神戸地方気象台兵庫県災害年表
平成	7	1995	5	11	5	12	大雨							大気の状態が不安定で100mmを超える大雨。県南部を中心に浸水、山・崖崩れ、道路損壊などの被害が発生。また、1月17日に発生した兵庫県南部地震で倒壊したビルの東海、土砂崩れが続き、被災住民が避難を余儀なくされるなど、二次災害が発生。	神戸地方気象台兵庫県災害年表
平成	7	1995	7	3	7	6	大雨	101						梅雨前線。県南部で大雨。震災で地盤が緩んだ地域を中心に山・崖崩れが相次いだ。津名郡津名町の県道で亀裂が入り、通行止め。西播地方を中心として、各河川が警戒水位を超えた。山・崖崩れ9ヶ所、道路損壊2ヶ所。	神戸地方気象台兵庫県災害年表
平成	8	1996	6	25	6	26	大雨							梅雨前線。県北部から県南部で強雨。温泉町で岸田川の増水により道路に損壊、神戸市灘区で住宅地の斜面が崩れて住民が避難。香住町、神戸市北区で崖崩れが発生。浜坂町三谷と同町居組で国道178号が冠水して通行止め。	神戸地方気象台兵庫県災害年表
平成	8	1996	8	10	8	16	台風12号							県南部では暴風雨。高潮と降雨によって浸水の被害が発生。負傷者9名、家屋破損9棟、床上浸水6棟、床下浸水397棟、農業被害5942ha。	神戸地方気象台兵庫県災害年表
平成	8	1996	8	26	8	28	大雨							前線、低気圧により、県南東部を中心に大雨。多紀郡(現徳山市)、加東郡、西脇市の県南東部の山間部に災害発生が集中。負傷者3名、家屋全壊5棟、損壊4棟、床上浸水28棟、床下浸水449棟、山・崖崩れ43ヶ所。	神戸地方気象台兵庫県災害年表
平成	9	1997	6	27	6	29	台風8号							県北部を中心に1時間20～30mmの強雨。負傷者6名、家屋全壊1棟、破損1棟、床下浸水12棟、山・崖崩れ8ヶ所。	神戸地方気象台兵庫県災害年表
平成	9	1997	7	12	7	13	豪雨							前線。県北部各地で100mm前後の強雨。県南部では芦屋と六甲山で1時間に50mmを超える激しい雨。宝塚市で崖崩れが発生。その他、浸水、山・崖崩れの被害が多数。死者4名、家屋全壊3棟、床下浸水169棟、山・崖崩れ21ヶ所。	神戸地方気象台兵庫県災害年表
平成	9	1997	7	17			大雨							梅雨前線。県北部で日降水量100～150mmの大雨、村岡・浜坂町では山・崖崩れが発生。	神戸地方気象台兵庫県災害年表
平成	9	1997	7	25	7	31	台風9号							県南西部や山間部で200mmを超える大雨、強風や突風による家屋の損壊、姫路市を中心として浸水被害も多数。負傷者19名、家屋の損壊5棟、床上浸水17棟、床下浸水337棟、山・崖崩れ17ヶ所。	神戸地方気象台兵庫県災害年表
平成	9	1997	8	5			豪雨							停滞前線。局地的に100mmを超える大雨となったところがあつた。死者1名、家屋の一部破損1棟、床下浸水30棟、非住家被害2棟、山・崖崩れ4ヶ所。	神戸地方気象台兵庫県災害年表
平成	9	1997	8	7			豪雨							前線付近の県南東部の六甲山とその他の北側などで局地的に50～100mmの大雨。家屋一部破損3棟、床上浸水63棟、床下浸水299棟、非住家被害63棟、山・崖崩れ3ヶ所。	神戸地方気象台兵庫県災害年表

		開始日				終了日				大阪府				兵庫県							
和暦	年	西暦	月	日	和暦	年	西暦	月	日	気象概要	最大風速 (m/s)	最大瞬間 風速 (m/s)	雨量 (mm)	事象	出典	最大風速 (m/s)	最大瞬間 風速 (m/s)	雨量 (mm)	事象	出典	
平成	9	1997	9	6	9	7	1997	9	7	豪雨								神戸52.0	前線を伴った低気圧により大雨。淡路島で局地的な豪雨、南淡町で浸水や土砂災害が発生。床上浸水30棟、床上浸水57棟、山・崖崩れ1ヶ所。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表	
平成	9	1997	9	12	9	20	1997	9	20	台風19号						神戸13.0	神戸104.5 名塩121 芦屋104	県南東部の沿岸部や淡路島で1時間以上60mm以上の激しい雨となり、浸水被害、土砂災害が発生。負傷者2名、床上浸水9棟、床上浸水196棟、非住家被害13棟、山・崖崩れ4ヶ所。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表		
平成	9	1997	11	26			1997	11	26	大雨							名塩140	前線付近で大雨。床上浸水1棟、床上浸水7棟。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表		
平成	10	1998	5	16	5	17	1998	5	17	大雨							名塩96	淡路島を中心に大雨、床上浸水2棟、山・崖崩れ2ヶ所。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表		
平成	10	1998	7	28	7	29	1998	7	29	大雨									県内各地で雷雲が発生。県北部地方を中心に所々で雷を伴った強雨。被害のほとんどが県北地方。浸水は八鹿・関宮町、山・崖崩れは八鹿・日高・佐用・関宮・三日月町・田畑流失・埋没は八鹿・関宮町等。家屋全壊1棟、床上・床上浸水54棟、山・崖崩れ21ヶ所。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表	
平成	10	1998	8	25			1998	8	25	大雨							名塩34	石市から淡路島の北西岸の地域にかけて活発な雷雲が発生。短時間強雨による浸水、冠水被害が目立ち、そのほとんどが淡路島と神戸市西部から明石市にかけての地域に集中。床上浸水10棟、床上浸水3棟、山・崖崩れ2ヶ所。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表		
平成	10	1998	9	22			1998	9	22	台風7号							六甲山175 神戸122.0	県南東部や淡路島を中心に1時間以上40mm以上の激しい雨。神戸市や西宮市で家屋などの浸水や、飛来物や転倒による負傷者が出た。負傷者5名、床上浸水461棟、床上浸水266棟、山・崖崩れ9ヶ所、鉄軌道被害1ヶ所。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表		
平成	10	1998	9	24	9	25	1998	9	25	大雨									前線の影響で淡路島や県南東部、県北部で強い雨。土砂災害、浸水被害など個々の規模は小さかったものの、県内全域に被害が広がり、数では北部が多かった。床上浸水3棟、床上浸水81棟、山・崖崩れ18ヶ所。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表	
平成	10	1998	10	13	10	20	1998	10	20	台風10号						神戸20.0	神戸41.6	前線が停滞して降雨が続いていたところへ台風の強い雨が加わったため、土砂災害、浸水被害などの大雨災害が発生。西宮市では台風による高潮の浸水(床上76戸、床上64戸)、山間部や県北部でも浸水被害が発生。明石市では強風により鉄道の衝突が倒壊して住宅全壊。負傷者5名、家屋全壊1棟、損壊3棟、床上浸水83棟、床上浸水226棟、山・崖崩れ60ヶ所。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表		
平成	11	1999	6	29	6	30	1999	6	30	豪雨							名塩231 神戸186.5 芦屋199	梅雨前線の活動が活発化し大雨。淡路島や県南東部を中心に浸水被害。神戸市兵庫区では新湊川の溢水による家屋浸水、六甲山系周辺の神戸・西宮・宝塚市などでは土砂災害による住宅の被害が発生。負傷者1名、家屋全壊6棟、破損12棟、床上浸水356棟、床上浸水830棟、山・崖崩れ151ヶ所、鉄軌道被害1ヶ所、農業被害35ha。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表		
平成	11	1999	8	9	8	11	1999	8	11	豪雨			133	熱帯性低気圧。堺市や松原市で内水によって浸水被害が発生。大和川流域全体での被害は、家屋全・半壊2棟、床上浸水33棟、床上浸水400棟。大阪府のみでは床上浸水10棟、床上浸水189棟。	河川整備基本方針 (大和川水系)						
平成	11	1999	9	6	9	8	1999	9	8	大雨								六甲山70	大気の状態が不安定となり、加古川水系の上・中流部の水上郡、多可郡付近で局地的な豪雨。柏原川の堤防決壊や河川の溢水により、浸水被害が発生。床上浸水71棟、床上浸水402棟、山・崖崩れ1ヶ所、道路冠水6ヶ所。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表	
平成	11	1999	9	13	9	16	1999	9	16	台風16号									赤穂市、佐用町、篠山市、西脇市で浸水等の被害が発生。負傷者1名、床上浸水2棟、床上浸水54棟、山・崖崩れ1ヶ所。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表	
平成	11	1999	9	21	9	22	1999	9	22	豪雨									前線。県北部を中心に大雨。豊岡市内で山・崖崩れが1ヶ所が発生。豊岡市・城崎町で道路冠水8ヶ所。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表	
平成	12	2000	7	4			2000	7	4	集中豪雨				奈良県北部を中心に集中豪雨。佐保川流域を中心に降雨。大和川流域平均累加雨量は24mm。この豪雨により、6観測所で指定水位を上回り、番桑、王寺、藤井の3観測所で警戒水位を上回り、佐保川においては水防警報を発令。	大和川の洪水・過去の の水害						
平成	12	2000	8	11			2000	8	11	大雨											
平成	12	2000	9	11	9	12	2000	9	12	東海豪雨				滝雨雨量観測所において累加雨量206mmを記録、藤井水位観測所(王寺町)で警戒水位(6m)を超える6.01mを記録、その他7つの観測所で指定水位を超えた。	大和川の洪水・過去の の水害						

開始日				大坂府				兵庫県							
和暦	年	西暦	日	終日	気象概要	最大風速 (m/s)	最大瞬間 風速 (m/s)	雨量 (mm)	事象	出典	最大風速 (m/s)	最大瞬間 風速 (m/s)	雨量 (mm)	事象	出典
平成	12	2000	10 9		大雨								神戸38.5 名塩79	前線を伴った低気圧が西日本を通過、県南部で局地的に1時間以上に50ミリ以上の激しい降雨。姫路市、西脇市を中心に浸水被害、神戸市や西脇市では土砂災害が発生。姫路市や西脇市では、落雷による負傷者や工場全壊等の被害もあった。負傷1名、床上浸水4棟、床下浸水142棟、非住家全壊1棟、山・崖崩れ6ヶ所。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
平成	13	2001	6 18	20	大雨									梅雨前線。県北部を中心に100mmを超える大雨。豊岡市内の県道脇で土砂崩れ、佐用郡上月町では国道横の谷川が増水して通行規制。揖保郡太子町の国道脇で幅12m、高さ10mにわたって山が崩れた。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
平成	13	2001	7 17		大雨									突風を伴った局地的な強い雷雨。神戸市西区と明石市で計4戸が床下浸水、西宮市沖の海上では二人乗りヨット3隻が強風にあおられて転覆。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
平成	13	2001	8 10		大雨									局地的に雷を伴って強い雨。JRが姫路と相生の間で約1時間運転を見合わせた。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
平成	13	2001	9 7		豪雨								神戸75.0	大気が不安定となり所々で100mm前後の大雨。洲本市小路谷では県道横の斜面がくずれ、津名郡一宮町山田では県道の路肩が崩落して通行止め。加古川市西神吉町で2戸が床下浸水、神戸市、姫路市、水上町で道路冠水。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
平成	13	2001	9 15		大雨									県北部や中部地方で局地的な強い雷雨を伴った大雨。姫路市内で床下浸水、道路陥没、道路冠水、三原郡南淡町、城崎郡竹野町で山・崖崩れが発生した。床下浸水21棟、山・崖崩れ3ヶ所。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
平成	14	2002	7 8	7	台風6号		神戸20.9				神戸12.2		神戸24.5	北部地域と南部の所々で大雨。豊岡市では、床下浸水1戸や山・崖崩れ、道路冠水の被害。但東町や神戸市須磨区でも山・崖崩れが発生。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
平成	14	2002	7 15	7	台風7号								神戸20.5	姫路市内では短時間に降った強雨により浸水被害が発生。床上浸水1棟、床下浸水15棟、非住家被害3件。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
平成	14	2002	9 6	9	大雨									県北部地方で雷を伴った大雨。豊岡市で21棟、大屋町で7棟の床下浸水。JR山陰線の八鹿・玄武洞間で強雨のため運転を見合わせた。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
平成	14	2002	9 12		大雨									局地的な大雨。西宮市内で夙川で釣り人が1名流されて死亡。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
平成	15	2003	4 8		大雨								名塩61.0 神戸38.5	神戸市東灘区住吉本町で押水した側溝に流されて1名負傷。神戸市垂水区舞子の山田川で護岸工事中の作業員が1名負傷。宝塚市向月町と平井でそれぞれ市道冠水、倉庫1ヶ所浸水。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
平成	15	2003	5 8		大雨						神戸14.3	神戸26.8	六甲山 67.0 神戸49.0	雷と強風を伴う強い雨。西宮市武庫川町小松南町で市道冠水、伊丹市北園で市道のり面が水流でぐらわれ空洞になる。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
平成	15	2003	7 11	7	大雨								六甲山 86.0	梅雨前線。三田市香下において、道路わきの斜面が幅約4mにわたって地すべりをおこし、それに伴い長さ7～8m直径30cmの木3本が道路を塞いだ(7/12)。姫路市東山、同飾磨区中嶋、同広畑夢前町で道路冠水。姫路市東山で土砂崩れ2ヶ所。高砂市阿弥陀町で民家裏山の崖が崩れ落ちた(7/13)。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
平成	15	2003	8 6	8	台風10号						神戸13.9			津名郡津名町、三原郡西淡町、津名郡一宮町で浸水、洲本市、赤穂郡上郡町で道路冠水や損壊等の被害。床上浸水52棟、床下浸水224棟、非住家被害6戸、山・崖崩れ16件、道路冠水5ヶ所。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
平成	16	2004	6 18	6	台風6号						神戸15.8	神戸31.4		台風直近のころから急速に風雨が強まった。負傷者4名、床上浸水4棟。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
平成	16	2004	7 31		台風							神戸24.8		航路に欠航が相次いだ。負傷者1名、住家一部破損2棟、床下浸水7棟。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
平成	16	2004	8 4		台風								神戸41.5	負傷者1名、住家半壊2棟、床下浸水1棟、山・崖崩れ3ヶ所、船舶被害2隻。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
平成	16	2004	8 17		台風									局地的な大雨。洲本市では1時間最大降水量が83.0mm。床上浸水11棟、床下浸水199棟、山・崖崩れ3ヶ所。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
平成	16	2004	8 20		台風									豊岡市津居山、瀬戸～城崎署管内で床下浸水30棟、津居山漁業協同組合東道路200m、県道香住久美浜線約350m、市道約350m冠水。人的被害は無し。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
平成	16	2004	8 30		台風									死者・行方不明者3名、負傷者57名、住家全壊4棟、半壊・半焼・一部破損2232棟、床上浸水387棟、床下浸水1290棟、山・崖崩れ1ヶ所。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
平成	16	2004	9 7		台風18号									強風による災害が発生。瀬戸内沿岸では、高潮による浸水被害が発生。負傷者97名、住家半壊・半焼・一部破損996棟、床上浸水51棟、床下浸水315棟、鉄軌道被害10ヶ所。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表

開始日				終了日				大阪府				兵庫県						
和暦	年	西暦	月	日	月	日	日	気象概要	最大風速 (m/s)	最大瞬間 風速 (m/s)	雨量 (mm)	事象	出典	最大風速 (m/s)	最大瞬間 風速 (m/s)	雨量 (mm)	事象	出典
平成	16	2004	9	24	9	30	台風21号							神戸11.2	神戸26.8		播磨西部、播磨北西部、播磨南東部、淡路島、但馬北部などにて記録的な大雨、津名郡一宮町では1時間に104mmを観測。瀬戸内を中心に、高潮と暴風。負傷者6名、住家全壊10棟、半壊・一部破損537棟、床上浸水561棟、床下浸水3393棟、山・崖崩れ22ヶ所、鉄軌道被害7ヶ所、農業被害214ha。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
平成	16	2004	10	17	10	21	台風23号								神戸41.5		台風と前線の影響による総降水量が洲本市で372mmを記録、各地で記録的な大雨となり、大きな災害が発生。死者・行方不明者26名、負傷者130名、住家全壊650棟、半壊・一部破損8130棟、床上浸水1674棟、床下浸水9531棟、山・崖崩れ16ヶ所、鉄軌道被害11ヶ所、冠水13ha。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
平成	16	2004	12	5			大雨										温帯低気圧の影響により各地で大雨。豊岡市野上の円山川右岸で点検中の宮島樋門導水管の水量調節用ゲートの代わりに積んでいた土塵が水流により崩落し、支流の金剛寺川へ水が逆流。床下浸水5棟、冠水77ha。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
平成	17	2005	9	5			台風										越波や倒木による道路通行止め等が発生。豊岡市では土砂崩れ1ヶ所。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
平成	18	2006	7	18	7	20	豪雨										梅雨前線が活発化して各地で強い雨。豊岡市、佐用町、新温泉町、宍粟市、養父市、たつの市、太子町、神河町、丹波市、西脇市、三木市、姫路市で浸水被害。負傷者1名、住家一部損壊2棟、床上浸水1棟、床下浸水47棟、山・崖崩れ32ヶ所、冠水2ha。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
平成	18	2006	8	22			豪雨										大気の状態が不安定となり、局地的に短時間に強い雨と雷が発生。尼崎市の戸ノ内地区、東園田地区、泉洲西通と伊丹市森本で床上浸水79棟、床下浸水354棟。道路冠水は、尼崎市7ヶ所、伊丹市2ヶ所。県道尼崎停車場西川線のJRアンダーで冠水により自動車3台が水没、通行止め。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
平成	18	2006	10	5	10	8	大雨										低気圧の影響で北部但馬地域を中心に強い雨。香美町香住区余部の町道余部御崎線と山の斜面が崩れた。香美町香住区大塚の県道三川下岡線と新温泉町多子の県道丸味竹田線で路肩崩壊により通行止め。朝来市遠阪峠の国道427号で斜面が崩れた。ハチ高原高丸山の中腹斜面が崩れた。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
平成	19	2007	7	13	7	15	台風										各地に強い風雨。淡路市で道路損壊、加西市で堤防決壊。山・崖崩れが神戸市、宝塚市、三木市、加西市、姫路市、たつの市、佐用町、宍粟市、加美町、淡路市で計12ヶ所発生。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
平成	19	2007	7	16			豪雨	90				大阪府南部から奈良県北部を中心に、低気圧と梅雨前線による局地的な大雨。大和川の藤井観測所で計画高水位を超えた。大和川流域では、床上浸水99棟、床下浸水1017棟の被害。大阪府の床上浸水2棟、床下浸水50棟。	河川整備基本方針 (大和川水系)					
平成	19	2007	8	19			大雨										上空の寒気と日射による熱雷により、播磨南西部や播磨灘などで大雨。クラ掛島近海で、雷雲からの突風により船が転覆。救助されたため人的被害は無し。姫路市で床上浸水1棟、床下浸水2棟。船舶被害4隻。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
平成	19	2007	8	23			豪雨							神戸11	神戸14.2		前線の影響で強風・強雨。宝塚市、西宮市、たつの市、香美町で床上浸水8棟、床下浸水22棟。尼崎市では強風による倒木や、鉄軌道の運休・遅延等。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
平成	19	2007	8	29			大雨										前線が西日本に停滞し、断続的に雨が降り続いた。豊岡市で道路損壊、JR山陰線で運休・遅延。山・崖崩れ1ヶ所。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
平成	20	2008	6	20	6	23	大雨										北部を中心に強い雨。JR山陰線に遅れ・運休の被害。香美町、養父市で土砂崩れが2ヶ所発生。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
平成	20	2008	7	8			大雨										南部を中心に一時雷を伴った激しい降雨。山陽新幹線やJR神戸線で遅れや運休が発生。明石市では床上浸水2棟、床下浸水12棟。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
平成	20	2008	7	15			大雨										北部の一部で激しい雨となり、一宮で最大1時間雨量46.0mm、大屋で39.5mmを観測、朝来市で住家床下浸水1戸の被害があった。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
平成	20	2008	7	28	7	29	大雨										雷を伴う強雨。三田では最大1時間降水量57mm、温泉で最大1時間降水量52.5mmを観測。三田市、播磨町、神戸市灘区で浸水被害。三木市、加東市で土砂崩れ。死者6名、負傷者5名、床下浸水5棟、非住家被害4棟、土砂崩れ3ヶ所。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
平成	20	2008	8	5			豪雨				西宮32.5						南部の一部で激しい雨。西宮市で床下浸水31棟。西宮市、尼崎市で道路冠水7ヶ所。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
平成	20	2008	9	2	9	3	大雨										局地的に雷を伴い激しい雨。福岡では1時間雨量56.5mm、家島では44.0mmを観測。姫路市や福岡市では床下浸水計13棟、福岡市では道路冠水1ヶ所。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
平成	20	2008	9	21			大雨										兵庫県南部の所々で大雨、強雨。洲本市、西脇市、南あわじ市で床下浸水計10棟、新温泉町で土砂崩れ1ヶ所。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表

開始日				大坂府				兵庫県					
和暦	年	西暦	日	終了日	気象概要	気象値		事象	出典	気象値		事象	出典
						最大風速 (m/s)	最大瞬間 風速 (m/s)			雨量 (mm)	最大風速 (m/s)		
平成	21	2009	7	19	大雨							兵庫県南西部をはじめとする南部の沿岸部で床上浸水4棟、 床下浸水3棟、道路冠水。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
平成	21	2009	7	22	大雨							三木市で土砂崩れ4ヶ所、三木市、加古川市、稲 美町で床下浸水計10棟、宝塚市で道路損壊1ヶ所。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
平成	21	2009	8	1	大雨							兵庫県南西部を中心にして、神戸市福崎町福崎で1時間雨量 69.5mm、丹波市柏原では1日の日降水量154.0mmを記録。浸水 家屋や土砂崩れ、冠水による道路通行止め、落雷による火災 が発生。山・崖崩れ21ヶ所。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
平成	21	2009	8	9	台風							播磨北西部を中心に大雨。佐用郡佐用町佐用で1時間降水量 89.0mm、兵庫県一宮では78.0mmを記録。死者20名、行方不明 者2名、負傷者7名、住居全壊165棟、半壊972棟、一部損壊2 棟、床上浸水335棟、床下浸水1493棟、土砂災害50ヶ所。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表
平成	21	2009	11	11	豪雨							前線を伴った低気圧により淡路島を中心に大雨。洲本市の由 良、相川組、物部、南あわじ市沼島で床下浸水23棟、南あわ じ市黒岩、洲本市中津川、洲本市千種で土砂崩れ。	神戸地方気象台兵庫 県災害年表

①中央気象台(1900-2002)「気象要覧」

②国立天文台編(2011)「理科年表 平成24年」丸善出版

※期間、気象値などは①、②の資料も参照した。

土地分類基本調査（土地履歴調査）  
説明書

大阪西北部

平成25年3月

国土交通省国土政策局国土情報課

土地分類基本調査（土地履歴調査）の成果は、国土交通省  
ホームページからご利用いただけます。